改訂

帝國地理教科書 全

明治三十一年二月發行

三省堂編輯

例言

一本書は、主に、尋常中學校、師範學校及び之と同等の諸學校に於ける、日本地理の教科用に充てんがために、編纂したるものなり。

一山名の右側に、

●●●の符號あるは、　海面上五千尺以上の高さ、

○○○の符號あるは、　海面上七千尺以上の高さ、

◎◎◎の符號あるは、　海面上一萬尺以上の高さ、

なることを示す。其の高さは、農商務省參謀本部等の地圖に就きて、正確ならんと信ずるものに從ふ。

一河名の右側に、

●●●の符號あるは、　本流三十里以上の長さ、

○○○の符號あるは、　本流四十里以上の長さ、

◎◎◎の符號あるは、　本流七十里以上の長さ、
なることを示す。其の長さは、主に内務省土木局編六十五大川流域誌、
或は、各府縣地誌に載する所に從ふ。
一都邑の右側に、
——の線あるは、　人口壹萬以上、
——の線あるは、　人口二萬五千以上、
‖の線あるは、　人口五萬以上、
なることを示す。其の人口は、明治三十年十月十六日官報號外に載す
る所に從ふ。
一本書は、主に國道旅行の體によりたれども、又、教師諸君の都合により、
鐵道旅行の體によらるゝも、決して順序に錯亂を生ずるなきを期し
たり。尚ほ、其の便に供せんがため、本州東區の後に、鐵道交通系の圖を

挿入せり。他の諸區の後に、鐵道交通系の圖を挿入せざるは、其れ等の
區内には、未だ鐵道の設け多からざるを以て、故さらに、之を挿入する
の必要なきによれり。
一天産物、産出高の比較、又産業の盛否等は、概ね最近五ヶ年間の統計に
よりて、其の平均に從へり。但し、其の中、年を逐ひて增大し、數年間の平
均を取る要なきものは、最近統計年鑑(第十六回)にある所に從へり。
一巻頭に、舊諸侯の祿高を記載せるは、略ぼ、これによりて、其の地の大小
等を推知する便あればなり。尤も、舊時祿高の多かりし所にて、現時
大に發達したるものあり。又、舊時祿高の少なかりし所にて、近時大に衰
微したるものあり。これ等は、必竟其の地の、地理的價値を有すると、否
とに由れり。而して、舊諸侯祿高の記載は、五萬石を以て限りとし、其の
以下は、一切之を省略せり。

一本書を教授せらるゝに方り、理學博士神保小虎・理學士山崎直方兩氏の共編に係る、大日本帝國全圖(大掛圖)を用ゐらるれば、最も便なるべし。何となれば、本書は、該圖と、凡ての地理的要素に於て、兩者相須たしめんと力めたるを以てなり。

一本書に於ては、各都市に就きて、其の發達の理由、古今盛衰の狀況及び他と比較しての地理的價値等を略論する考へなりしが、かくては、大に紙數を增す恐れあるを以て、單に都市の骨骼のみを示し、之に皮肉を與ふるは、教師諸君に一任することゝなせり

一本文中四號活字にて、一字下げに記しある分は、旅行の脇道に入りたるもの、若しくは、本文に關係ある註記なりと知るべし。又、五號活字にて記したる分は、主に各地方地勢物產の細說なるを以て、時間の都合によりては、之を省略して教授するも可なり。但し、六號活字の分は、便宜上、其の所に於て、我が國現時の軍備教育・宗教等の事を說きたるものなるを以て、省略するなきを要す。

改訂帝國地理教科書目次

總說……一
日本帝國……一
帝國の四面……二
帝國の近隣……四
帝國の海岸……五
帝國の區劃……六
特說……九
本州東區……九
本州東區の區劃……九
本州東區の交通系……一〇

東海道……一一
東京……一一
千葉茨城兩縣地方……一五
東京府埼玉神奈川山梨諸縣地方……一九
靜岡縣地方……三〇
愛知縣地方……三五
三重縣地方……三八
東山道……四一
滋賀縣地方……四一
岐阜縣地方……四四
長野縣地方……四七
群馬栃木兩縣地方……五〇
福島縣地方……五三
宮城岩手青森三縣地方……五五
秋田山形兩縣地方……六〇

北陸道……六二
新潟縣地方……六二
富山石川兩縣地方……六五
福井縣地方……六八
本州東區括論……六九
本州東區の海岸……六九
本州東區の地勢と山川……七三
本州東區の天產と產業……七七
本州西區……八一
本州西區の區劃……八一
本州西區の交通系……八二
東部（畿內、南海道の一部、及び中國の小部、）……八二
京都大阪兩府地方……八二

奈良・和歌山兩縣地方……九〇
兵庫縣地方……九四
西部（中國の大部）……九八
岡山・廣島兩縣地方……九八
山口縣地方……一〇三
鳥取・島根兩縣地方……一〇五
本州西區括論……一〇九
本州西區の海岸……一〇九
本州西區の地勢と山川……一一〇
本州西區の天産と産業……一一二
四國區……一一四
四國區の區劃……一一四
四國區の交通系……一一五

區內諸縣……一一五
德島・香川兩縣地方……一一五
愛媛・高知兩縣地方……一一八
四國區括論……一二一
四國區の海岸……一二一
四國區の地勢と山川……一二三
四國區の天産と産業……一二四
九州區……一二四
九州區の區劃……一二四
九州區の交通系……一二五
區內諸縣……一二五
福岡・佐賀・長崎三縣地方……一二六
熊本縣地方……一三二

大分宮崎兩縣地方……一三四
鹿兒島縣地方……一三七
沖繩縣地方……一四〇
九州區括論……一四二
九州區の海岸……一四二
九州區の地勢と山川……一四五
九州區の天產と產業……一四七
臺灣區……一四八
區內諸地……一四九
西部地方……一四九
東部地方……一五三
澎湖列島……一五三
臺灣區括論……一五四

臺灣區の海岸……一五四
臺灣區の地勢と山川……一五四
臺灣區の天產と產業……一五五
北州區……一五六
北州區の區劃……一五六
北州區の交通系……一五七
區內諸國……一五七
西部地方……一五七
東北部地方……一六〇
南部地方……一六二
千島地方……一六四
北州區括論……一六六
北州區の海岸……一六六

北州區の地勢と山川……一六八
北州區の天産と産業……一六九
全區括論……一七一
日本帝國の地勢……一七一
日本帝國の氣候……一七五
日本帝國の天産と産業……一七九
外國貿易と内地商業……一八五
帝國の政體と臣民……一八七

附錄

帝國の周圍面積人口表
畿道面積人口表
府縣別面積人口表
郡別面積人口表

本書所出の三千三百尺(一千米突)以上著名高山表
本書所出の本流二十里以上著名河川表
本書所出の周圍四里以上著名湖沼表
本書所出の人口一萬以上都邑表
貿易港表
師團、旅團、司令部所在地表
海軍區及び鎮守府所在地表

改訂帝國地理教科書

總說

日本帝國

日本帝國　我が神州大日本帝國は、東北より西南に亙れる群島の一體より成り、大八洲・美國・瑞穗國等の號あり。中に就きて、大島五あり、最北に在るものは、北州と名づけ、其の南に在るものは、本州と名づけ、本州の南に在るものは、四國と名づけ、本州の西南に在るものは、九州と名づけ、九州の西南に在るものは、臺灣と名づく。其の面積は、本州最も大にして、北州・九州・臺灣之に亞ぎ、四國最も小なり。之に隷屬せる著名なる島嶼には、北州の東に、千島群島、本州の北に、佐渡島・隱岐島、四國の東に、淡路島、九州の西北に、對

馬島・壹岐島あり。又、本州の南に、豆南七島・小笠原群島、九州の南に、琉球諸島、臺灣の西に、澎湖列島あり。全國を通じて、島嶼の總數凡そ五千にして、總面積大約二萬七千方里、人口略ぼ四千五百萬あり。之を帝都東京に比するに、面積は、略ぼ其の五千倍、人口は、略ぼ其の三十三倍に當たる。蓋し、我が國は、面積に於ては、世界に其の大を誇る能はざれども、人口に於ては、甚だしく遜色あるなし。

帝國の四面

我が帝國の東南兩面は、茫漠たる大洋にして、太平洋と稱す。大洋とは、海の大なるものゝ謂ひにして、太平洋は、世界の大洋中最も大なるものなり。又、北面の海は、日本海と稱し、潮汐極めて微なる所にして、冬日は、風濤荒く汽船の往來稀なり、概して、我が國に於ては、太平洋に面する部分は、常に土地隆起の傾向を有し、日本海に面する部分は、常に土地陷沒の傾向を有す。

北州の北の海は、オコツク海(OKHOTSK)と稱し、海上霧及び暴風多し。又、西面の海は、東海と稱す。而して、本州と四國との間は、瀬戸内海と稱し、幾多の島嶼碁布羅列し、風光明媚、宛も一幅の畫圖に似たり。

今若し、日本近海の底床六百尺隆起したることありと假定せは、九州と亞細亞(ASIA)東南部との間は、乾土となり、九州と亞細亞大陸と相連接すべく、四國は、又、本州に連接して、其の間に四百餘尺の高原を形現すべしと雖も、日本海と太平洋とは、尚ほ茫漠たる水面の狀を變ぜざるべし。蓋し、日本海の大部をして、乾土たらしめんには、七千二百尺の隆起なかるべからず。太平洋南西面の大部をして、乾土たらしめんには、一萬六千餘尺の隆起なかるべからず。而して、東面及び東南面の太平洋をして、乾土たらしめんには、二萬八千尺の隆起なかるべからず。該部面が、

斯くの如き異數の隆起を要するものは、必竟、其の處に、タスカ(TUSCA-RORA DEEP)ロラ海床と稱する、世界最深の底床あるを以てなり。又、南部太平洋にして、唯だ千二百尺の隆起ありたるときは、本州の東南部より一條の長半島を造出すべく、豆南七島及び小笠原群島の如きは、其の中に包まれて、本州に連接するなるべし。而して、オコツク海は、六千尺の隆起にて、能く乾土たらしむることを得べし。

帝國の近隣

帝國の近隣

日本海の西北には、西比利亞(SIBERIA)と稱する地域あり。露西亞(RUSSIA)國の領土にして、其の面積、帝國の略ぼ三十倍あり。同海の西の半島國は、朝鮮(チョウセン)(大韓)と稱し、古史に所謂三韓の地なり。其の面積帝國の略ぼ二分一に過ぎず。東海の西には、支那(シナ)(清)と稱する大國あり。其の面積帝國の略ぼ二十六倍あり。此の三國は、實に我が隣邦にして、政事上又商業上、我れと密接の關係を有し、我が國と共に、亞細亞(ASIA)亞洲の東部を占む。

北州の北端より見ゆる島は、薩哈連(サガレン)(Saghalien)又樺太(カラフト)と稱し、もと、我が國の領土なりしが、二十餘年前、千島群島と交換して、露西亞に與へ、今は、彼の國の所有に屬す。又、千島群島の北の半島は、東寒加(カムチャツカ)(Kamtchatka)と稱し、西比利亞の一部分たり。

帝國の海岸

帝國の海岸

太平洋を東に向かひて進めば、亞米利加(AMERICA)と稱する大地域あり。其の內の合衆國(UNITED STATES)と、我が國とは、交情甚だ密にして、貿易頗る盛んなり。又、太平洋を南に向かひて進めば、大洋洲(OCEANIA)と稱する所あり。大小の諸島散點棊布し、恰も星の如し。

帝國の海岸　帝國は、三連の弓狀をなし、凸面を以て太平洋に向かひ、凹面を以て亞細亞大陸に對す。大洋面は、海岸の屈曲甚だしけれども、大陸面は、其の出入極めて少なし。四國・北州・臺灣は、皆

な、海岸の屈曲稀少なれども、本州の南岸、九州の西岸は、海岸特に錯綜す。今、一日十里の行程を以て、本州の海岸を廻行するとせば、略ぼ、百九十五日を要し、北州の海岸を廻行するとせば、略ぼ、五十八日を要し、四國の海岸を廻行するとせば、略ぼ、四十五日を要し、九州の海岸を廻行するとせば、略ぼ、八十六日を要し、臺灣の海岸を廻行するとせば、略ぼ、三十日を要す。此の四大島を始め、其の他、全國大小の諸島嶼を悉く廻行するとせば、略ぼ、七百四十餘日の長月日を要するなるべし。又、千島群島より、斜に臺灣に旅行するとせば、略ぼ、百二十日を要するなるべし。

帝國の區劃

帝國の區劃　我が國は、現時、全國を一道・三府・四十九縣に分かつ、其の下に、又、郡・市・區・町・村あり此の外、天然の形勢によりて、全國を八十五國に分かち、之を大別して、畿内八道となす舊時は、畿内七道の制なりしが、明治の聖代に至り、北州を加へて、八道となれり。臺灣は、近時、支那國より獲たるものなるを以て、道の稱なし。

畿道の制は、往時、宮城の在りし京都近傍を、畿内とし、之を元として、東・太平洋に沿へる一帶の地を東海道とし、畿内の東・東海道の北に在る地を東山道とし、東山道西半部の北・日本海に沿へる地と其の附近の島國とを以て、北陸道とし畿内の西瀨戸内海に沿へる地を、山陽道とし、山陽道の北・日本海に沿へる地と其の附近の島國とを以て、山陰道とし、四國及び其の附近の島國と畿内南方の半島地とを以て、南海道とし、九州と其の附近の島國とを以て、西海道とし、北州と其の附近の島國とを以て、北海道とす。

本書に於ては、便宜上、本州（附近島國共）を二部に分かち、本州東區・本州西區とし、四國本地を四國區、九州及び其の附近の島國を九州區、北

州及び其の附近の島國を北州區、臺灣及び其の附近の島地を臺灣區とす。之を畿道の制に較すれば、本州東區は、東海・東山・北陸三道の地にして、本州西區は、畿內・山陰・山陽の全部及び南海道の一部なり。四國區は、南海道の大部にして、九州區は、西海道の地、北州區は、北海道の地なり。

本州東區の區劃

特說

本州東區

本州東區の區劃　本州東區に屬する國名は、左の如し。

東海道十五ヶ國（武藏・下總・上總・安房・常陸・相模・甲斐・伊豆・駿河・遠江・三河・尾張・伊勢・志摩・伊賀）

東山道十三ヶ國（近江・美濃・飛騨・信濃・上野・下野・岩代・磐城・陸前・陸奥・羽前・羽後。）

北陸道七ヶ國（若狹・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡（島）。）

又、此れ等の諸國に於ける、縣治上の區劃を示せば、次の如し。

府縣	國	府縣	國	府縣	國
東京府（トウキヤウフ）	武藏の一部、豆南七島、小笠原群島。	千葉縣（チバ）	安房、上總、下總の大部。	茨城縣（イバラキ）	常陸、下總の一部。

埼玉縣	武藏の一部。	神奈川縣	武藏の一部、相模。
靜岡縣	伊豆（豆南七島を除く）、駿河、遠江。	愛知縣	尾張、三河。
滋賀縣	近江。	岐阜縣	美濃、飛騨。
群馬縣	上野。	栃木縣	下野。
宮城縣	陸前の大部、磐城の一部。	岩手縣	陸中の大部、陸奥の一部、陸前の一部。
秋田縣	羽後の大部、陸中の一部。	山形縣	羽前、羽後の一部。
富山縣	越中。	石川縣	加賀、能登。
山梨縣	甲斐。	三重縣	伊勢、伊賀、志摩、紀伊半島の一部。
長野縣	信濃。	福島縣	岩代、磐城の大部。
新潟縣	越後、佐渡。	青森縣	陸奥の大部。
福井縣	越前、若狹。		

本州東區の交通系

帝都東京を元とし、諸道四方に分出す。西の方太平洋の沿岸地方を通ずるものは、東海道と稱し、西の方內地の中央部を通ずるものは、中山道と稱し、北の方本州東北部の中央地に至るものは、陸羽街道一に奥州街道と稱し、其の東北部の海岸地に向かふものは、濱街道と稱す。其の他、北陸道地方に、北國街道あり。鐵道、概ね、此れ等の街道に沿ふ。

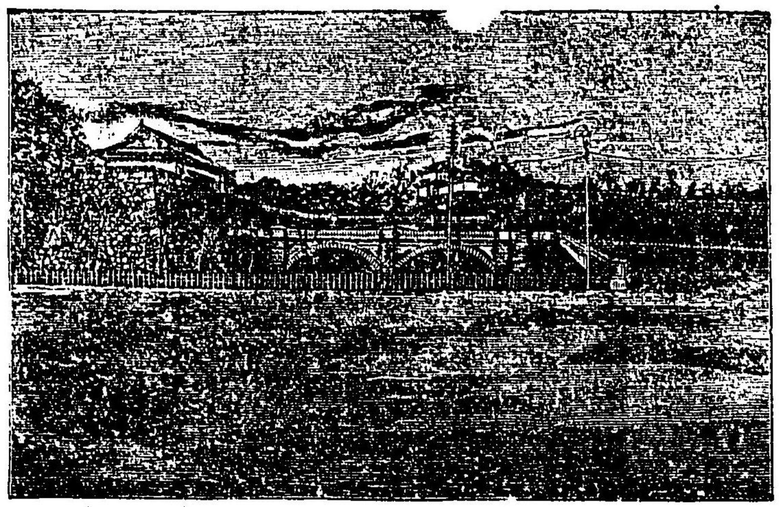
東京

今、諸子は、我が國の首都東京に在りて、此れより旅裝を整へ、遊歷の途に上るものと假定す。東京市は、武藏國の東南に位し、我が　天皇陛下の宮居し給ふ所にして、又、東京府廳の在る所とす。此の地は、古の所謂武藏野の東隅にして、もと、江戸と稱せしが、明治の初め、　皇居を、此に奠め給ふに及び、現稱に改め、爾來、中央政府の所在地として、政事の中心となり、商工百般の業盛んに行はれ、人口、凡そ百三十六萬ありて、殷盛全國に冠たり。隅田川、市

*麹町區・神田區・日本橋區・芝區・麻布區・赤阪區・四谷區・牛込區・小石川區・本郷區・下谷區・浅草區・本所區・深川區。

の東部を流れ、架するに數大橋を以てす。隅田川は、上流を荒川と云ふ。其の河畔、向島は、櫻花の美を以て、名あり。

市内を分かちて、十五區とす。宮城は、市の中央にありて、皇太子は、赤阪離宮に在ます而して、我が國の樞要なる官廳は、多く、宮城の内外に在り。宮城内に在る主なるものは、内閣・宮内省及び樞密院にして、宮城外に在る主なるものは、内務・外務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信の九省、帝國議會等なり。又、會計檢査

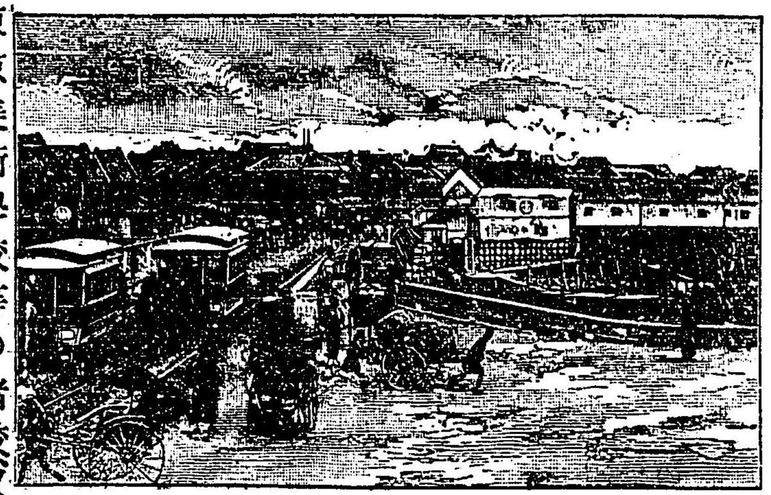


宮城之圖

*參謀本部・陸軍部・砲兵工廠・製絨所・陸軍大學校・砲工學校・士官學校・幼年學校・月山學校・乘馬學校・獸醫學校。

東京美術學校等の諸校、又、此に在り。

東京帝國大學は、法・理・醫・文・工・農の六分科より成り、又、大學院の設けあり。もと、大學は、東京に一あるのみ。



東京市中之圖

院・行政裁判所・警視廳等あり。宮城の西北に在る靖國神社は、戰死者の靈を祀れる所なり。

本市には、近衛師團ありて、聲下警衛の事に任ず。又、東部都督部及び第一師團の司令部あり。

陸軍の常備團隊は、近衛師團及び十二師團を以て、組織せらる。一師團の下に二旅團あり。又、都督部ありて、各師團を分轄す。都督部に、東部・中部・西部の三つあり。此の他、又、東京に、東京防禦總督部あり。

東京帝國大學・高等師範學校・第一高等學校・高等商業學校・東京工業學校・

みなりしが、近時又、之を京都に置けり。但し、京都帝國大學は、現時理工科の一科を設く。高等學校は、全國に其の數六あり。

公園は、上野・淺草・芝、其の名最も著はれ、星ヶ岡・富ヶ岡、又景勝を以て、聞こゆ。上野公園には、德川氏の靈廟・東照宮・動物園・博物館等あり。園内櫻樹多く、花時頗る美觀と稱す。淺草公園には、有名なる淺草寺ありて、域内常に雜沓す。又、芝公園には、德川氏の靈廟ある增上寺あり。

市内は、道路四通八達し、實に八百八町の名あり。到る所、人車馬車の來往織るが如く、主要の街路には、馬車鐵道の設けあり。又、日本銀行を始め、幾多の宏壯なる建築物あり。東海道鐵道・東北鐵道・甲武鐵道・總武鐵道等、皆な、端を此に發す。彼の、草より出でゝ草に入ると、詠ぜられし、武藏野の月も、今は、軒より出でゝ軒に入るに至れり。

千葉・茨城兩縣地方

土浦（土屋氏九萬五千石）

水戸（德川氏三十萬石）

德川光圀（大日本史）

吹く風を勿惡くの關とゝ思ひそ　もしなに敵ろ山櫻かな

市の産物は、紫染・筆・煙管・袋物・團扇・錦納・足袋・下駄等にして、近時製造工業大に進歩し、盛んに、諸機械・煉瓦・燐寸・石鹼・抄紙・硝子細工等を製出す。

千葉・茨城兩縣地方　東京を出で、濱街道に從ひて、東北に進めは、江戸川（利根川の支流）を渡りて、千葉縣の域に入り、酒・醬油を以て名ある土浦・石岡を過ぐ。此の邊に、大湖あり。霞ヶ浦と云ふ。北浦と相通ず。實に我が國第二の大湖なり。此れより進みて、水戸市に至る。此の地は、茨城縣廳の在る所にして、もと、德川氏の親藩を置きし所なり。地域、那珂川の畔に在りて、水戸煙草の名、世に高し。舊時、有名なりし弘道館及び偕樂園は、俱に舊模を存し、今は、公園たり。此の地より、魚類を近傍に輸出す。水戸より北行、久慈川を渡り、石炭積出の要港たる平潟近傍を過ぐれは、勿來關趾あり。源義家の詠歌

古河（土井氏八萬石）

岩井（平將門の國宮を殺けし地）

を以て、世に名高き所とす。濱街道は、此れよりして、東山道磐城の域に入る。

水戸偕樂園之圖

水戸より西行、筑波山の北を過ぎて進めば、結城紬を以て名ある結城に至る。筑波山は、此の地方の高山にして、男體・女體の雙峰並び聳ゆ。結城の西南に古河あり。古河より轉じて、又、千葉縣の域に入り、江戸川の畔に沿ひて、南行せば、里見・北條の古戰場なる國府臺あり。現時、此の地に、教導團を置く。

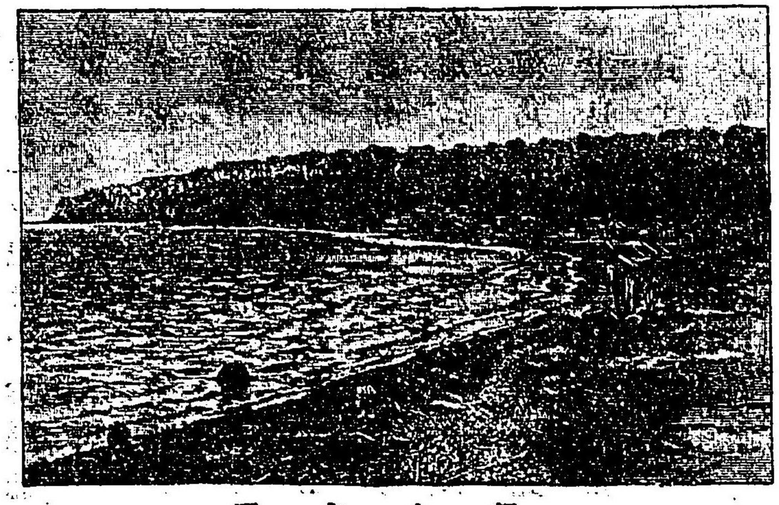
此れより千葉街道に出で、之に從ひて東南、船橋を過ぐれば、千葉に至る。此の地は、千葉縣廳の在る所にして、第一高等學校の醫學部あり。又、千葉氏二十餘世の城趾あり。千葉より、東北に進めば、佐倉あり。近傍、木炭を出だす。所謂佐倉炭是なり。此れより、成田に至れば、有名なる新勝寺あり。近傍に印旛沼あり。進みて、利根川の畔に出づれば、酒を以て名ある佐原あり。近傍、香取神社は、古來有名の靈社なりとす。佐原より、利根川に沿ひて下れば、銚子に至る。此の地は、漁業盛んなる所にして、銚子縮及び醬油を以て、名あり。其の海角を犬吠岬と云ふ。此の邊、暗礁多く、舟行危險なり。銚子は、地形上良港なれども、利根川の口に岩礁あるを以て、不便たるを免れず。此の地の西北、茨城縣の域に、鹿島神社あり。境内名勝多し。銚子より、沿岸地方を西南行せば、海岸線弓狀に彎曲するを見ん。其の海岸は、所謂九十九里の濱にして、鰮獵の盛んなる所とす。此れ

木内宗吾

佐倉（堀田氏十一萬石）

より、尙ほ西南行せば、小湊に至る。此の處に、誕生寺あり。即ち、日蓮誕生の故地とす。此の地の西北に、清澄山ありて、清澄の名刹其の中に在り。小湊より西南行すれば、館山あり。此の邊より、魚類を東京に輸出す。此れより、北條を過ぎ、鋸山及び鹿野山附近を經、富津洲近傍を通ずれば、木更津あり。鋸山は、頂形鋸齒に似たる名山にして、鹿野山は、景勝を以て、稱せらる。

白濱（里見氏基業の地）



鋸山之圖

千葉茨城兩縣地方は、即ち、下總・上總・安房及び常陸の地にして、其の南部の大半島は、常

東京・埼玉・神奈川・山梨・諸縣地方

水川神社（中山道の大宮に在り）

に、之を房總半島と稱す。地勢、概ね平坦にして、唯だ常陸の北部及び上總・安房の地に、山巒稍や重疊するを見るのみ。沿海甚だ水產に富み、漁獲の利頗る大なり。下總には、小金原・習志野等の原野あり。下總茶の名、世に高く、野田醬油・流山味醂・行徳鹽又、主要の產物たり。安房には、清澄山の西南に、嶺岡牧場あり。房州砂、又、世に稱用せらる。上總にては、家禽の飼養盛んなり。常陸にては、其の北部の山地に、寒水石の產あり。又、石炭を產す。煙草・西內紙、世に名高く、太田地方は、大に蒟蒻を產す。

東京・埼玉・神奈川・山梨・諸縣地方。 東京より北行して、荒川を渡れば、埼玉縣の域に入り、浦和に至る。此の地は、埼玉縣廳の在る所なり。其の東北（南北埼玉郡）の地方は、青縞を產す。

浦和の西北、荒川の沿岸附近に、熊谷あり。熊谷より西南行すれば、秩父地方に至るべし。荒川は、實に源を此の地方に發す。武甲山の麓に在る大宮は、生絲商業の中心にして、紡績の業盛んな

る所とす。秩父地方は、青石・石灰石・石綿・蠟石等を産し、秩父絹の名、又世に高し。

浦和より西北、荒川を渡れば、川越に至る。所謂川越平・川越薯の産地にして、近傍、所澤、又綿布の産多く、飯能邊には、斜子織を産す。川越より西南行すれば、青梅に至る。青梅は、木綿絲の製造盛んなる所にして、青梅綿の名、世に高し。此の地附近は、山嶽起伏し、御嶽・大嶽・大雲取等の諸山聳立す。五日市の織物、又世に名あり。此れより南行すれば、八王子に至る。八王子は、織物業の中心にして、商況殷盛なり。一樂織・風通織等を産す。此れより、多摩川の沿岸地方に就きて、下れば、東海道の往還に出づべし。

東海道の往還は、東京より南走し、大森を過ぎ、多摩川の口に於て、神奈川縣の域に入る。大森地方は、所謂淺草海苔の産地なり。

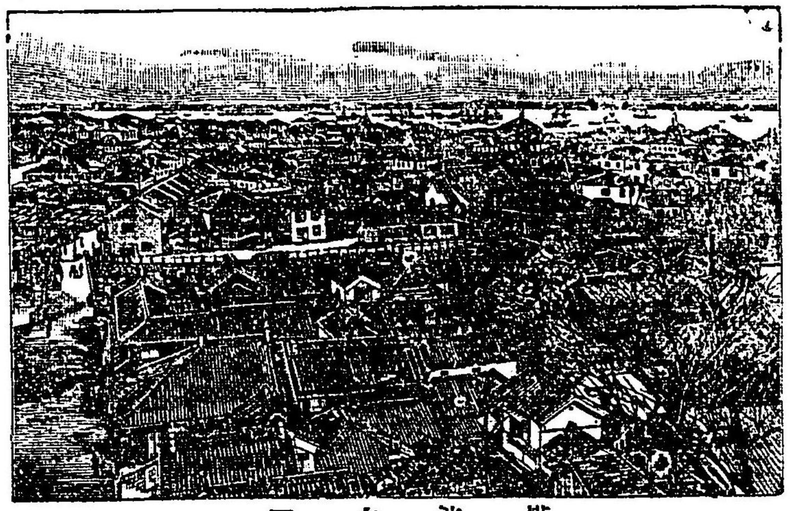
川越（松井氏八萬石）

泉岳寺（赤穂義士の墳墓）

本門寺（日蓮入寂の所）

矢口渡（新田義興）

第五の大都會となれり。本市は、普通貿易港の一にして、神奈川縣



横濱之圖

平間寺（川崎大師）

多摩川は、年魚を名産とす。其の上流より、長渠を東京に通ずるもの、即ち、多摩川上水にして、東京市人の飲料水たり。其の下流の流域には、盛んに梨を栽培す。

東海道の往還は、多摩川をわたり、進みて横濱市に至る。此の地は、もと、一漁村たるに過ぎざりしが、安政六年、之を開きて、外國人との互市場に宛てしより、著しく發達し、頗る繁盛を極むるに至り、今日に於ては、我が國

廳の在る所とす。外國人の居留するもの多く、内外の船舶常に輻輳す。蓋し、本市の繁盛なるは、實に東京の門戸をなすによる。此の地より、外國に輸出する主要品は、生絲・茶・絹布類・銅等にして、外國より、此の地に輸入する主要品は、綿絲・石油・砂糖・毛布・機械・雜貨等とす。

凡そ貿易港に、普通貿易港・特別輸出入港・特別輸出港の別あり。普通貿易港は、各條約國と、一般の通商貿易をなし得る港を云ひ、全國に、六港あり。特別輸出入港は、又、特別貿易港と稱するものにして、外國貿易のため、日本船舶の出入及び貨物の輸出入をなし得る港を云ひ、全國に、十八港あり。而して、朝鮮に限れるもの、五港、朝鮮・浦鹽斯德（ウラジオストク）・又は、支那に限れるもの、各一港あり。特別輸出港は、特別の物品に限り海外に輸出し得る港を云ひ、現時、米麥・麥粉・石炭・硫黄・木炭・セメント・硫酸・滿俺鋼・晒粉に限り、輸出し得るもの十一港あり。

横濱には、又、正金銀行稅關及び諸條約國の領事館あり。

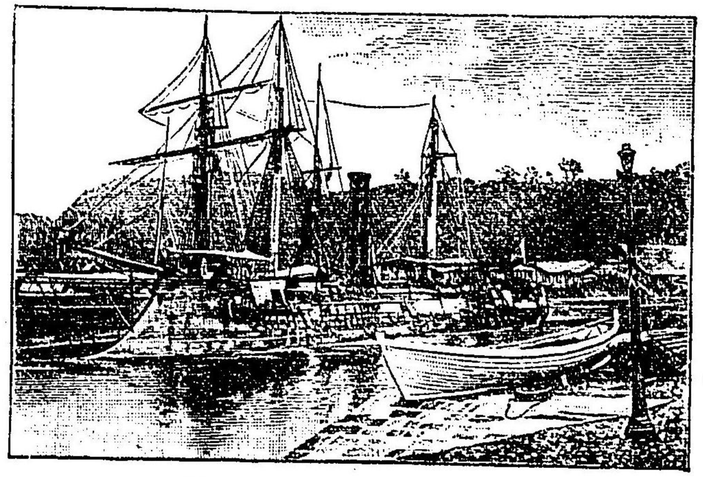
凡そ、稅關は、全國に、六箇所あり、現時、我が條約國は、二十一ヶ國にして、條約國の間には、彼我互に公使を置き、領事を派するを常とす。公使館は、概ね皆な東京に在りて、領事館は、多く横濱に在り。

横濱より西南、東海道の往還に從ひて進めば、鎌倉附近を過ぐ。鎌倉は、源頼朝の覇府を開きし所にして、其の當時は、武門政治の中心として、天下の實權此に聚まり、頗る繁盛を極めしが、今は、大に零落して、寂寞たる一寒村となれり。然れども、此の地附近、歴史上の舊蹟甚だ多し。鶴ヶ岡八幡宮・鎌倉五山の一なる建長寺・護良親王を祀れる鎌倉宮・長谷觀音・大佛等、最も著名なり。鎌倉宮背後の土窟・頼朝屋敷・北條屋敷・公方屋敷の趾及び頼朝の墓を弔ふものは、往時を追想して、一滴の暗涙なき能はざるべし。鎌倉の近傍、金澤は、金澤文庫の舊蹟ある所にして、金澤八景の名、又、世に高し。

鎌倉より東南行すれば、横須賀に至る。此の地は、軍港にして、第一海軍區の鎮守府ある所とす。又、巨大なる造船所ありて、數艘の軍艦常に碇泊す。横須賀灣は、内廣くして口狹く、恰も、括れる

*海軍大學校・海軍兵學校・海軍機關學校・海軍造兵廠。

*新田義貞の佩刀を、海に投じたる故地。龍口寺日蓮受難の舊蹟。



横須賀造船所之圖

鎌倉より*稲村ヶ崎附近を過ぎて、七里濱を通ずれば、左に江島を見る。此の近傍、頗る景勝に富む。此れより北行すれば、東海道往還の宿驛藤澤に出づ。此の處に、遊行寺あり。時宗の本山とす。西行、馬入川(相模川)を渡り、大山を望む。大山は、一に雨降山と稱し、山中に雨降神社あり。夏日、信者の登拜する者多く、俗に、之を大山參りと稱す。此れより西行、大磯を過ぐ。此の地は、夏日、海水浴甚だ盛んなる所なり。前面の海は、即ち、相模灘にして、蒼波渺漫、南方遙かに、豆南七島の一、大島を望む。

豆南七島は、伊豆の海上に散在せる群島の稱にして、大島を以て最大とす。島内に三原山あり常に煙を噴く。其の南に、利島・新島・式根島(新島の屬島)・神津島・三宅島及び御倉島次を以て羅列し、最南に、八丈島あり。八丈絹・八丈紬の名、世に高し。八丈島と御倉島との間に、迅急なる海流あり。黑瀨川、又、黑潮と稱す。濶さ、數十町に亙り、航海危險の處とす。豆南七島の、遙か南に方りて、又小笠原

群島あり。大小の諸島、凡そ九十、中に就きて、父島・母島を大とす。小笠原群島は、文祿二年、小笠原貞頼の、始めて發見せしものにして、椰樹・鳳梨・甘蔗・烟草等能く生育し、鱶・鯨・鳴龜等多く産す。豆南七島及び小笠原群島は、現時、東京府の管轄に屬す。

小田原（大久保氏十一萬三千石）

此れより西行、酒匂川を渡りて、小田原に至る。小田原は、後北條氏の居りし所にして、梅干・鹽辛を名産とす。漁業の利甚だ多し。此れより西行、石垣山附近を過ぐれば、箱根山の嶮道を通ず。石垣山の南に當たり、石橋山あり。

*小田原征伐の際、秀吉の陣營を構へし所

+源頼朝の大庭景親のために敗られし所

箱根山は、有名なる熄火山にして、其の山彙中に、駒ヶ岳・二子山・金時山等あり。溫泉諸所に噴出し、古來、來浴する者甚だ多く、實に避暑の仙境とす。山上に湖あり。蘆の湖と云ふ。其の水、清碧鑑の如く、近く富士の美峯を望む。其の山影の湖面に映ずるもの、

逆さ富士の名あり。湖中に、神代杉の名産あり。湖畔に、離宮あり。往時、此の山に關所ありしを以て、此れより以東の數國を、常に、關東と稱す。凡そ、火山に、二種の別あり。一は、活火山と稱し、一は、熄火山と稱す。活火山とは、現に、火烟・熔石等を噴出し、活動の作用盛んなるものを云ひ、熄火山とは、火山の形跡を存するも、有史以來、未だ曾て噴出したることなきものを云ふ。又、活火山にして、長時期の間、活動の作用を現出せざるものは、休火山或は睡眠火山の名あり。而して、火山は、其の形、概ね、圓錐形にして、其の物質を噴出する門口は、之を火口と稱す。彼の蘆の湖は、即ち、火口に、水の溜まりしものなり。

東海道鐵道は、東京より、概ね、東海道の往還に沿ひて來り、酒匂川近傍に於て、これに別れ、其の河谷に沿ひて、箱根山麓を迂回し、靜

野中氏（氣象觀測）

岡縣に入り、御殿場に至る。此の地より、須走口によりて、富士山に登るべし。此の山は、有名の高峯にして、直立一萬二千餘尺、形恰も倒扇の如く、四面形狀を同じうす。所謂休火山にして、中央に、舊火口あり。八峯周圍に駢列す。劍ヶ峯最も高し。東面の山腹に、一峯あり。寶永山と云ふ。南麓は、即ち、裾野にして、西麓には、所謂富士八穴あり。七湖諸處に散在す。箱根山上の蘆の湖と、共に、富士八湖の名あり。山上は、盛暑の候と雖も、尚ほ寒を覺ゆ。是れ高處は、空氣稀薄にして、太陽の熱をたもつこと能はざるを以てなり。天氣晴朗の日、四方を瞰下せば、平地に於て、高山峻岳と思ひし山も、宛も蟻垤の如く、此の山の兒孫たるに過ぎず。以て、當山の逸群の秀峯たるを知るべし。[illegible]

富士山より、吉田口に下り、西北に進めば、甲府市に至る。此の地は、

酒折宮（日本武尊の歌を詠ませ給ひし所）

山梨縣廳の在る所にして、頗る繁盛なり。躑躅崎は、即ち武田氏の據りて、以て、威を四隣に振ひし所とす。甲府より、笛吹川（富士川源流の一）を渡り、東に進めば、葡萄培養業の中心なる勝沼あり。武田勝頼滅亡の地なる天目山、其の近傍に在り。此の邊一圓、郡内と稱し、甲斐絹の名産地たり。猿橋驛の猿橋は、日本三奇橋の一と稱す。此れより、再び甲府に還り、北に行けば、御嶽山の金櫻神社に詣し、又、金峯山に上るべし。此の邊、多く水晶を産す。近傍に八ヶ岳あり。八峯突起す。此の山より南すれば、韮崎に至る。新府城趾は、當年、武田勝頼の築きて移りし所なり。此の邊の西方、即ち、甲斐の西境に方り、高山峻嶺相聳峙す。駒ヶ岳・白嶺等其の中に在り。

甲府より西南、鰍澤に出で、此れより、舟に乘じて、富士川を下れば、水勢急にして、行舟箭を射る如く、半日にして東海道の往還に達

す。

東京府及び埼玉・神奈川・山梨三縣の域は、即ち、武藏・相模・甲斐の地にして、東方及び海岸には、平地あれども、其の他は、概して山巒重疊し、殊に、富士の高峯あり。甲斐は其の形恰も擂鉢の如く、中央に、平原あり。其の底は、即ち甲府にして、國内各地の產は、一たび、此に集まり、而して後、又國内に分散す。武藏は、米麥能く登り、蠶繭紡績の業、近來盛んにして、製茶の業大に行はる。狹山の茶特に名高く、岩槻草練馬大根の名、世に聞こゆ。川口の鐵器、大森の麥稈細工、又名產たり。相模は、農作養蠶を以て、生計を營む者多く、沿海の民は、主に、漁業に從事す。秦野煙草・根府川石の名、世に聞こゆ。根府川石は、敷石、又は、石碑等に用ゆ。甲斐は、盛んに蠶を養ひ、大に絹布を產し、金・水晶等の鑛物・葡萄・柿等の果實あり。雨畑硯、又此の國の名產と稱す。

靜岡縣地方

箱根山を西南に下れば、靜岡縣の三島に至る。此の處に、三島神社あり。三島より南に進めば、北條氏の出身地たる北條を過ぐ。源頼朝の謫せられたる蛭ヶ小島、其の近傍に在り。此

靜岡縣地方

箱根山

れより、狩野川に沿ひて進めば、修善寺温泉附近を通ず。益す南すれば、天城山中を過ぎて、下田に至る。天城山は、山中良材に富み、附近椎茸・山葵を產す。下田は、良港にして、もと、開港場たりし所なり。此の地より、東京に石材を輸出す。下田より、伊豆の東海岸を北行すれば、熱海あり。此の地は、有名なる溫泉場にして、其の大湯は、晝夜六回熱湯を噴出し、頗る壯觀にして、所謂間歇泉たり。雁皮紙を名產とす。

下田より小汽船に乘じ、伊豆の西海岸を見て進めば、駿河の沼津に着す。沼津近傍の海岸は、青松白砂相映じ、風光甚だ佳なり。近傍に、江の浦港あり。頗る良港なれども、位置惡しきが爲め、更に發達せず。東海道の往還は、三島より、東海道鐵道は、御殿場より、共に沼津に來りて、兩者相會す。沼津より、田子浦の沿海地方を過ぎ、北に、

*此の地に源頼朝の幽せられし時修禪寺あり、及び頼朝の墓あり

沼津（水野氏五萬石）

富士山を望み、浮島沼近傍を經て進めば、富士川を渡る。昔し、平家の軍、此の邊に於て水鳥の音を聞きて、潰走せしと云ふもの、其の怯笑ふべし。富士川は、水源高く、傾斜急なるを以て、流勢甚だ駿し。これ、駿河國名の因りて起こる所以にして、實に日本三急流の一とす。河を渡り西南行名高き清見寺の下を過ぎ、三保松原の勝景を望み、清水港附近を過ぐれば、靜岡市に至る。

富士川より富士山を望む

清水は、特別輸出入港の一なり。此の港は、富士川より吐き出だす砂の爲め、漸次に遠淺となるの憂ひあれども、現時は、實に商業上の要港たり。此の近傍に、久能山あり。

靜岡は、靜岡縣廳の在る所にして、もと、駿府、又、府中と稱せり。往昔、德川家康の退隱せし地にして、實に東海道屈指の要區たり。漆器・竹細工を產し、又、製茶の賣買盛んなり。賤機山に、淺間神社あり。龍爪山巍然として、市北に聳立す。

靜岡より西南行すれば、安倍川を渡り、又、大井川を渡る。大井川は、駿遠の界を劃する大河にして、平日、水に乏しけれども、一旦、暴雨あれば、水量頓に增加す。其の川渡し

靜岡淺間神社之圖

*德川家康初鎭の地

*靜岡の近傍大岩臨濟宗の寺には、今川義元の墓あり

*燒津（日本武尊）の遺蹟御鎭火の御守護の以て大鎭ぶ難を免れ給ひし所

小夜中山

武田信玄と德川家康と大戰したる所

は、實に往時海道の壯觀と稱せり。此の川の上流地方に、赤石山・黑帽子山等あり。此れより西に進み、天龍川を渡れば、濱松に至る。天龍川の東岸に沿ひて進めば、秋葉山に詣ることを得べし。濱松は、遠江屈指の都邑なりとす。濱松の北に、三方ヶ原あり。此れより西に進めば、濱名湖あり。此の湖は、明應八年の大地震によりて、湖口切れて海に通じ、今日の如く、內海の形をなすに至れり。其の切れたる湖口を、今切と稱す。

靜岡縣の域は、即ち、伊豆・駿河・遠江の地にして、伊豆は、半島を成し、山巒至る所に鬱結し、土地磽确、民概ね、薪炭漁獵に從事す。沿岸、漁利甚だ多く、伊豆海苔・鰹節名產たり。駿遠の地は、北方一帶、山を負ひて深阻南するに從ひて、漸く平坦なり。富士・大井・天龍三大河の畔及び沿海の地は、田圃多く、農業盛んにして、安倍・大井兩河流域の北部は、製茶の業大に行はれ、安倍茶の名、世に高し。漁業は、大井川以南御前崎附近・天龍川以西に盛んにして、製鹽・製糖の業又行はる。駿河の半紙・蜜柑及び興津鯛、世に名高く、遠江の墨表及び椎茸、又名產の聞こえあり。

愛知縣地方

豐橋（大河內氏七萬石）

織田信長武田勝頼と戰ひし所

岡崎（本多氏五萬石）

今川義元織田信長と戰ひし所

野間村（源義朝の長男悪右衛門忠致の爲めに殺されし所）

愛知縣地方

今切を渡りて西に進めば、愛知縣の域に入り、渥美半島の頸部を橫過し、豐橋に至る。此の地は、舊名を吉田と云ふ。地域、豐川の河口に臨み、商業盛んなり。此の邊より、豐川稻荷に詣り、鳳來寺を拜し、又、長篠古戰場を弔ふべし。鳳來寺は、三河第一の靈場にして、煙岩山（鳳來寺山）中に在り。名倉紙、實に其の近傍より出づ。

豐川を渡り西北行せば、岡崎に至る。此の地は、德川氏創業の舊地にして、商工の業盛んなり。此れより、矢作川を渡り、知多半島の頸部を過ぐ。桶狹間の古戰場此の邊に在り。

知多半島の東海岸には、龜崎・半田・武豐等の地あり。此の邊醋・醬油及び清酒の產を以て、名あり。又、其の西海岸の常滑村は、常滑

名古屋德川氏六十二萬石

*德川家康の豐臣秀吉の軍を破りたる所

*德川家康の陣營ありし所

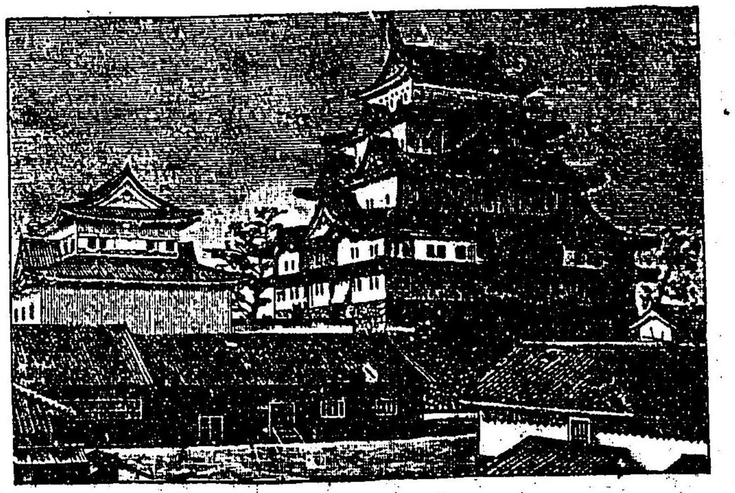
燒を以て、名高し。

東海道の往還は、此れより、熱田に至り、東海道鐵道と相分かる。熱田は、尾張地方より、伊勢の對岸に渡る要津にして、帆檣常に沐立す。此の地に、熱田神宮あり。社内に、草薙の御劍を藏む。熱田の北方に、名古屋市あり。此の地は、往時、德川氏の親藩を置きし所にして、我が國第四の大都會なりとす。愛知縣廳此に在り。鐵道交通の中心點をなし、運輸の便甚だ宜しく、商工業共に盛んなり。名古屋城は、金鯱を以て、世に名高く、今は、第三師團の司令部此に在りて、其の牙城は、離宮となれり。陶器・扇子・織物等を名産とす。紡績の業近來盛んなり。市の東北に、瀨戸村あり。此の邊は、所謂瀨戸燒の産地なり。近傍に、長久寺の古戰場あり。又、名古屋の北方に、小牧山ありて、其の北に、犬山燒を以て名ある、犬山あり。名古屋の西、上中村は、

沐鳥神社

共目寺

豐臣秀吉出生の地なり。



名古屋城之圖

東海道鐵道は、熱田より、名古屋を經て、清洲一の宮を過ぎ、木曾川を渡り、岐阜縣の域に入る。清洲は、織田氏の曾て居城せし所なり。東海道の往還は、熱田より、伊勢海頭の沿海地方を廻走し、木曾河口に於て、三重縣の域に入る。

愛知縣の域は、三河尾張の地なり。地勢概ね、平坦にして、地味肥沃なり。唯だ、東北の地、山岳重疊すれども、甚だしき高山なし。其の三河の名あるは、豐川・矢作・大平の三河あるに由る。住民は、農耕・機織を業とし、沿海の民は、漁業に從ふ。近時、製茶・養蠶の業大に

開け、尾張大根、尾張米の名、世に高く、鳴海絞有松絞、名産と稱す。佐久島の海鼠腸、又名あり。三河は、木綿及び御影石を以て、名産とす。

三重縣地方（桑名（久松氏十一萬石））

三重縣地方

東海道往還の三重縣に入るや、蛤、白魚の名産地たる桑名を過ぐ。桑名は、美濃、尾張の商人、常に往來して、商業盛んなり。桑名より、伊勢海の西岸に沿ひて、南行すれば、四日市あり、即ち、特別輸出港の一にして、又、特別輸出入港の一たり。此の港よりは、盛んに米を輸出する目的なりしが、有名無實なるが如し。此の地と横濱との間には、常に、定期汽船の往來あり。且つ、熟田と海路相通じて、船舶の往來頻繁なり。商工業、共に盛んにして、紡績、製紙の業、大に行はる。此の邊、萬古燒を産す。此れより、能褒野近傍を過ぎて、亀山に至る。能褒野には、日本武尊の御陵あり。此れより西すれば、鈴鹿峠を越えて、滋賀縣の域に入る。鈴鹿山は、天武天皇の

（上野（藤堂氏）の舊本府）（一身山の寺、伊賀寺、高田派の本山（藤堂氏三十二萬石））（南朝の忠臣結城宗廣を祀る。山室山神社（本居宣長を祀る））

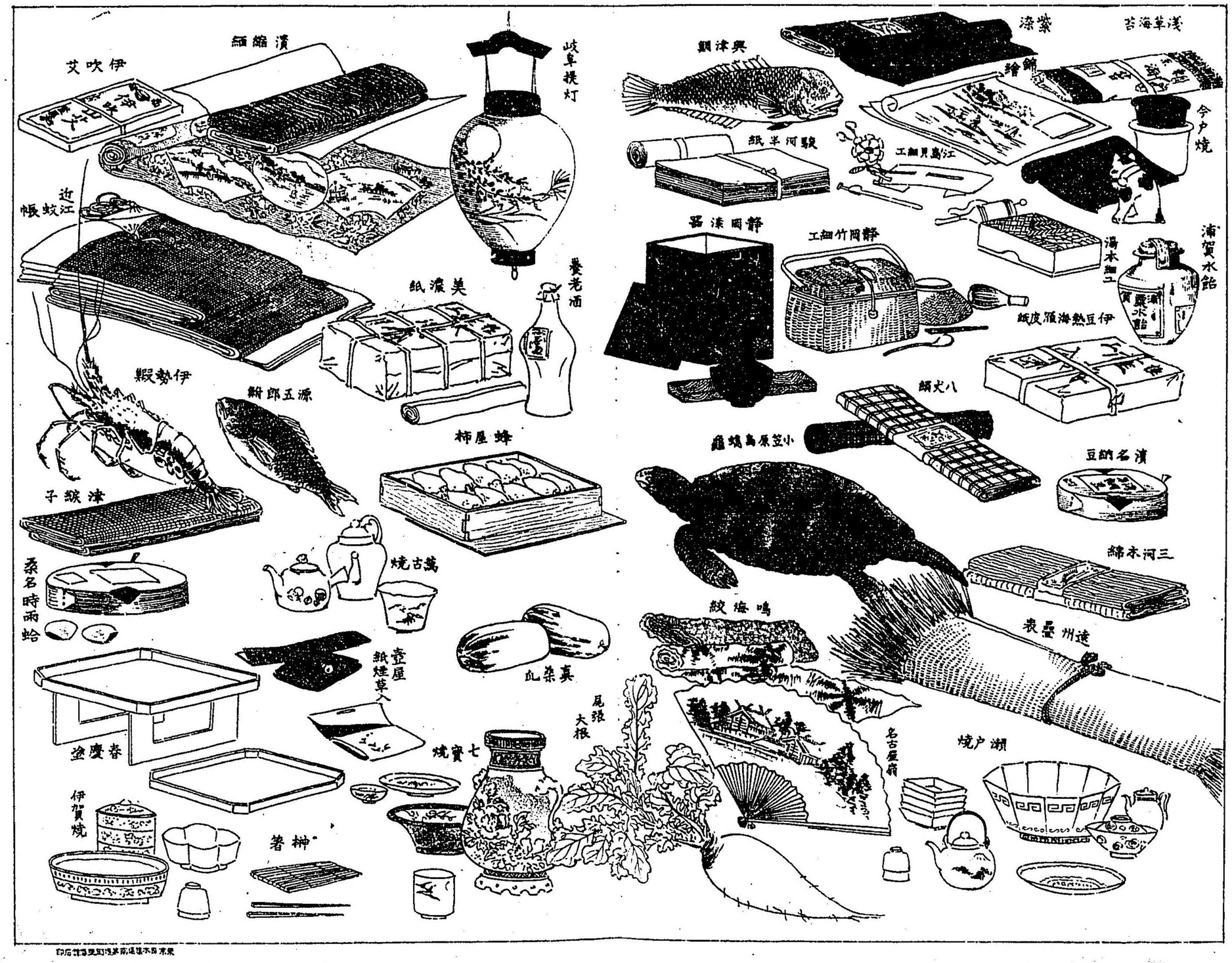
時、鈴鹿關を置かれし舊址にして、山中深溪幽谷多く、俗に、八百八谷と稱す。此の邊の西南に方り、上野あり、伊賀第一の都邑にして、傘を名産とす。亀山より東南行せば、津市に至る。此の地は、上古三津の一と稱せられたる所にして、一に安濃津と稱す。現時、三重縣廳此に在りて、縮子紗を産す。近傍に、結城神社あり。津より、阿漕浦附近を過ぎて、南行すれば、松阪縞を以て、名ある松阪に至る。此れより、櫛田川、宮川を渡れば、宇治山田あり。即ち、皇大神宮、豐受大神宮の鎮

座まします所にして、神聖無二の靈地たり。因りて、神都の稱あり。皇大神宮は、常に、內宮と稱するものにして、天照大神を奉祀す。東南の丘陵を神路山と云ひ、五十鈴川其の麓を繞る。豐受大神宮は、常に、外宮と稱するものにして、豐受大神を奉祀す。共に、宏大なる神苑ありて、之に屬す。諸國より來りて參拜する者、四季絕ゆることなし。之を參宮又伊勢參りと云ふ。春慶塗及び柳、御山杉の細工を、此の地の名產とす。朝熊山、二見の浦、近傍の勝地たり。二見の浦には、危岩怪礁起伏し、夫婦岩頗る著名なり。

凡そ、神社の階級は、神宮を最高とし、官幣大社、官幣中社、官幣小社之に亞ぐ、別格官幣社、國幣中社、國幣小社之に亞ぐ、府縣社、鄕社、村社等其の下に在り。凡そ、我が國の主なる宗教は、神道、佛道及び基督教にして、神道には、神道大社教、實行教、修成教、神宮教、扶桑教、出雲教、大成教、御嶽教あり。佛道には、天台宗、眞言宗、淨土宗、臨濟宗、曹洞宗、黃檗宗、眞宗、日蓮宗、時宗、融通念佛宗、法相宗、華嚴宗あり。基督教には、新教の兩派あり。

鳥羽（岡垣氏三重石）

宇治山田より、東方に方り鳥羽港あり。天然の良港なれども、陸路



印刷者 東京市本郷区南元町十番地 東京印刷株式会社

の交通不便なるを以て、物貨の出入盛んならず、鳥羽の西南紀伊の地に、北山川あり、其の沿岸に、瀞八町と稱する所あり、風景の美なること畫圖も及ばず。

三重縣の域は、西部一帶、山を負へども、沿海の地は、平坦にして土壤肥沃、產する所の伊勢米、品質佳良を以て稱ぜらる、又、菰野茶の產あり、寺家の形紙、壺屋紙、名產と稱す、伊賀は、山岳四周、民多く薪炭を業とし、伊賀燒の名、世に聞こゆ、伊賀燒は、主に、丸柱村より產す、縣內の沿海は、大に漁利に富み、鰹、鯛、鰤、鯛、鰕、海草等の收獲多く、志摩よりは、眞珠を出だす。

東山道

滋賀縣地方

三重縣より、東海道の往還により、滋賀縣に入り、西北行せば、草津に至る。東海道鐵道、愛知縣より岐阜縣を經、此の地に來りて、東海道の往還と相會す。草津より、琵琶湖南の地方を通ずれば、源義仲戰死の地なる粟津原を過ぎて、大津に至る。此の

滋賀縣地方

石山寺（寺內に紫式部が源氏物語を著はしたと稱する源氏の間あり）

義仲寺（內に義仲の墓及び義仲の屍を松尾に葬る）

芭蕉の墓あり

地は、滋賀縣廳の在る所とす。地域、琵琶湖に瀕し、商業頗る盛んにして、湖畔諸所と、汽船往復の便あり。

琵琶湖は、鴻の海と稱す。周回、凡そ六十里、海面上、略ぼ三百三十尺の處に在りて、其の最深の所、又同尺と稱す。西方には、比叡山、比良岳聳峙して、殆んど湖畔に迫る。實に、我が國第一の大湖にして、湖中に竹生島・多景島・沖の島・奥の島等あり。奥の島、最も大にして、竹生島最も景勝に富む。湖中の水は、勢多川・宇治川・淀川となりて、大阪灣に注ぐ。近年、疏水工事の業成りて、京都市民、大に此の湖の恩澤に浴す。傳へ云ふ、此の湖は、孝靈帝の世、富士山と、共に、一夜に生じたりと。湖中、鯉・鮒・鱒等を産す。源五郎鮒の名、世に高し。

大津宮址（天智天皇）

大津の近傍には、勝地甚だ多く、所謂近江八景、世に名あり。大津より、三井寺に詣し、湖西地方を通ずれば、日吉神社に詣し、又比叡山に上るべし。比叡山上には、延暦寺あり。實に天台宗の本山とす。

下坂本（明智光秀の城址）

僧最澄の開創

中山道は、東海道と、共に、京都より、大津に來り、草津に於て、相別る。今、草津より、概ね、中山道に從ひて、進めば、近江富士の名ある三上山を望み、野洲川を渡る。野洲川原にては、晒布を製す。蚊帳地を以て名ある八幡近傍を過ぐれば、愛知川及び犬上川あり。此の邊、生平を産す。此れより、湖東の小都會彦根の近傍を過ぎ、東北行すれば、岐阜縣に入る。近傍に伊吹山あり。伊吹艾の名、世に高し。

平宗盛の墓（條原邊に在り）

安土城址（織田信長）

彦根（井伊氏二十五萬石）

彦根近傍より、中山道を離れ、湖東地方を北行すれば、長濱に至る。此の地は、豐臣秀吉の曾て居城せし所にして、北國に至るの要路に當たるを以て、市況繁盛なり。所謂濱縮緬を産す。此れより、北に進めば、姉川を渡り、餘吾湖の近傍を過ぎ、柳ヶ瀬を經て、北陸地方

織田信長の淺井朝倉と兵を交へし

に入る。餘吾湖の南に、七本槍を以て有名なる賤ヶ岳あり。

滋賀縣即ち、近江の域は、四疆に、山嶽連亙すれども、中央は、低窪にして、琵琶湖殆んど全國の半ばに居る。諸川、平日は、水なけれども、一旦、豪雨あれば、水流忽ち漲る。信樂川の兩岸は、所謂信樂鄕にして、孝謙帝の宮址あり。地味、茶に適す。湖西の阿彌陀山よりは、硯石を出だす、世に、高島硯と云ふもの、是なり。近時、此れより、又、石盤を製す。縣民は、多く、農業を事とし、江州米の名、世に高し。而して、此の國には、豪商多く、平素節儉を守り、質樸を主とし、四方に往來し、物貨の有無を交易す。近江商人、又、日町商人の名、夙に世に聞こゆ。

大垣戸田氏十萬石

岐阜縣地方

岐阜縣地方

滋賀縣より、中山道によりて、岐阜縣に入り、東行すれば、不破關舊趾の近傍を過ぐ。此の邊は、即ち關ヶ原の域にして、徳川氏が、大に、石田三成等の軍を破りし古戰場とす。關ヶ原は、即ち、不破野にして、又、靑野原と云ふ。此れより、東行、大垣に至る。此の地は、繁盛なる都邑にして、桑名と、通舟の便あり。大垣城は、關ヶ原の役、西軍の根據たりし所にして、今尙ほ、天主閣を存す。大垣の

西南、多度山中に、養老瀧あり。古來有名のものとす。

大垣より、揖斐川及び長良川を渡れば、岐阜市に至る。此の地は、岐阜縣廳の在る所にして、金華山（稻葉山）市東に聳え、山頂に織田信長の古城趾あり。提燈美濃紙等を名產とす。近傍、盛んに、蠶絲を產し、縮緬を製す。長良川は、年魚に名あり。夏夜、鵜を放ちて之を捕ふ。甚だ美觀とす。東海道鐵道は、名古屋より、此の地に來り、略ぼ、中山道に從ひて進み、草津を經て、畿內地方に向かふ。

長良川鵜飼之圖

岐阜より東北行し、飛騨川の沿岸地方を通ずれば、高山に至る。其の間に、中山七里と稱する景勝の地あり。高山は、飛騨第一の都會にして、風景甚だ美なり。地域高く、氣候寒冷にして、人家は皆な板屋なり。近郷より、此の地に、諸物を運搬するには、冬日雪の積もるを待ち、橇を以て致す。位山南に聳え、一位細工の名、世に高し。

岐阜より、木曾川の沿岸地方を東行せば、地域漸次に高きを加へ、惠那山の支脈を横過し、長野縣の域に入る。

岐阜縣の域は、即ち、美濃飛騨の地なり。南方は、地平かにして、尾張と、共に、所謂尾濃平野を成せども、北方は、山岳重疊し、地位甚だ高く、所謂濃飛高原を形成す。從ひて、氣候甚だ寒く、降雪丈餘に及び、五月花開き七月麥熟す。飛騨は耕耘をなすべきの地少なきが故に、人民主に紡織及び森林鑛山の業に從事せり。白川郷は養蠶盛んにして、往時は、山中の通路に籠渡し藤渡しあり。今尚ほ、其の一二を存す。美濃南方の平原地は、屢ば水害の憂ひあり。又往年、大地震の變ありて、諸村、大に其の害を蒙れり。其の產する所の美濃紙は、紙質精良堅實にして、肌理細緻、仮取川沿岸の村々より、多く之を抄出す。又、蜂屋柿、眞桑瓜、世に名あり。蜂屋柿は、太田近傍蜂屋の名產にして、眞桑瓜は、大垣の東北眞桑の名產たり。羽栗郡中島郡邊にては、美濃燒を產し、土岐郡邊にては、美濃燒を製す。產額甚だ多し。隣の打物、又世に名あり。

長野縣地方

長野縣地方　駿河床の勝（上松近傍）木曾後道（藪上松間）藪島の間木曾義仲城跡（宮瀬）

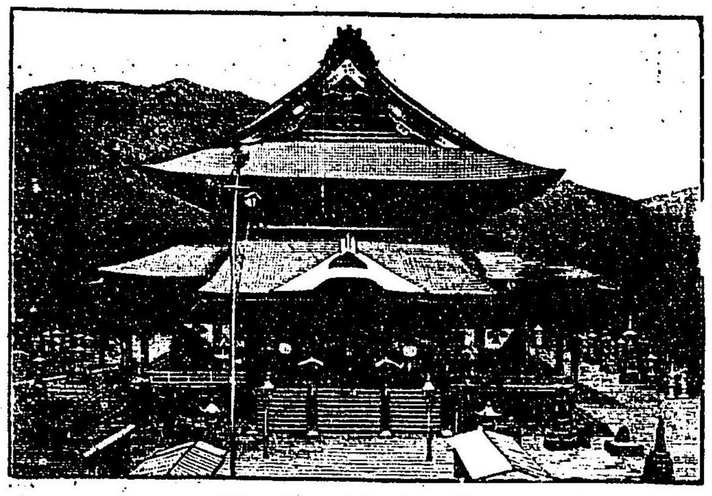
岐阜縣の境を出で中山道に從ひて進めば、其の道、木曾の山道を通じ、信濃國の中央部に於て、東折す。其の間、或は、右方に、駒ヶ岳を望み、或は、左方に、御嶽を望む。御嶽の北には、乘鞍嶽、鎗ヶ嶽、穗高山等の高山あり。此れより、鹽尻峠を越え、諏訪湖近傍を過ぐ。此の湖は、嚴冬氷を結びて、人馬、其の上を往來す。實に天龍川の源なり。

天龍川の畔に從ひて南行せば、飯田に至る。即ち、元結の名產地なり。

上田（藩井氏五萬三千石）

此れより、和田峠を越え、千曲川（信濃川源流の一）の上流を渡り、淺間山の麓に沿ひて、碓氷峠を越え、群馬縣の域に入る。碓氷峠は、日本武尊が吾嬬也と、嘆じ給ひし所にして、箱根山と、東西相對して、關東の境を成す。」

千曲川の流れに從ひ、其の沿岸地方を通ずれば、上田縞を以て名ある上田を過ぎ、觀月の名所なる姨捨山の近傍を經て、長野市に至る。此の地は、長野縣廳の在る所にして、有名なる善光寺あり。此の邊に於て、千曲川、犀川と相會ひて、信濃川を成す。其の相會ふ處、即ち、川中島にして、武田上杉



善光寺之圖

松本（松平氏六萬石）

兩氏が、屢ば雌雄を爭ひし古戰場なり。長野の西北に方り、飯綱山及び戸隱山あり。長野より、犀川千曲川の間を通じ、西南行せば、松本に至る。此の地は、信濃の南部と、越後地方との貿易の中心地なり。

長野縣は、信濃の地なり。境域、十箇國に接し、地勢頗る高く、山脈四境を繞り、峯巒國中に蟠る。然れども、域内、自ら平地ありて、天然上、六區を成す。北方戸隱山の東南に在るを、善光寺平と云ひ、東方淺間の南麓を、佐久平と云ひ、南方駒ヶ岳の東を、伊那谷と云ひ、其の西駒ヶ岳と御嶽との間に在るを、木曾谷と云ひ、中央の西部、穗高山の東なるを、松本平と云ひ、和田峠の東南に在るを、諏訪平と云ふ。木曾谷には、木曾山林あり。古來、良材を產し、木曾川により之を送出す。往時、名古屋藩に屬せしとき、五木禁伐の制を立てたることあり。五木とは、扁柏、花柏、羅漢柏、鼠子、金松にして、後、檜を加へて、六木となせりと云ふ。此の谷にては、扁柏細工、櫛漆器等を產し。又、木曾駒の名、世に聞こゆ。源義仲は、實に、此に起これり。概して、信濃にては、養蠶業甚だ盛んにして、蠶卵紙の產出に富み、生絲、眞綿多く出づ。

群馬・栃木兩縣地方

群馬・栃木兩縣地方

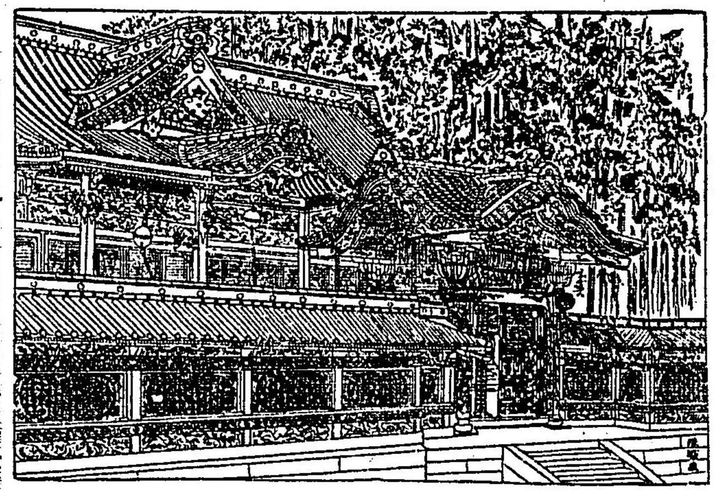
碓氷峠を越え、群馬縣の域に入り、中山道に從ひて東に進めば、妙義山の北を過ぎ、高崎に至る。妙義山は、奇岩怪石を以て、名あり。高崎は、製絲の業盛んなり。中山道は、此れより東南行し、東京に至る。

高崎市（人口八萬二千石）

高崎より東北に行けば、前橋市（松平氏十七萬石）あり。此の地は、群馬縣廳の在る所にして、利根川其の西を流る。生絲商業の大市場にして、前橋生絲の名、世に高し。此の地の東北に、赤城山あり。又、西方に、榛名山あり。妙義山と、共に、上野三山と稱す。榛名山の東北腹に、伊香保溫泉場あり。又、古來、有名なる草津溫泉場は、此の地の西北遠距離の山地、即ち、白根山の東に在り。

前橋より、伊勢崎縞を以て名ある伊勢崎を經て、渡良瀬川（利根川の支流）を渡り、機織の業盛んなる桐生を過ぐれば栃木縣の域に入り、足利

絹を以て名ある足利を過ぐ。此の地に、足利學校（小野篁の創立）の舊蹟あり。足利の近傍に、太田あり。太田の金山は、新田氏の城趾（唐澤山、藤原秀郷の城趾）ある所とす。足利より東、鍋・釜の製造及び木綿織物業の盛んなる佐野及び麻絲を產する栃木を過ぐれば、奥州街道に會す。奥州街道は、東京より、栗橋・古河を經て此に來るものとす。此れより、奥州街道に從ひ北行すれば、宇都宮市（宇都宮の東南、物部村に高田寺あり）に至る。此の地は、栃木縣廳の在る所にして、日光に至るの道、此れより西に岐る。日光は、古來、有名の地にして、東照宮の壯麗、帝國に比なし。日光を見ず



日光靈廟之圖

して、結構を云ふ勿れ」との語、以て、其の美を推知すべし。近傍に華嚴瀑・霧降瀑・裏見瀑等の勝あり。此の地、漆器及び人參を産す。

日光山とは、男體山・白根山等の總稱にして、男體山の麓に中宮祠湖あり。又、中禪寺湖と稱す。湖邊より南下せば、足尾銅山を觀るべく、又、庚申山に登り、石橋洞門の勝を探るを得べし

宇都宮より、鬼怒川・那珂川の上流を渡り、那須源を過ぐれば、福島縣の域に入る。那須・岳此の近傍に在り。

鹽原温泉

穀生石、

群馬・栃木兩縣の域は、上野・下野の地にして、之を總稱して兩毛地方と云ふ。地勢、西北部は、山巒重疊すれども南方及び東部は、地平かにして、開豁なり。即ち、上野にては、前橋以南の地は、平野沃土にして、村里皆桑を植ゑ、蠶を養ふ。富岡製絲場世に名高く、新町には、又、紡績所あり。從ひて、各種の織物を出だすこと甚だ多し。下野は、地味麻に適し、又、眞岡木綿世に名あり。且つ、銀の産出あれども、銅産は、實に、皇國中に比なし。

福島縣地方

二本松（丹羽氏十萬石）

三春（秋田氏五萬石）

若松（松平氏三十二萬石）

福島縣地方

栃木縣の境を出で、奥州街道に從ひて、進めば、白河に至る。此の地は、馬の市場にして、東南・古關村は、昔時、白河關の在りし所なり。此れより阿武隈川の流域に入り、東北行すれば、須賀川・郡山・二本松等を過ぐ。此の邊、製絲の業盛んなり。二本松は、紬の名産地にして、白河と共に、戊辰の激戰地なり。又、郡山の近傍、三春邊は、馬を産す。所謂三春駒是なり、駿足にして、最も騎乘に適す。

郡山より西、猪苗代湖邊を通ずれば、若松に至る。此の地は、會津平と稱する卵形の平原の略ぼ中央に位し、會津塗・會津蠟燭を名産とす。此の地、又、戊辰の戰史上に名あり。此の邊、多く人參を産す。猪苗代湖は、湖上汽船の便あり。湖邊より仰げば、即ち磐梯山を見る。

二本松より北行すれば、福島に至る。此の地は、福島縣廳の在る所

にして、生絲・蠶卵紙商業の中心地とす。往年、噴火せし吾妻山は、此の地の西に在り。此れより、東北に進めば、宮城縣の域に入る。此の道の東に方りて、*靈山あり。北畠氏の城趾ある所とす。又、其の街道の西方に、有名なる*半田銀山あり。

*靈山神社北畠顯家を祀る

濱街道は、東京より、水戸を經、勿來關趾の邊を過ぎて、福島縣の域に來り、平を過ぎ、中村を經て、宮城縣の域に入り、奥州街道と相會す。平の西に、閼伽井岳あり。夜々陰火あり、山上に向かひて點飛す。中村は、相馬燒を以て、名高し。相馬燒は、一に、龜裂燒と稱し、器毎に、馬形を印す。平の南小名濱邊は、漁利多し。此の邊の山脈、石炭に富む。其の採取する所、鐵道開通前には、多く小名濱より船にて、東京地方に輸送せり。

*中村（相馬氏六萬石）

福島縣の域は、即ち、岩代及び磐城大部の地なり。奥州街道の通ずる所、即ち、阿武隈川の巨流に沿へる地方は、田圃沃壤多く、蚕る蠶桑の利に富めり。其の東方は、小山脈蜿蜒起伏すれども、沿海地方は、平坦にして、魚鹽の利多し。而して、西部地方は、峯巒重疊し、山勢甚だ高峻なれども、又、會津平の沃野ありて、大に米穀を產す。縣民は、主に、農業及び養蠶に從事し、阿武隈川の沿岸地方、蠶卵紙に名あり。三春煙草・磐城延紙、名產と稱す。又、川俣絹の名、世に高し。

*宮城・岩手・青森三縣地方（仙臺伊達氏六十二萬五千石）

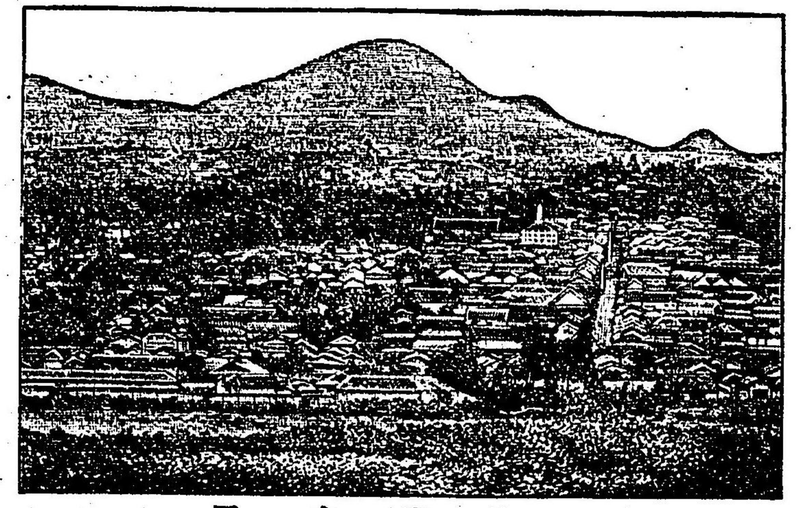
宮城・岩手・青森三縣地方

福島縣の境を出で、宮城縣の域に入り、奥州街道に從ひて進めば、名取川を渡り、仙臺市に至る。此の地は、東北地方第一の大都會にして、宮城縣廳の在る所とす。青葉城趾に第二師團の本營あり。經ヶ峯に、伊達政宗以下三代の靈廟あり。頗る壯觀と稱す。現時、此の地に、第二高等學校を置く。古來、有名なる宮城野は、城東に在り。仙臺平・仙臺味噌世に名高く、八橋織・埋木細工・葛籠、又、此の市の名產とす。其の埋木は、即ち、名取川の產なり。往昔、白河關ありしころは、近傍諸地の物產、概ね皆な、此に集

*燕澤羅古碑（元の僧の建つる所）

*天平寶字六年に建てしもの

まりしと云ふ。



仙臺之圖

仙臺より東北行せば、鹽竈に至る。此の地に、鹽竈神社あり。近傍に、多賀城の古趾あり。*壺碑、此に建つ。碑上には、京其の他諸地への距離を載す。此の近傍に、松島あり。海水深く灣入して、一の內海をなし、數百の群島、其の中に星羅棊布し、大島小嶼悉く松を戴き、風光頗る明媚なり。實に海內有數の勝地にして、所謂日本三景の一に居る。鹽竈より、汽船にて東に進めば、野蒜を經て石卷に至る。此の地は、北上川の河口に在り。商業活潑にして、汽船常に北上川に往來し、其の上流地方物產の、天然的出口を成す。石卷の東南に方り、荻濱港及び金華山あり。金華山は、昔時、陸奧山と稱せり。山勢高峻、五峯に分かれ、遙かに、下總の犬吠岬と相對し、眺望頗る壯快なり。

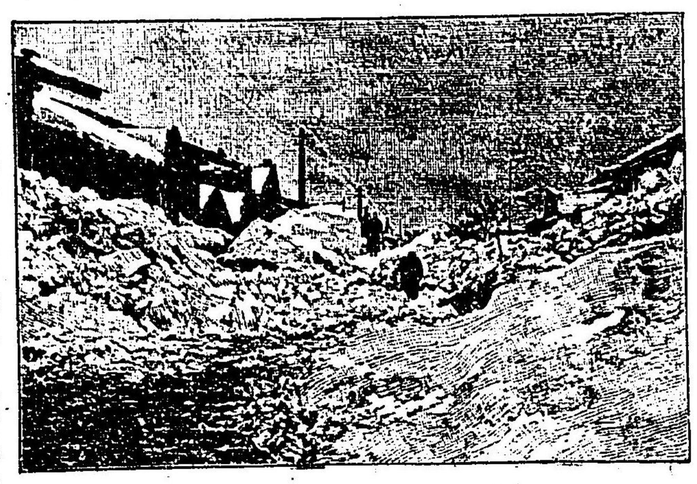
松島之圖

仙臺より、奧州街道に從ひて進み、鳴瀨川を渡り、左に栗駒山を望みて、北行すれば、岩手縣の域に入る。栗駒山は、其の狀恰も、斑馬の雲表に奔騰するがごとし。故に又、駒

形山と云ふ。此れより、養蠶業の盛んなる一關を過ぎ、衣川を渡りて進めば、南部富士の稱ある岩手山を望み、盛岡市に至る。其の道、略ぼ、北上川の沿岸を通ず。衣川の邊、古蹟多く、中尊寺、衣川柵趾、平泉館趾及び高館等あり。中尊寺は、昔時、頗る壯觀を極めし靈場とす。又、水澤近傍に鎭守府趾あり。盛岡市は、岩手縣廳の在る所にして、蠶絲・絹布及び南部鐵瓶・南部釜を產す。近傍に、廚川柵の舊趾あり。即ち、安倍貞任の據りし所とす。此れより北、姫神山近傍を過ぎ、馬淵川の流域に入り、波打嶺(末松山)を通ずれば、青森縣に入り、八戸近傍を過ぐ。進みて、陸奥內海の沿岸地を通ずれば、青森市あり。此の地は、青森縣廳の在る所にして、北州渡航の要津とす。青森の西南に、弘前市あり。弘前は、繁盛なる都會にして、第八師團の司令部あり。津輕塗を產す。市西に見ゆるは、即ち岩木山なり。

*藤原秀衡居館の趾　十源頼經、藤原秀衡の輔助により寄寓せし館趾、即ち衣川館趾、盛岡(南部氏十三萬石)

弘前(津輕氏十萬石)



青森雪中之圖

宮城・岩手・青森三縣の域は、即ち、磐城の小部・陸前・陸中の大部及び陸奥の地にして、俗に、三陸地方と稱す。北上川の流域は、地平かに、米穀能く登り、所謂仙臺米、世に名あり。其の流域の東西及び陸奥の地は、山巒重疊すれども、間々、原野ありて、牧場に適し、牧畜の業甚だ盛んにして、南部駒の名、世に高し。山脈、鑛物に富みて、大に鐵を出だし、釜石鐵坑世に名高く、恐山は盛んに硫黃を產す。雄勝石は、陸前雄勝濱邊の產にして、硯・石盤・敷石の料に用ゐ、又、屋瓦にも代ふ。盛んに東京及び諸國に輸出す。

又、此の地方は、山林多く、陸奥の津輕郡外濱地方は、大に羅漢柏を產し、又、仙臺松、世に名あり。氣仙行李・登米煙草、又、名產と稱す。北部地方は、近年、大に林檎を產す。北上川・岩木川等は、鮭・鱒に富み、又、沿海魚產多く、漁業甚だ盛んにして、仙臺鮪、世

に名あり。其の沿海には、宮古等、稻や繁盛なる地あれども、此の邊、近年、大海嘯の變に遭遇し、爾來、諸村大に衰微せり。

○秋田・山形兩縣地方

秋田・山形兩縣地方

弘前より、秋田縣の域に入り、能代川の畔に出で、之に沿ひて下れば、能代に至る。實に能代塗の名産地とす。此れより南進、八郎潟近傍を過ぐれば、土崎港あり。御物河口に在りて、帆檣つねに林立せり。秋田市は、秋田縣廳の在る所、商業頗る繁盛にして、大に米穀を本州北部地方及び北州の南部に輸出す。

○秋田佐竹氏二十萬五千石

所謂秋田畝織、世に名あり。近傍に、高清水の古蹟あり。

*世々秋田氏の住せし所

八郎潟の西に在る半島は、男鹿半島と稱す。沿海に奇觀多く、所謂男鹿の島巡り頗る壯快なり。此の半島内に、舟川港あり。凡て、此の邊の港は、冬期は風波烈しきを以て、船舶寄泊する能はざれども、此の港と、陸奥の大湊とは、冬期の碇繫に妨げなし。

秋田より、御物川の沿岸地方を通じ、金澤柵趾近傍を經、木綿商業の盛んなる横手に出で、院内銀山近傍を過ぐれば、山形縣の域に入る。これより、綾織を産する新庄を經、最上川の沿岸地方を通ずれば、山形市に至る。此の地は、山形縣廳の在る所にして、頗る繁盛なり。山形の西方に、大沼あり。沼中に、數多の島嶼浮遊し、幽景愛すべし。俗に、之を浮島と云ふ。此れより南行すれば、米澤市あり。絲織及び筆を名産とす。又、煙草・蠶卵紙に名あり。

*源義家の清原家衡・武衡を攻めし所

新庄戸澤氏六萬八千石

山形（水野氏）五萬石

米澤（上杉氏）十八萬七千石

秋田より、南沿海地方を通ずれば、酒田港に至り、最上川を渡る。其の間より、鳥海山に上るべし。此の山は、一に出羽富士と云ふ。酒田は、市街殷賑にして、商業盛んなり。其の東南に、鶴ケ岡あり。繪蠟燭、世に名あり。此の邊の地方を庄内と稱す。而して、此の地より、羽黑山・月山・湯殿山に上るべし。此の三山は、之を總稱して、羽前三山と

鶴ケ岡（酒井氏）十七萬石

云ふ。

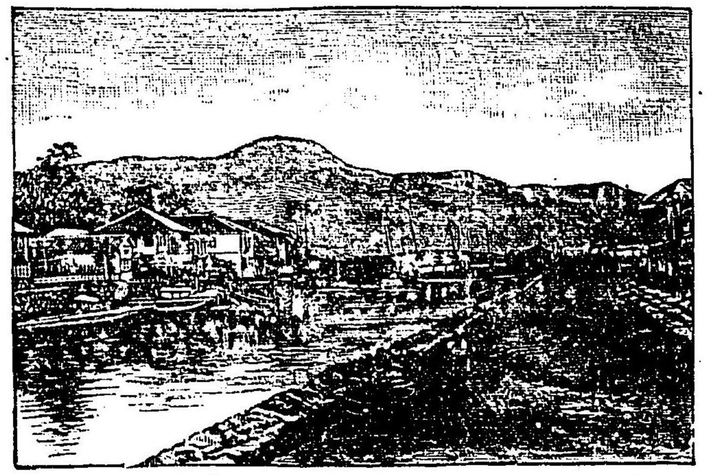
秋田山形兩縣の域は、陸中の一部羽前羽後の地にして、俗に、之を兩羽地方と稱す。域内山巒鬱結すれども、能代御物最上諸川の沿岸には、平原あり。最上川の附近には、海荷の產あり。此の川は、水勢甚だ迅く、實に日本三急流の一にして、砂金を出だし、御物川と、共に、鮭鱒を產す。此の地方は、鑛山多く、小坂銀山尾去澤銅山、阿仁銀山院内銀山等、最も名あり。又、三陸地方と、共に、大に山林に富み、秋田杉の名、世に高し。而して、秋田欵冬は、天下の奇產にして、高さ七八尺、葉圍丈餘、恰も傘の如し。兩羽地方は、又、牧場多く、牧畜大に行はる。河邊の田圃、能く開け、米穀の產出多く、發盛又盛んなり。

北陸道

新潟縣地方　村上（内藤氏五萬石）新發田（溝口氏十萬石）

鶴ケ岡より、海岸地方に沿ひて、新潟縣の域に入り、三面川を渡り西南行すれば、茶の名所なる村上を過ぎ、新發田に至る。此れより、阿賀川を渡りて進めば、新潟市あり。此の地は、新

長岡（牧野氏七萬四千石）



新潟之圖

潟縣廳の在る所、普通貿易港の一にして、地域、信濃川の河口に臨み、塗物の產多し。

信濃川に沿ひて上れば、三條に至る、此の地は、商業繁盛にして、形附木綿を產し、又、大工道具類を製す。此れより南進すれば、長岡あり。鍋釜の製造盛んなる所にして、二子縞等の織物を產す。此の地と、新潟との間に、小汽船の往來あり。長岡の西南に、小千谷十日町あり。越後縮の集散地とす。

新潟より海岸に沿ひ、北國街道に從ひて進めば、彌彦山近傍を過

ぎ、寺泊・柏崎を經て、直江津に至る。

寺泊より北に航すれば、佐渡に至る、佐渡には、小木・夷・相川等の諸名邑あり、中に就きて、相川最も盛んなり。所謂無名異燒の產地にして、有名なる金山は、此の地の東北に在り、此の金山は、もと帝室に屬せしが、いまは民有となれり。外國船の新潟に入るもの、其の風、不利にして、其の沖に繫泊すること危險なるときは、來りて、此の國の夷港に碇泊す。

直江津は、中山道より分かるゝ道の、來りて北國街道に會する要衝に當たり、船舶の出入多し。南方に高田（高田藩原氏十五萬石）あり。繁盛なる都會にして、木綿紡績の業行はる。此の地の西南に、妙高山あり。直江津の西南、春日山は、上杉謙信の居城ありし所とす。直江津より西進すれば、親不知の險あり。地勢險隘、波浪至れば、親子相顧るに遑なし

と云ふ。

新潟縣の地は、山脈南方に蜿蜒すれども、信濃川・阿賀川の貫流するありて、所謂越後平野を成し、地味肥沃、產する所の越後米、世に著はる。又、鑛產に富み、多く石油を出だす。近時、發掘業大に開け、諸種の織物を製し、越後縮・越後上布・栃尾紬・五泉平等、頗る世に名あり。三面・阿賀・信濃三川は、鮭を產し越後鹽引の名、世に高し。古來、謂ふ所の越後七不思議なるものは、今は一笑にだも値せず。越後は、又、多く海荷を產す。佐渡の金銀は、帝國の至寶にして、錦織、又、世に名あり。

富山・石川兩縣地方

親不知の險を過ぎて、西に進めば、富山縣の域に入り、魚津を過ぎ、常願寺川を渡り、富山市に至る。魚津の海上には、春夏の候、往々海市を見る。海市は、即ち、蜃氣樓なり。富山は、富山縣廳の在る所にして、神通川の流れに臨み、商業繁盛にして、古來、反魂丹等の名藥を以て名高く、又、鮭の鹽引・干鮎に名あり。富山より、常願寺川に沿ひて、東南行せば、立山に上るべし。立山は、谿

（富山・石川兩縣地方一ハ三ヲ掲ク。富山市ハ金澤支藩前田氏十萬石）

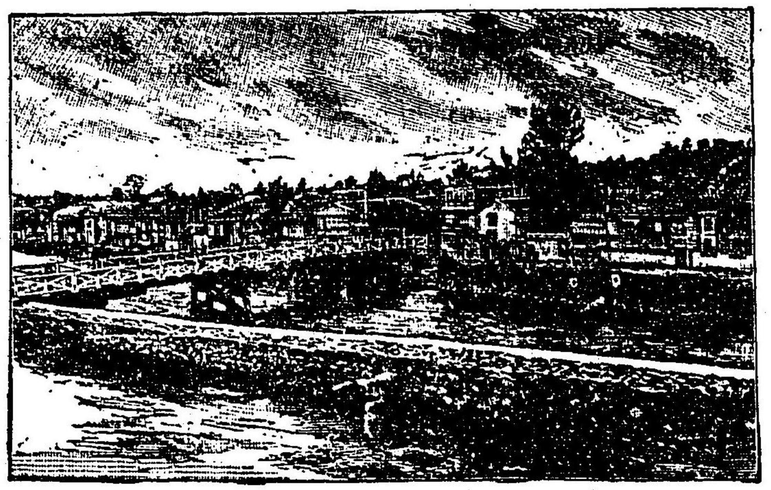
谷火坑多く、俗に、四十八地獄と稱す。

富山より、西に進み、射水川を渡れば、高岡市あり此の地は、金物漆器の産ある工業地とす。商業も亦盛んにして、此の邊、木綿紡績及び養蠶業盛んなり。近傍に、新湊及び伏木あり。伏木は、特別輸出港の一にして、主に、米を輸出す。此れより、木曾義仲が大に平家の軍を敗りたる「倶利伽羅峠」（彌波山）近傍を過ぎ、金澤市に至る。

其の中途より、能登半島の地に入れば、輪島あり。所謂輪島塗、世に名あり。又、東岸の七尾は、特別輸出入港の一にして、所謂七尾酒の産地なり。近傍に、城山あり。即ち、天正五年、上杉謙信の陷取せし古城趾にして、「敷行過雁月三更」の詩は蓋し、當時の作なりと云ふ。七尾灣内の能登島は、古來良馬を産す。傳へ曰ふ、彼の頼朝の駿馬池月は、此の地の出なりと。

金澤（前田氏百二萬石）

大聖寺（前田氏の支封十萬石）



金澤市之圖

金澤市は、石川縣廳の在る所にして、第九師團の司令部及び第四高等學校あり。實に、北國の大都會にして、金石港と相通じ、運輸に便なり。九谷燒、象眼細工等を名産とす。金澤より南行すれば、白山に上るべし。金澤より、西南行し、手取川を渡れば、小松あり。所謂加賀絹の名産地とす。彼の安宅關趾は、此の地の近傍なれども、其の土地漸次波濤に嚙まれ、今は、遙かの海中に在り。小松より、西南行すれば、大聖寺あり。

富山・石川兩縣の域は越中・能登・加賀の地なり。越中・加賀の地は、南方に、山巒を負へ、北部、即ち、海岸に瀕する地方は、地平かに土肥え、所謂越中米、世に名あり。蠶業盛んに行はれ、絹織物の産多し。越中の五箇山中は、繭紙を製し、釣橋・天柱石の奇觀あり。五郎丸布の名、又、世に高し、彼の九谷燒は、實に加賀の名産にして、舊時九谷村に製陶所ありしを以て名とす。加賀の菅笠・杉原紙、世に名高く、又、大に銅を産す。能登は、概ね、丘陵起伏し、平野極めて少なく、大に、製鹽に名あり。

福井縣地方（福井縣地方、松平氏三十二萬石）

此れより、福井縣の域に入り、西南行、九頭龍川を渡れば、福井市あり。此の地は、福井縣廳の在る所にして、往昔、柴田勝家の據りし北の庄の地なり。奉書紬を産す。福井の北、牧の島に、藤島神社あり。新田義貞を祀る。北方、九頭龍河口に阪井港あり。所謂三國港、是なり。又、福井の南、一乘谷は、朝倉氏五世の古城趾ある所とす。

福井より、日野川を渡り、鍛冶業の盛んなる武生を過ぎ、西南行せは、敦賀に至る。敦賀は、特別輸出港の一にして、鱈・白昆布を産し、奉書紙・鳥子紙を製出す。此の地は、北州と、大阪との間に立ちて、商品を媒介す。東北金崎（*倉庫・敦賀・新田義貞・國道・所・殉・せし・小濱酒井氏・十萬石餘）は、南朝の古城蹟なり。敦賀の西に、小濱あり。薄絹を出だし、又、若狹塗に名あり。小濱の西、高濱は、黑碁石を出だす。

福井縣の域は、即ち、越前若狹の地にして、域内山多けれども、日野・足羽・九頭龍諸川の近傍、即ち、越前平野は、田圃開けて、地味肥沃なり。大野・勝山邊は、製紙の業盛んなりとす。若狹鯛・越前雲丹世に名ありて、越前蚊帳又人に賞せらる。

本州東區括論

本州東區の海岸（太平洋に面する方）

本州の最北には、津輕半島・下北半島の兩突出あり。兩者相擁して、陸奥内海を成す。津輕半島の北端は、龍飛崎と稱し、下北半島の北端・大間岬と相對して、蝸牛角狀を成す。大間岬を東に廻れば、尻屋岬あり。岬端、暗礁海霧

多し、此の岬より、南に轉じ、馬淵河口に至る間は、概して、平坦の砂濱にして、海岸より少距離の處に、二三の小湖あり。此れより南、仙臺灣に至る間は、斷崖絶壁にして、南ずるに從ひ、海岸の屈曲出入甚だし。其の南方の突出は、牡鹿半島と稱し、其の中央部の海角は、閉伊崎と稱す。閉伊崎は、實に本州の最東端なり。此れより、海岸線稍や趣を變じ、久慈河口に至るの間、概して、平坦なる砂濱なりとす。牡鹿半島以北は、多く鮪を産し、磐城の沿海は鰹・鰮に名あり。久慈河口よりして南は、鹿島灘の濱にして、砂丘の脈相連なり、犬吠岬に至る。此の邊、航行危險なり。此の岬の西南は、即ち、九十九里の濱にして、砂丘の脈あり。此れより、大東崎を過ぎて、野島崎近傍に至れば、沿海に岩礁多し。此の邊を、房州沖と稱し、潮流急にして、舟行難し。此れより、海岸北に廻り、館山灣となり、三浦半島と相對し、浦賀海峽を成す。其の北に方り、富津崎・觀音崎と相寄りて、東京灣の咽喉をなす。富津崎には、暗洲ありて行舟危く、對岸觀音崎と、共に、燈臺及び砲臺の設けあり。東京灣は、北に向かひて、内地に入ること、略ぼ、十三里、沿岸淺砂遠く連なり、西岸に、海苔を産す。即ち、淺草海苔、是なり。房州沖より、鹿島灘に至る間は、漁業の利、頗る多く、特に、鰮の漁業、最も盛んにして、土諺に、鯛樣鰮殿の語あり。

浦賀海峽を出でゝ、三浦半島の劍崎を廻れば、城ヶ島あり。三浦半島の西は、相模灣にして、其の沖は、相模灘と稱す。相模灘は、日本武尊の妃、橘媛の海に投じて、御船の難を救ひし所なり。北岸は、平坦にして砂多く、其の海上は、鮪・鰹・鰺の漁利多し。伊豆半島は概して斷壁にして、山角直ちに海岸に迫る。其の南端を、石廊崎と稱す。此の半島の西は、駿河灣にして、灣の西南の極南端は、御前崎と稱す。

此れより西、志摩半島に至る間は、遠州灘一に遠江灘と稱し、波濤荒く、航海者の懼るゝ所なり。其の海岸一帶、平砂の地にして、西部に渥美半島あり。其の盡端を伊良湖崎と稱し、遙かに、志摩半島と相望み、伊勢の海の門を扼す。伊勢の海は、北に向かひて、內地に入ること、略ぼ、十六里、魚貝海藻の收利多し。

〔日本海に面する方〕本州北端の龍飛崎を、西南に廻れば、艦作崎あり。此れより以南、男鹿半島の突出あれども、海岸大抵平直なり。男鹿半島邊は、雷魚に名あり。北陸道の海岸も亦、富山・七尾・若狹三灣と、能登半島の突出とを除くの外、概して、平直にして、越後・佐渡の海上には、烏賊・鱈多く、能登邊には、鰤・鯨の產あり。若狹の海上は、鯛・鰈の漁利多し。能登の尖端珠洲岬近傍は、巉岩高く峙ち、航行甚だ危險なり。

本州東區の地勢と山川

本州東區の地勢と山川

本州の北部には、一條の山脈ありて、中央を西南走し、分水界をなす。之を分水山脈と稱す。岩手山・吾妻山・磐梯山・那須岳・日光山等之に屬す。其の東に、北上山系及び阿武隈山系あり。此の兩山系は、仙臺灣により相斷絕す。北上山系に屬するものは、姫神山・早池峯等にして、阿武隈山系に屬するものは、靈山・大瀧根山・闕伽井岳・八溝山・筑波山等なり。分水山脈と、北上・阿武隈兩山系とのあひだは、北上川・阿武隈川の凹谷、即ち、奥の平野にして、略ぼ、三十萬町の田圃を有し、地味、米桑に適し、所謂仙臺米を產す。北上川は、盛岡よりして下、漕運の便あり。

福島よりして下、漕運の便あり。

分水山脈の西に、又、出羽山脈あり。岩木山・森吉山・鳥海山・月山等之に屬す。其の脈、延いて白根山・西阿山・淺間山等に及ぶ。岩代・下野の

本州東區の地勢と山川

或は、那須火山脈と稱す

或は、岩木火山脈と稱す

境に、帝釋山脈あり。燧岳・赤安山・帝釋山等之に屬す。而して、出羽山脈と、分水山脈とを連結し、東西に走る山脈ありて、階狀の如き地形の排列をなし、岩木・能代・御物・最上諸川沿岸の諸平原及び會津平、其の階形の中に在り。御物・能代兩川の平原は、略ぼ、十三萬町の田圃を有し、最上川の平原は、略ぼ、十一萬町の田圃を有す。所謂秋田米・出羽米、此れより出づ。最上川は、其の西に折るゝ所より、舟楫を通ず。

阿武隈山系の西南に、關東山彙あり。大山・丹澤山・御嶽・大嶽山・三峯山・甲武信岳・國司岳・金峯山等、其の中に在り。此の邊、山巒稍や重疊すれども、其の東方大部の地は、概して平坦なる沃野にして、所謂關東大平野を成す。即ち、利根川・荒川・多摩川の流域にして、地味肥沃、五穀菜蔬に適す。利根川、一に阪東太郎と稱す。烏川の合流する所より舟筏を通ず。其の地域、實に略ぼ五十四萬町の田圃を有す。

關東大平野の西方は、山巒鬱結し、地勢頗る高峻にして、富士帶火山脈之を通ず。此の火山脈は、小笠原群島・豆南七島等と其の脈を相延けり。天城山・箱根山・富士山・八ヶ嶽・戸隱山・妙高山等、即ち、此の山脈中に在り。信濃地よりして西、濃飛高原の地は、地體高く起こり、山嶽頗る險峻なり。御嶽・乘鞍・穗高・鎗ヶ嶽・立山等、其の中に在り。所謂飛騨山脈を形成す。濃飛高原は、一大山地にして、山岳錯雜し、別に山嶽の脈を成さず。白山・位山・伊吹山等、其の中に聳峙す。飛騨山脈の南に、木曾山脈あり。駒ヶ岳・惠那山等之に屬す。木曾山脈の東に方り、之と並行して、赤石山系あり。秋葉山・赤石山・白嶺・駒ヶ岳等之に屬す。

關東山彙よりして西、琵琶湖邊に至る迄の山地は、天龍・木曾等、東

海道の諸水と、信濃神通射水等北陸道の諸水とを分界す。木曾川の流域は、即ち、尾濃平野にして、略ぼ十七萬町の田圃を有し、土地頗る膏腴にして、美濃米尾張米此れより出づ。信濃川は本州第一の長河にして、舟楫の利、灌漑の便、甚だ多し。此の川は、許多の水流を容るゝを以て、俗に八千八水川の名あり。其の流域は、即ち、越後大平野にして、略ぼ十五萬町の田圃を有し、所謂越後米此れより出づ。

之を要するに、東海道の地たる地勢北より南に向かひて斜降し、諸川皆な太平洋に入る。箱根山以東は、房總半島の小山脈と、常陸東北部の山巒、秩父群山とを除くの外は、概ね豐饒なる平野にして、其の西尾濃平野に至るの間は、海岸地方に、小平野あるのみにして、他は概ね山地なり。伊勢地方も、亦海岸に瀕する所の外は、

大抵山岳重疊せり。又、東山道の地たる、其の西部は、山岳鬱結し、地勢高峻を極め、東海北陸兩道の脊梁をなせども、東北部は、稍や低平にして、諸處に大なる平原を有す。東山道は、常に分かちて二部となし、磐城岩代以北七ヶ國を奥羽と稱し、其の他の六ヶ國を中山道と稱す。又、北陸道は、地勢南より北に向かひて斜降し、諸川皆な日本海に入る。越前加賀越中の地及び越後は、海岸に接して膏腴なる平野あれども、東山道と肩を交ふる所は、山岳頗る鬱結せり。今、東海東山北陸三道を、更に地面の凸凹なきものと假定し、一日十里の行程を以て旅過することありとせば、東海道は、略ぼ十四日餘を要し、東山道は、略ぼ二十八日を要し、北陸道は、略ぼ十五日を要するなるべし。

本州東區の天産と産業

〔第一、東海道〕　東海道天産配布の

狀を見るに、米は、尾張の地に、最も能く適し、千葉・愛知・茨城・三重・靜岡諸縣產額多し。佳品は、伊勢米を推す。麥は、地味、武藏地方に適し、其の產額最も多し。尾張・常陸及び房總地方、又、此の產に富む。茶は、駿河・遠江を最とし、伊勢・常陸・武藏も亦其の產あり。煙草は、常陸・相模を首とし。綿は、尾張・伊勢・三河・常陸及び房總地方を推す。藍は、利根川・荒川・天龍川・豐川・木曾川・宮川等の沿岸に產す。安房は、牛を產し、伊豆も亦多少其の產あり。馬は、房總半島及び常陸より產す。甲駿地方にては、三椏を栽培す。所謂駿河半紙は、此の樹の皮を採りて製せるものとす。天龍川上流地方よりは、多く屋根板に用ゐる杉材を出だし。多摩川より荒川に亙る高臺よりは、所謂四谷丸太を產す。富士山下附近には、楮多く、之より紙を製す。武相甲地方及び尾張地方は、養蠶業盛んなり。本道は、鑛產に乏しく、遠州の石油、甲斐の水晶、豆相の石材、稍や、名あるのみ。漁業は、沿海地方に盛んに行はれ、特に房總半島の沿海は、其の收額頗る大なり。

〔第二、東山道〕　東山道天產配布の狀を見るに、米は、近江の地に最も能く適し、福島・山形・宮城・秋田・長野の諸縣產額多し。佳品は、近江米・美濃米を推す。麥は、中山道地方にては、之を產するも奧羽地方は、陸前を除くの外、其の勢微々たり。茶は、近江・美濃を除くの外、其の產大に少なし。煙草・綿・藍は、其の產多からざれども。麻は、下野に多く產す。上野・信濃・岩代は、養蠶頗る盛んにして、特に其の業の盛んなる所にありては、穀菜を作ること少なく、桑樹の耕作を以て之に代ふ。近江・美濃・陸前・陸中又盛んに桑を栽培す。馬は、實に奧羽東半部の名產にして、奧羽は、又、山林の大、鑛產の多きに於て、全國に名あり。

〔第三、北陸道〕　北陸道天產配布の狀を見るに、米は、加賀・越中の地に最も能く適す。產額は、新潟縣本邦隨一にして、富山縣又多產と稱す。麥は、全道其の產に乏しく、唯た能登に稍や多く之を產するのみ。茶は、加賀を最とし、麻は、加賀・越前を推す。藍は、越中に、稍や多く之を產し、綿・煙草は、全道を通じて、其の產額多からず。牛は、佐渡に多少之を產し、馬は、佐渡・越後に、又、多少の產あり。能登の外、全道の諸國、養蠶業甚た盛んなれども、特に越中・越後を最も盛んなりとす。沿海漁利多し。鑛產は、佐渡の金銀最も有名にして、又、越前の銀、加賀・越後の銅、產額稍や多し。而して、越後の石油は、全國に敵なし。

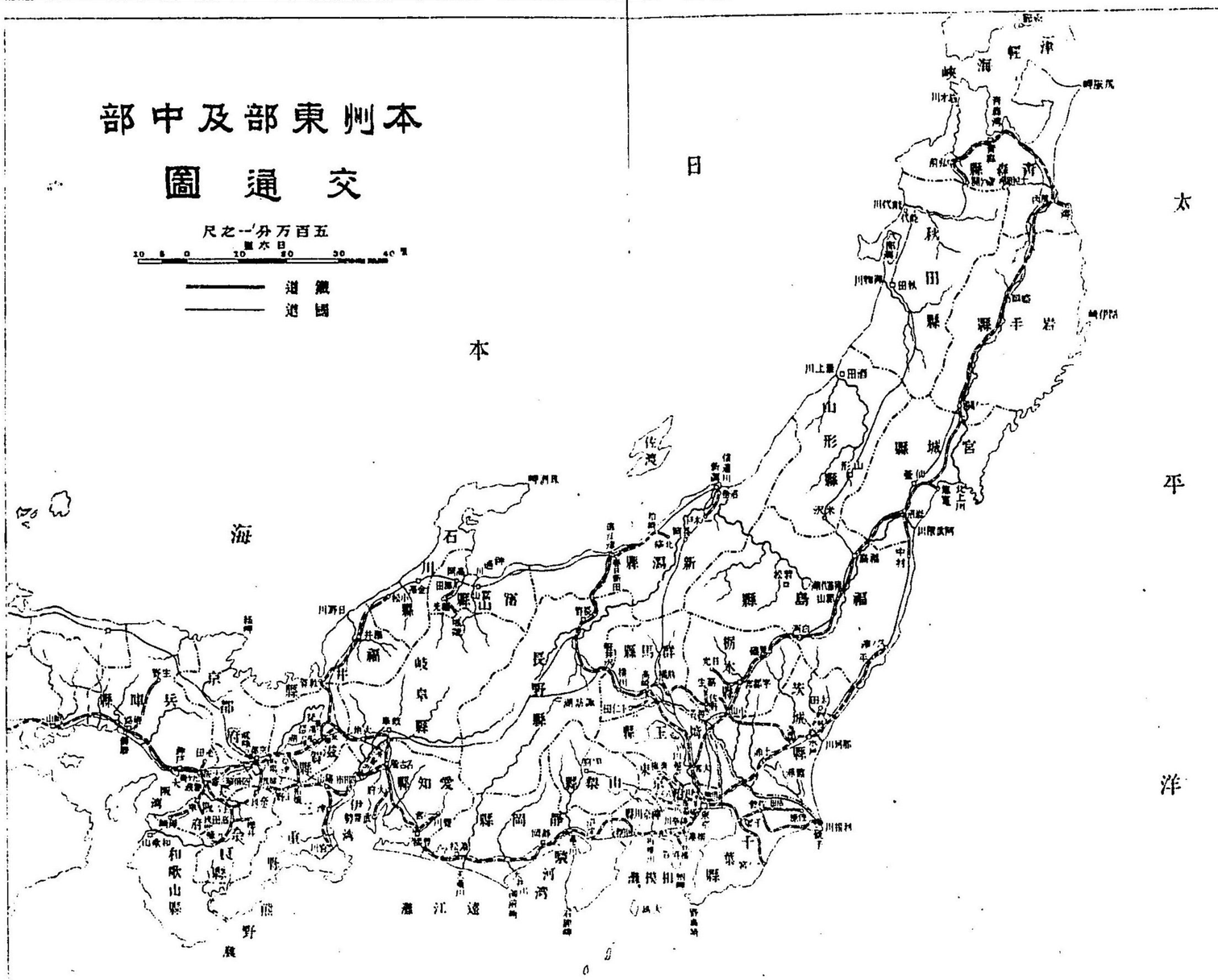
本州東部及中部
交通圖

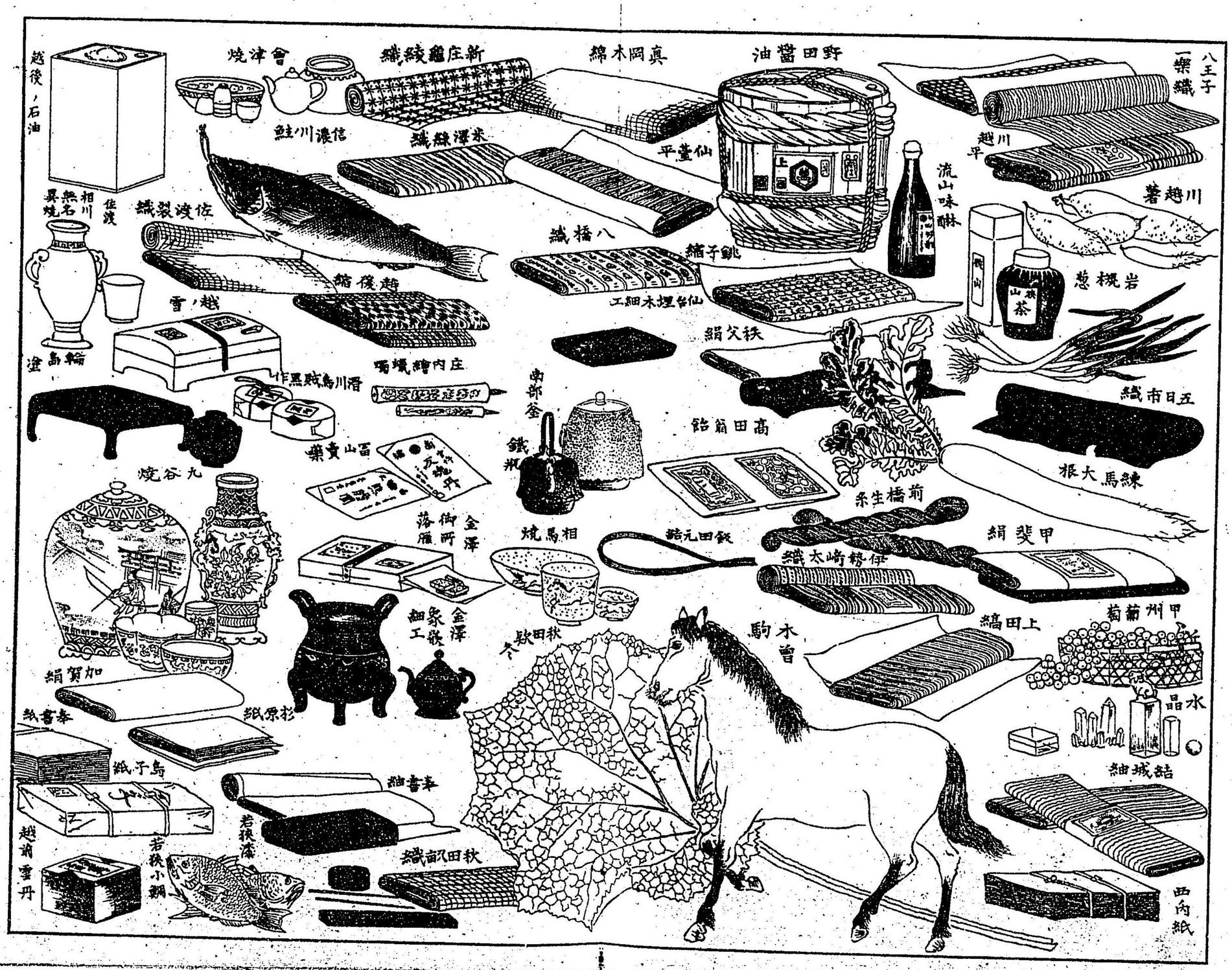
尺之一分万百五

里六日

鐵道

道國




越後ノ石油
焼津會
織綾龜庄新
真岡木綿
野田醤油
八王子一樂織
鮭川濃信
織絲澤米
仙臺平
流山味醂
越川平
著越川
相川佐渡
無名焼
織裂渡佐
八橋織
縮子鍋
縮後越
雪ノ越
工細木煙台仙
絹父秩
岩槻葱
塗島輪
庄内糟噌
作黒賊烏川滑
南部釜
五日市織
高田箱鉛
鐵瓶
丸谷焼
薬責山百
練馬大根
糸生橋前
落御金澤
所雁
焼馬相
鉛元田飯
絹斐甲
織太崎勢伊
細象金
工澤
秋田欽冬
駒水曽
上田縮
州甲葡萄
加賀絹
紙書奉
紙原杉
水晶
紙子烏
細城結
細書奉
若狭漆
越前雪丹
若狭小鯛
織田秋
西内紙

本州西區の區劃

本州西區

本州西區の區劃

本州西區に屬する國名は、左の如し

畿内五ケ國　山城・大和・河内・和泉・攝津。

山陰道八ケ國　丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隱岐(島)。

山陽道八ケ國　播磨・美作・備前・備中・備後・安藝・周防・長門。

南海道の一部　紀伊・淡路(島)。

又、此れ等の諸國に於ける、縣治上の區劃を示せば、次の如し。

府縣	國	府縣	國	府縣	國
京都府	山城、丹後、丹波の一部。	大阪府	河内、和泉、攝津の一部。	奈良縣	大和。
和歌山縣	紀伊の大部。	兵庫縣	攝津の一部、丹波の一部、但馬、播磨、淡路。	岡山縣	美作、備前、備中。
廣島縣	備後、安藝。	山口縣	周防、長門。	鳥取縣	因幡、伯耆。
島根縣	出雲、石見、隱岐。				

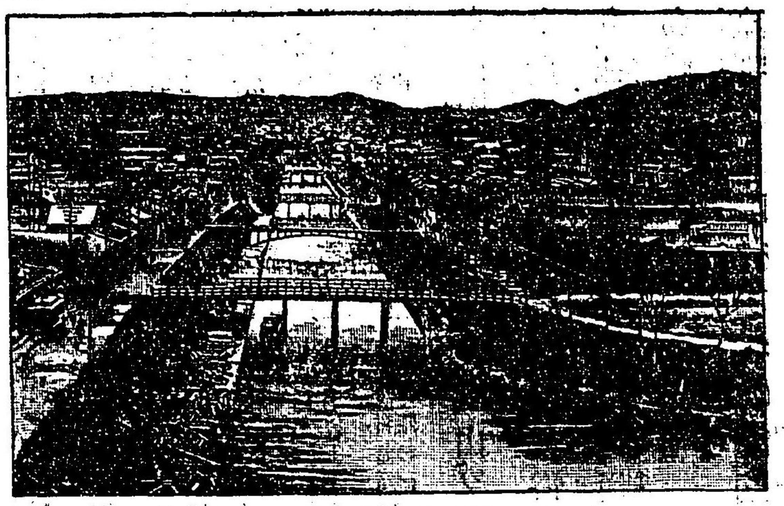
畿内の地は、俗に上方と稱し、山陰・山陽の地は、之を合はせて、常に中國と稱す。

本州西區の交通系　本州西區にては、東海道の往還、東京よりきたりて、直ちに京都に入る。而してまた、諸要地間を聯絡する多くの街道ありて、鐵道概ね之に沿ふ。東海道鐵道は、東海道に從ひて京都に來り、更に西南走す。中國にては、山陽道の沿海地方に山陽街道あり。鐵道概ね之に沿ふ。山陰道の沿海地方に、山陰街道あり。而して又、山陰・山陽兩街道を聯絡する二三の街道あり。

東部（畿内・南海道の一部及び中國の小部。）

京都・大阪兩府地方　滋賀縣の大津より西行、京都府に入れば、京都市に至る。京都は、千有餘年間の帝都の地にして、我が國第三の大都會なり。東京と相對して、或は西京と云ふ。三條通りを以て、

上京・下京の二區に分かつ。市坊頗る端正にして、京都府廳此に在り。加茂川、市の東部を流れ、架するに數大橋を以てす。舊皇城は、加茂川の西、市の北部に在りて、二條離宮は、市の西部に在り。現時、此の地に、京都帝國大學及び第三高等學校を置く。其の東方一帯の連山を東山と云ふ。東山を隔てゝ東北に聳ゆるは、即ち、比叡山とす。市の西北に見ゆるは、愛宕山にして、清瀧川其の麓を流る、有名なる三尾（高尾・梅尾・槇尾）觀楓の勝、其の上流に在り。而して、比叡・愛宕兩山



京都市中之圖

の間に見ゆるは、鞍馬山にして、鞍馬炭世に名あり。

市の内外名社巨刹多し。加茂川以東には、平安神宮（桓武天皇を祀る）・銀閣寺（足利義政の別墅）・南禪寺・知恩院（浄土宗の本山）・八阪神社・清水寺・東大谷（東本願寺の廟所）・西大谷（西本願寺の廟所）・三十三間堂・豐國神社（豐臣秀吉を祀る、秀吉の遺骸は此の社の後山阿彌陀峯に葬る）・泉涌寺（孝明天皇・英照皇太后・其の他、近世諸帝の御陵ある所）等あり。加茂川以西には、東本願寺（眞宗大谷派の本山）・西本願寺（眞宗本願寺派の本山）・東寺・金閣寺（足利義滿の別墅）・大德寺・建勳神社（織田信長を祀る）・北野天神等・持院（足利氏歷代の影堂）等あり。嵐山、又、景勝を以て聞こゆ。市内に、電氣鐵道あり。此の地は、山水秀麗、風俗優雅にして、其の民、美術工藝に巧みなり。西陣織・友禪染・加茂川晒・鹿子絞・縫箔・清水燒・粟田燒・漆器・扇子等、名產甚だ多し。

京都より南行すれば、伏見に至る。伏見人形の名、世に高し。東北の岡陵桃山は、豐太閤の城趾にして、此の山より、西南を望めば、宇治川の長流、巨椋の大池、一眸の裏に在り。伏見の東南に宇治あり。製茶を以て名ある所にして、又、螢の名所たり。此の地の平等院は、源頼政自刄の所とす。伏見の西南に男山あり。山上に男山神社あり。此の邊より木津川（淀川の支流）に從ひて、其の源流の方に進めば、笠置山に至るべし。此の山は、後醍醐帝の行宮ありし所とす。

京都より西方、龜岡を過ぎ、篠山の北を通じて進めば、福知山あり。此の地は、丹波北部の物產集合地にして、近時生絲の賣買、漸次盛大に趣けり。町北に鬼ケ城山あり。福知山より由良川に從ひ大江山附近を過ぎ、東北行せば、該河口の東南に舞鶴あり。此の地は、軍港の一にして、第四海軍區鎭守府の所在地に指定せらる。舞鶴灣は、小に失すと雖も、淺からず。自然に良港たる形狀を有せり。由良河口の西に、宮津あり。此の地は、宮津灣に臨める

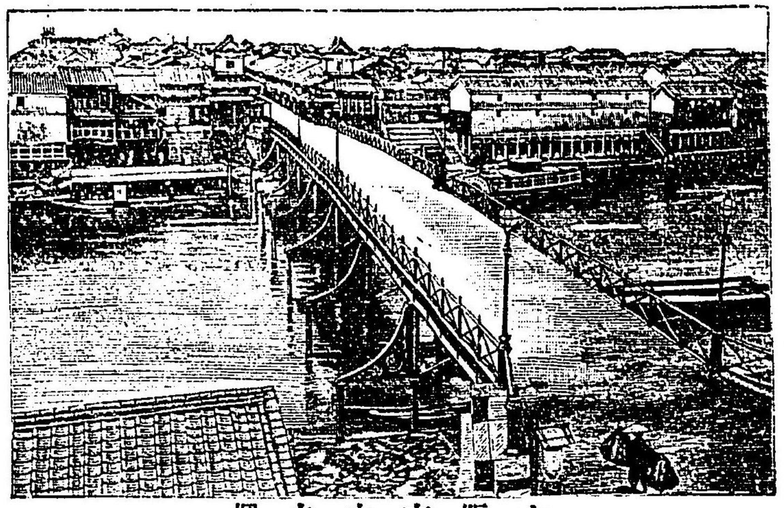
櫻井（楠公父子訣別の地）

天之橋立之圖

繁華の地にして、朝鮮・浦鹽斯德に限り、通商を許されたる、特別輸出入港なり。宮津灣は、一に與謝海と稱す。該海の西北岸より、一條の長洲、西南に突出す。即ち、有名なる天の橋立にして、實に、日本三景の一なり。宮津の西北、峯山は、丹後縮緬の名産地とす。

京都より西南、天王山の附近を過ぎ、大阪府の域に入れば、大阪市に至る。大阪は、普通貿易港の一にして、大阪府廳の在る所、實に、我が國第二の大都會なり。もと此の地は、難波津と稱せし所にして、豐公の此に城

淀川は、大阪に入りて、公園にあるの島を挾み、安治川・木津川となり、大阪灣に注ぐ、安治川口に天保山あり



大阪市中之圖

きてより以來、大に繁盛を極むるに至れり。眞に關西第一の商業地にして、貨物の集散繁く、山陽・山陰兩道、四國・九州の商業を支配す。此の地に集散する主要物産は、米・穀・紙類・油・藥種等にして、此の地より、外國に輸出するは、鰯・寒天・燐寸・綿絲・綿布類・酒等、又、外國より、此の地に輸入するは、米・豆・綿・砂糖・熟皮等なり。

本市は、淀川の下流、市北を流れ、溝渠又縱横に通じ、橋梁甚だ多し。東京の八百八町に對して、八百八橋の號あり。從ひて水運の便甚だ宜しく、近時

工場夥しく起こり、煙筒林立、盛んに銅器・鐵器・燐寸・紙・綿絲等を製す。又、砲兵工廠・造幣局あり。前者にては、大砲を製し、後者にては、貨幣を造る。市内を東西南北の四區に分かつ。

大阪城は、市東に在り。もと豐太閤の築造せしものなれども、今は、牙城の壘壁を遺すのみ。第四師團の司令部、其の内に在り。市の内外寺院の大なるもの、難波別院（南の御堂）・津村別院（北の御堂）・四天王寺（聖德太子創立の古刹）あり。神社の名あるもの、天滿天神・座摩社・高津宮（仁德天皇を祀る、高臺の碑あり）・豐國神社（豐臣秀吉を祀る）等あり。櫻宮は、古來景勝を以て稱せられ、茶臼山・眞田山は、古戰場として有名なり。大阪と伏見との間には、現時小汽船の往復あり。

*德川家康の本陣を置きし所

†眞田幸村砦を城き、德川勢を防ぎ、遂に戰死せし所

安倍野神社（北畠顯家を祀る）

住吉神社（妙國寺の藏）

大阪より南行、安倍野の西を過ぎ、大和川を渡れば、堺市に至る。此の地は、往昔互市場たりし所にして、鐵器・刃物を產し、又、緞通に名あり。大阪より東行すれば、四條畷の古戰場あり。此れより南行すれば、生駒山・信貴山・葛城山・金剛山等を見るべし。金剛山腹に千早城趾あり。此の邊に、狹山池あり。即ち、崇神天皇の世に、堀らせ給ひしものとす。

四條畷神社（楠正行を祀る）

道明寺（菅）

京都・大阪兩府の域は、畿内の東北部と山陰道の東部との地にして、京都府は、西南の一域、地勢平坦なれども、其の他は、概ね山岳起伏し、沿水地に稍や平地あるのみ。山城の地は、最も茶樹の培養に適し、丹波・丹後の地は、桑樹に宜し。稻荷山の松茸、白川石・北山丸太、世に名あり。丹波・丹後は、養蠶盛んにして、絹織物の產多く、特に丹後縮緬の名、世に高し。丹波栗は、又、人の稱する所とす。大阪府は、北部と南部とは、山巒重疊すれども、其の中間には、淀川の巨流及び大和川あり。地勢頗る平夷にして、且つ肥沃なり。大阪の北・東面山の附近に池田あり。其の近傍の山地より、蜜柑及び炭を產す。所謂豐島蜜柑・池田炭これなり。和泉木綿・河内木綿世に名あり。大阪府は、紡績業の盛んなること、全國隨一たり。紋羽織・雲斎織、又、其の產多し。河内は、多く茶を製し、和泉は、沿海の地、漁業盛んにして、淀川は、鯉を產す。

酒の醸造は、池田堺を主とし、油類の製造は、府内諸地に行はれ、大阪市實に全國の中央市場たり。而して、大阪府下は、製革及び煉瓦・燐寸製造に名あり。又、大に硫酸を出だす。

奈良・和歌山兩縣地方（郡山・柳澤氏十五萬石）

奈良・和歌山兩縣地方

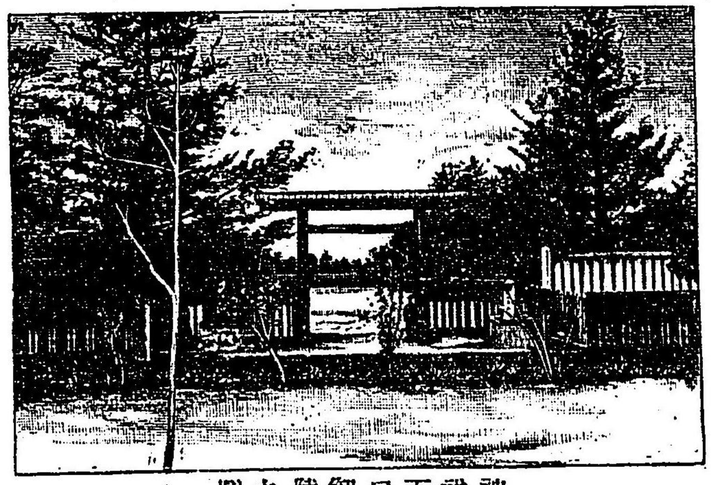
大阪より東南、大和川の畔に出で、奈良縣の域に入り、東北行せば、有名なる古刹法隆寺附近を過ぎ、郡山を經、奈良市に至るべし。奈良は、上古・奈良朝七世の間、皇城の在りし所にして、南都、又、平城の稱あり。現時、奈良縣廳を此に置く。三笠山、東に峙ちて、麓に春日神社あり。嫩草山、其の北に連なる。此の地の内外、勝區名蹟甚だ多く、東大寺・猿澤池等あり。奈良漬・奈良晒・奈良人形・墨等を名産とす。又、近來多く、根來塗を輸出す。此の地より月瀬の梅林に遊ぶべし。

（石上神社・大和神社・三輪神社）

（醪酒、麻の産）

奈良より南方を歴遊せば、神武天皇の御陵・橿原神宮・談山神社・長谷寺等に詣るべし。大和國内に在る此れ等の諸名所を巡拜するを、俗に大和廻りと稱す。橿原神宮は、即ち、橿原宮址にして、畝傍山下に在り。談山神社は、藤原鎌足を祀るものにして、多武峯に在り。多武峯より南行すれば、吉野川の畔に出づ。此の邊に有名なる吉野山あり。古來、櫻花の名所にして、俗に一目千本の稱あり。此の地は、南朝四世五十餘年間の行宮ありし處にして、後醍醐帝の山陵あり。吉野葛・吉野漆・吉野紙は、此の邊の名産にして、吉野川の鮎、味ひ甚だ佳なり。此の山より南行、山上ケ嶽（大峯）・彌山・大日岳・地藏嶽・玉置山等を跋履すべし。此れ等諸

（如意輪寺・補正行が前鎌倉時代を以て一首を詠じたりの堂宇、今尚ほ存す）



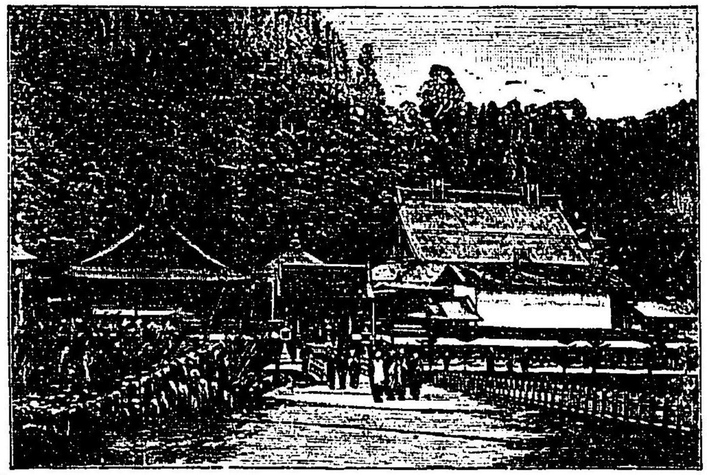
神武天皇御陵之圖

*後醍醐天皇吉野より遷れて駐蹕し給ひし所

粉河寺根來寺

*僧空海の開創和歌山德川氏五十五萬五千石

山を山上ケ嶽の峯中と稱し、行者詣拜の靈場とす。吉野川に沿ひて下れば、五條あり。其の南方に賀名生行宮の趾あり。吉野川は、下流を紀の川と云ふ。五條より、此の流れに從ひて下れば、和歌山市に至る。其の途中より高野山に上るべし。高野山は、扁柏・杉・金松の人造林、欝蒼山を蔽ひ、山上に有名なる金剛峯寺あり。高野豆腐の名、世に高し。和歌山は、德川氏の親藩を置きし地にして、和歌山縣廳の在る所なり。綿フランネル、紋羽織を名産とす。市東に、日前・國懸兩神社あり。有名なる古社とす。市



高野山金剛峯寺之圖

*熊野坐神社（本宮、熊野速玉神社、新宮、熊野夫須美神社、那智山）

紀三井寺

の近傍に和歌浦あり。風光頗る明媚なり。

和歌山より南行、漆器の名産地なる黑江を過ぎ、有田川を渡れば、湯淺に至る。有田川の兩岸、多く蜜柑を栽培す。產する所、即ち、紀州蜜柑是なり。此れより南行、日高川を渡り、田邊を經て、東北行すれば本宮に至る。本宮より熊野川を下れば、新宮に至る。*熊野三社の名、世に高し。那智山の半腹に那智の瀑あり。直下八十餘丈、海內無二の壯觀とす。

和歌浦之圖

奈良・和歌山兩縣地方は、大和及び紀伊大部の地にして、大和川の上流地方及び

紀の川沿水地の外、他は概して山嶺交錯し、大に山林に富む。大和の南部は、所謂吉野十二谷ありて、其の内に十津川郷の村落あり。吉野より杉を採伐して、紀の川を下し、之を和歌山に致し、或は熊野川を下し、之を新宮に致す。熊野山林、又多く良材を出だし。炭及び松煙に名あり。大和川の凹谷は、地味一般に、肥沃にして、禾穀に宜しく、殊に、綿及び茶に適す。所謂大和綿、世に名ありて、郡山近傍より白木綿、御所よりは、木綿絽を産す。吉野地方は、又、鑛屬に富む。紀伊の海邊は、漁業大に行はれ、熊野浦には、捕鯨盛んにして、熊野の經節、又名あり。那智の黑石、佳産と稱す。紀伊は、多く檜樹に富み、又、石炭(無煙炭)を出だす。

兵庫縣地方

大阪より西、海岸地方を通じ、兵庫縣の域に入り、伊丹の南を過ぎ、武庫川を渡り、武庫山摩耶山を望み、灘地方の北を過ぐれば、神戸市に至る。伊丹及び灘地方は、共に清酒の名産地なり。神戸は、普通貿易港の一にして、兵庫縣廳の在る所なり。此の地も、往時は、横濱と同じく一漁村たるに過ぎざりしが、互市場となりしより、日に月に繁榮を加へ、現時は、實に、大阪の門戸をなして、市況頗る旺盛を極むるに至れり。本市の中央部にある岬を、湊川岬と稱し、其の東北に斗出するを、小野岬と云ひ、其の東南に斗出するを、和田岬と云ふ。此の三岬の間、自ら二大灣を成す。東灣を神戸港とし、西灣を兵庫港とす。市内に、湊川神社あり。楠正成を祀る。近郊に、生田の森、布引の瀧あり。麟寸牛肉紙を市の名産とす。本港は、水深くして、頗る良港なれども、南方開放せるを以て、南風の時には、

神戸之圖

風浪高し。本港より海外に輸出する主要品は、米・茶・燐寸・銅・地蛇・陶破器・樟腦・水産物・扇子等にして、海外より本港に輸入する主要品は、綿・綿絲・砂糖・反物・石油・豆類・米・諸器械等なり。神戸の東北に方り、有馬溫泉あり。古來有名の靈泉にして、浴客甚だ多し。

明石・松平氏十萬石・人丸神社

神戸より、山陽街道に從ひて西すれば、須磨浦を通じ、鐵拐峯の南を過ぎ、一の谷古戰場附近を經て、舞子に至る。此の邊、白砂青松相映じ、風光佳絶なり。此れより西行すれば、明石縮を以て名ある明石を過ぐ。

明石より小舟に乘じて、潮流の急なる明石海峽を渡れば、淡路島の北端に至るべし。淡路島にては、洲本を名邑とす。多く乾鰈を産す。又、由良あり。即ち、紀伊に渡るの要津とす。紀伊と此の地との間は、由良海峽一に紀淡海峽と稱し、最も要害の地にして、

賀集村・淳仁天皇の陵

逝時砲臺を築く。又、福良あり。即ち、四國への渡頭にして、此の邊瑶平燒・鳴門蜜柑を産す。

明石・酒井氏十五萬石

明石より西北に進み、加古川を渡れば、姫路南に至る。其の間の沿海地方に、所謂播磨名所あり。姫路は、有名なる都會にして、第十師團の司令部ある所とす。姫路城は、日本名城の一にして、白鷺城の名あり。革細工・晒木綿・高砂染等を名産とす。市南に飾磨津あり。

刑部の手枕・松尾・上の鍾・高砂の相生の松・曾根天神の松・石の實殼

姫路より北行、山陰道の地に入れば、生野銀山あり。尚ほ北行せば、山陰街道に達す。此の邊、多く牛を産す。此の地方に、出石あり。所謂出石燒の名産地とす。又、圓山川の西岸に豐岡あり。近傍生絲・柳行李を産す。此の邊に、玄武洞の奇觀及び城崎溫泉あり。

龍野・脇坂氏五萬石

姫路より西進すれば、書寫山の南方を過ぎ、年魚を以て名ある揖保川を渡る。此れより醬油を以て名ある龍野を過ぎ、白旗山の南

赤松・楠心の據りたる所

方を通じ、千種川を渡り、舟阪山を過ぐ。龍野の西南に、赤穗あり、此の地は、義士の談を以て、人の能く知る所、赤穗鹽の名、又、世に高し。

兵庫縣の域は、攝津の一部、丹波の一部、但馬、播磨、淡路の地にして、海岸の小部、加古川揖保川及び圓山川の沿水地は、地勢平夷なれども、他は、概して山多し。沿海の民は、多く漁業又製鹽に從事し、山地の民は、主に農業に從事す。東部地方にては、革類、燒寸の製造大に行はれ、但馬にては、盛んに蠶を養ひ、生絲及び眞綿を產し、又、多く牛を飼養す。杉原紙は、播磨の名產にして、揖東郡杉原村に於て、始めて製出せしを以て、名とす。三木の刀物、世に名高く、但馬產の紙又良品たり。

（岡山、廣島兩縣地方　和氣、和氣清麻呂）

西部（中國の大部）

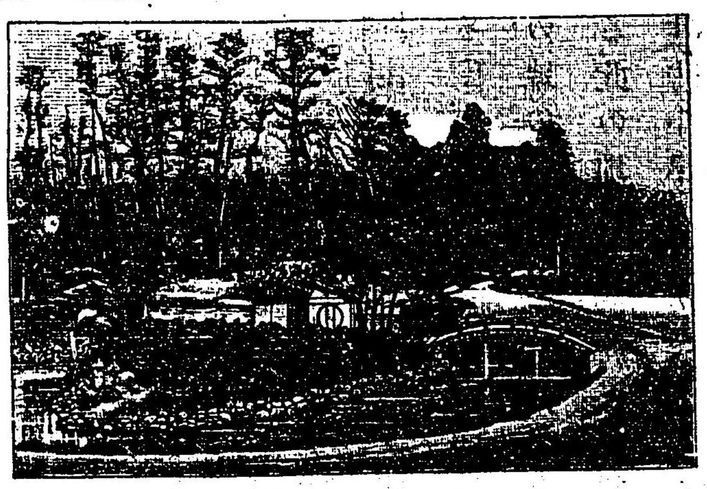
岡山、廣島兩縣地方

舟阪山より西行、蠟石の產地なる三石を過ぐれば、東大川を渡る。近傍伊部は、伊部燒を以て名あり。日本最古の陶處にして、もと瓷器を燒きたれば、名とすと云ふ。常に之を備前燒と稱す。東大川は、一に吉井川と云ひ、始め津山川と稱す。此

（岡山、池田氏三十一萬五千石）

（福岡の渡（佐木橋）、北山、松平氏十萬石）

れより西行すれば、岡山市に至る。岡山は、岡山縣廳の在る所にして、山陽道屈指の都會とす。西大川市の中央を流る。此の川は、一に旭川と稱し、上流を高田川と云ふ。現時本市に、第三高等學校の醫學部を置く。此の地の後樂園は、有名なる公園にして、頗る風致に富む。紋筵、熊野染等の產あり。岡山の南方に、兒島半島あり。



岡山後樂園之圖

岡山より北方に進めば、津山あり。津山は、美作第一の都邑にして、雲齋織、足袋等を名產とす。此の地は、山陽道より山陰道に至る交通的中心の位置を占め、市況頗る

繁盛なり。津山の西院の庄は、兒島高德の、詩を櫻樹に題したる故地として、有名なり。

高島（神武天皇行在所の古蹟あり）氏

郡山（向部氏十一萬石）

岡山より西に進めば、眞金村に吉備津神社あり。社後の山を吉備の中山と云ふ。此れより西北行すれば、豐公の水攻を以て、有名なる高松を過ぎ、高梁に至るべし。高梁は、備中の中央に位し、高梁川の東岸に在り。實に、備中第一の都會とす。

埃宮の舊蹟（神武天皇東征の時止まり給ひし所にして、淺田氏の西北、府市の中村に在り）

岡山より西南、玉島港を經て進めば、廣島縣の域に入り、福山に至る。南方に鞆港あり。港内波靜かにして、船の出入夥し。保命酒を此の地の名產とす。福山より蘆田川を渡り、西行せば尾の道市に至る。此の地は、良港にして、船舶輻輳し、商業頗る盛んなり。此れより、往時小早川氏の居城せし三源を過ぎて、沼田川を渡り、西行すれば、廣島市に至る。此の地は、中國第一の大都會にして、廣島縣廳の

廣島（淺野氏四十二萬六千石）

在る所とす。太田川の流れ、數派となりて、市内を貫流す。市の中央に舊城あり。もと、毛利氏の築きしものにして、いまは、第五師團の司令部、たゝに在り。南方に宇品の要港あり。傘・海苔・牡蠣・算盤・指物・建具等を市の名產とす。廣島の東南に、吳港あり。軍港の一にして、第二海軍區鎭守府の在る所とす。其の近傍江田島に、現時海軍兵學校を置く。

廣島城之圖

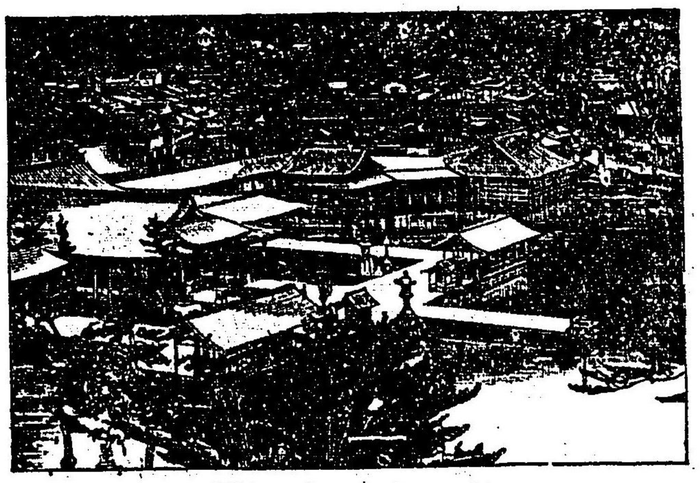
廣島より東北に進めば、吉田あり。此の地は、始め毛利氏の居城ありし所にして、輝元の時に至り、之を廣島に移せり。此れより、尙は

郡山の四郎毛利元就の墓

東北行すれば三次に至る。此の地は、三次川の流れに沿ひ、山陰山陽兩道往來の要衝に當たり、市街繁華なり。此の邊、霧深く、氣候寒冷なり。三次川は、下流石見に入りて江の川となる。

廣島より西南行すれば、嚴島の近傍を通ず。嚴島は、又、宮島と稱す。風光明媚にして、日本三景の一に位し、其の嚴島神社は、百八の廻廊長く連なり、結構頗る雅麗なり。繪圖よりも見て驚けりいつく島と云ふ句あり。竹細工を此の地の名産とす。

毛利元就の謀略を滅ぼせし所



嚴島之圖

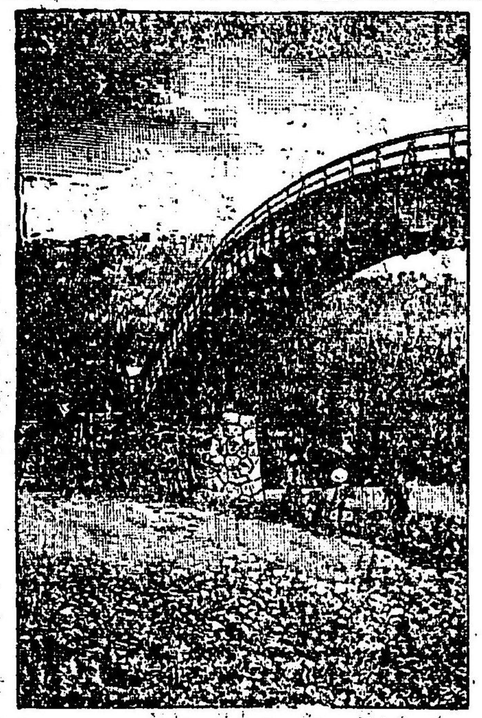
岡山廣島兩縣の域は、美作備前備中備後安藝の地にして、備前備中備後は、之を總稱して、或は、三備地方と云ふ。地勢、北は高くして、南方次第に低く、域内概して、山岳起伏し、唯だ海岸地方のみ、地稍や平坦なり。三備地方は、さかんに疊表産等を製し、韓は、實に備中の特産たり。兒島半島にては、盛んに食鹽を製出す。備前醤油、世に稱せられ、長船の刀劍、古來世に名あり。備中美作は、銅産多く、備前安藝は、蠟石を出だし、安藝の北部には、採鐵を業とするもの多し。養蠶の業は、美作に盛んにして、紡績、製絲は、岡山近傍に行はれ、備中は、又、紙に名あり。三備地方、美作は、又、煙草の産あり。而して、備前備中には、牧牛大に行はる。安藝は、藍綿を産し、又、麻織物、山繭紬を出だす、且つ、梨の名産あり。

山口縣地方

岩國（吉川氏六萬石）

山口縣地方

嚴島近傍を過ぎ、西南行せば、山口縣の域に入り、岩國に至る。此の地は、岩國川（錦川）に臨み、錦帶橋之に架す。錦帶橋は、一に算盤橋と稱す。結構奇巧にして、實に日本三奇橋の一たり。岩國縮を名産とす。岩國の西南に、柳井津あり。商業盛んにして、柳井縞を出だす。柳井津の西北に、德山あり。德山より海岸地方に沿



錦帶橋之圖

ひて西行すれば、三田尻に至る。近傍、製鹽甚だ盛んなり。三田尻の北方に山口あり。此の地は、四面山を繞らし、形恰も擂鉢の如し。昔時、大内氏の據りし所にして、山口縣廳此に在り。現時、此の地に高等學校を置く。

三田尻邊より西、佐波川・厚東川・厚狹川を渡れば、赤馬關市に至る。此の地は、馬關、或は、下の關と稱す。特別輸出港の一にして、石炭を輸出す。又、此の地は、朝鮮と通商を許されたる、特別輸出入港にして、米・綿布類を、彼の地に輸出し、豆・米の類を、彼の地より輸入す。本

（豐浦（毛利氏の支封五萬石））

（赤間宮（安德天皇を祀る））

（萩（毛利氏三十六萬九千石））

（鳥取（池田氏三十二萬五千石））

市は、商業盛んにして、米・肥料・石油集散の大市場たり。煙草硯を此の地の名産とす。所謂馬關煙草は、其の實、此の地の原産に非ずして、九州、其の他、三備地方より、此に送致したる原料を、此の地に於て刻めるものとす。市東、壇浦は、平家滅亡の古戰場たり。馬關の東北に、萩あり、即ち、毛利氏累代の舊城地にして、鹿子絞・松本燒・夏橙等を名産とす。

山口縣の域は、周防長門の地にして、縣内山岳起伏し、唯だ海岸地方に少許の平地あるのみ。長門よりは、石炭を出だす。周防の東部は、製紙・製茶・木綿織物の業、盛んにして、關戸蚊帳の名、世に高く、岩國半紙、柳井津の甘露醬油、又名産と稱す。且つ、周防は、製鹽業盛んにして、養蠶業も、亦近時日を逐ひて振ふものゝ如し。沿海地方は、漁利多し。

鳥取・島根兩縣地方

兵庫縣但馬國より山陰街道によりて西に進めば、鳥取縣の域に入り、鳥取市に至る。此の地は、鳥取縣廳の

在る所にして、繁榮なる都會とす。此れより千代川を渡り、湖山池の傍を過ぎ、又、天神川を渡り、淀江を過ぐ。天神川の上流地方に倉吉あり、木綿絁の産地とす。淀江の近傍に、名和神社あり。名和長年を祀る。又、淀江近傍より南行すれば、大山に上るべし。大山は、本名を大神山と云ふ。山腹に大神山神社の奥宮及び大山寺あり。近傍に、又、船上山あり。元弘中名和長年の、後醍醐天皇を此に奉じたるを以て名高し。大山の東南に、蛭山あり。此の山は、其の嶺三分し、上中下蛭山の稱あり。

淀江より西行、日野川をわたれば、米子あり。市街頗る殷賑なり。夜見濱の砂嘴、西北に突出し、其の北端に境港あり。此の港は、北方に美保關突出して、北風を防ぐが故に、冬期にても、船の碇泊稍や安全なり。本港は、敦賀、馬關間の唯一の良港なるを以て、商業大に發達し、米子、松江等に供給する商品の媒介をなす。

境港より北航せば、隱岐に至るべし。隱岐は、島根縣に屬する島國にして、東北に在る一島を島後と云ひ、西南に在る三島を島前と云ふ。西島の黑木神社は、所謂黑木御所の趾にして、中島の後鳥羽神社は、後鳥羽上皇の陵廟なりとす。島後の西郷港は、良港にして、鰯、海鼠、木材を産す。近傍、馬蹄石の産あり。

米子より西進、島根縣の域に入り、中の海の南岸に沿ひて西行すれば、松江市に至る。此の地は、島根縣廳の在る所にして、大橋川之を貫流す。大橋川は、即ち、宍道湖の下流なり。宍道湖の鱸は、其の味頗る美にして、支那松江の産に同じと稱す。松江より宍道湖の南岸に沿ひて進み、簸の川を渡れば、有名なる出雲大社に詣すべし。簸の川は、一に出雲大川の名あり。其の發源地たる船通山は、古の

松江松平氏十八萬石千月山尼子氏七年の圍みを受けし所

出雲大社之圖

鳥上山にして、所謂鍛の川上の舊地なり。大社は、大巳貴命を祀り、社宇極めて宏壯なり。

此れより神門川を渡り、神西湖邊を過ぎ、子孫男女の四峯環狀をなして、相列なれる三瓶山を望み、進みて江の川を渡れば、濱田に至る。此の地は、特別輸出入港の一にして、紙商業盛んなり。濱田の西南に、津和野あり。

鳥取・島根兩縣の域は、因幡・伯耆・出雲・石見・隱岐の地にして、海岸地方と、諸川の沿水地との外は、地勢概ね險峻なり。伯耆・出雲・石見は、鐵を出だし、石見には、又、銀山あり。因幡邊の海上には、白珊瑚の產ありて、出雲には、十六島海苔及び人參の產あり。出雲の玉造は、瑪瑙を產す。布志名燒（意宇郡に）長濱燒（那賀郡に）製す又、名產たり。伯州木綿・石見紬・石見半紙、世に名高く。因幡地方は、最も牛に名あり。隱岐は、諸種の魚類を產し、杉・檜類の木材多し。又、牛馬の產あり。

本州西區の海岸

本州西區括論

本州西區の海岸（太平洋に面する方）志摩半島より西南、本州の最南端潮岬に至る間は、一帶礁濱にして、岩壁聳峙す。其の海上を熊野灘と稱す。潮岬より北西、比井岬に至る間も、亦斷崖にして、田邊灣あり。此れより北は、紀伊海峽の東岸にして、由良海峽を廻れば、大阪灣あり。大阪灣は、一に茅渟の海と稱す。其の東岸及び北岸は、一帶平砂の濱なり。

大阪灣より本州の西端に至る間は、即ち、瀨戸內海の濱にして、海岸線、錯綜極まりなく、其の海上には、大小の諸島、鱗次相交はれり。

明石海峽を通ずれば、播磨灘にして、其の北岸は、大抵平砂の濱とす。小豆島を過ぐれば、兒島半島・兒島灣ありて、水島灘となる。此の邊、水母の名産あり。所謂前水母、是なり。備後灘より燧灘となり、往時平清盛の鑿開せし穩戸瀨戸を通ずれば、廣島灣あり。灣内の牡蠣、實に名産とす。大島を過ぐれば、周防灘にして、柳井津半島あり。瀨戸内海は、長さ大約百餘里、潮流は、四國・九州間の豐豫海峽及び紀伊海峽より入り、中央部に於て相會し、再び兩方に分流す。

〔日本海に面する方〕　瀨戸内海を去り、下の關海峽を通じ、響灘を過ぐれば、日本海に出づ。兒島近傍、時々鯨の漁利あり。日本海面は、海岸の性質、甚だ單純にして、屈曲出入少なく、概ね平坦なる砂濱なれども、島根半島・丹後半島の大突出あり。

本州西區の地勢と山川　中國には、中國山系ありて、數多の

山川

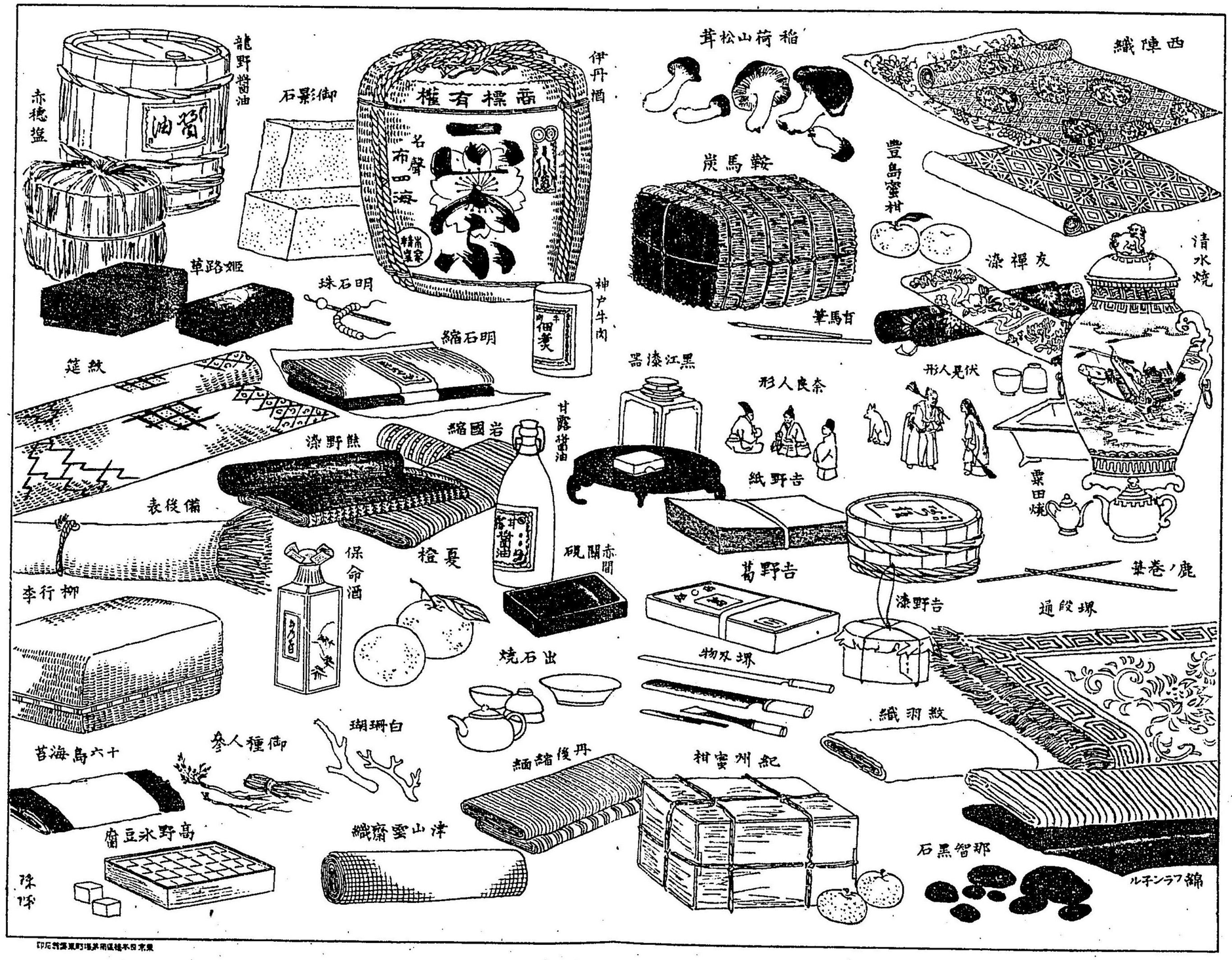
三國山及び蛭山等を起こす。畿内には、笠置山脈・葛城山脈等あれども、山勢概して高峻ならず。又、比叡山脈あり。畿内の南部・紀伊地方には、紀伊山系あり。高野山・那智山・彌山・山上嶽・大臺ヶ原山等之に屬す。大山・三瓶山・間鍋山等は、火山にして、北陸道の白山と共に、白山火山脈なるものに屬す。河の大なるもの、畿内に、淀川・大和川あり。其の流域は、即ち、所謂畿内平野にして、略ぼ十九萬町の田圃を有す。淀川は、水路長からざれども、水量頗る多く、大に灌漑の利運輸の便に富めり。東大川・西大川は、山陽道屈指の川にして、江の川は、山陰道屈指の川たり。中國には、平原少なし。之を要するに、畿内の地たる、淀・大和兩川流域の外は、概して山嶽起伏す。殊に、大和の南部より、紀伊に至る一帶の地域は、山勢頗る高峻なり。又、中國の地は、中國山系以南は、地勢、南に向かひて、緩か

に傾斜し、該山系以北は、地勢、北に向かひて、緩かに傾斜す。山陰・山陽共に、海岸地方には、平地あれども、山陰道にあるものは、其の規模小なり。山陰道は、地味概ね瘠せて、物産少なく。山陽道は、地面概ね肥えて、物産多し。今、畿内及び山陰・山陽兩道の地を、更に地面の凸凹なきものと假定し、一日十里の行程を以て、旅行することありとせば、畿内は、南北に於て、三日半以上を費やすことなかるべく、東西に於て、二日半以上を費やすことなかるべし。而して、山陽道の全道を旅過するには、略ぼ十一日を要するなるべく、山陰道の全道を旅過するには、略ぼ八日餘を要するなるべし。

本州西區の天産と産業

本州西區の天産と産業

〔畿内及び紀伊・淡路〕　畿内及び紀伊・淡路に於ける、天産配布の狀を見るに、米は、河内の地に最も能く適し、攝津も亦之に適す。産額、實に大阪府を最も多しとす。河内



印刷者 東京市麻布区霞町十番地 東京印刷株式会社

和泉・攝津の地は、麥、又能く登る。茶は、山城を隨一とす。煙草は、和泉を推し、綿は、河内を推す。和泉・大和も亦多く綿を種う。麻は、此の地方に産少なく、藍は、山城・攝津に多少の産あり。攝津には、又、牛産あり。繭・生絲は、此の域内に産多からず。

〔中國〕中國にては、播磨・備前の地、米穀多く登り、特に、播磨米は、良品と稱す。麥は、但馬・石見を除くの外、全地皆な多少之を産す。茶は、丹波・美作及び防長地方を推し、煙草は、備中・美作を稱す。因幡・出雲・石見・周防・長門は、其の産に乏し。綿は、備前・備中・伯耆の地に能く産すれども、但馬・因幡・石見・長門は、地味之に適せず。麻は、備後・安藝・石見・但馬・伯耆を主とし、播磨・美作・備前・備中に少なし。藍は、備後・安藝に多く産す。養蠶は、丹波・丹後・但馬地方に盛んなり。周防・長門・石見・安藝には、櫨樹多し。中國にては、牧牛大に行はれ、特に、但馬・因幡地

方の産は、世に神戸牛と稱して、世人の賞美する所なり。製紙の業は、一般に盛んなれども、特に、但馬・石見・安芸・周防に多しとす。製鹽は、瀬戸内海沿岸地方に、多額の産ありて、實に天賜の富源たり。中國地方は、又、鑛産多く、特に、岡山縣は、銅・鐵に富み、島根・鳥取・廣島の三縣は、砂鐵に富む。

四國區の區劃

四國區

四國區の區劃　四國區に屬する國は、阿波・讃岐・伊豫・土佐にして、此れ等の諸國に於ける、縣治上の區劃を示せば、次の如し。

國	縣
阿波	德島縣
讃岐	香川縣
伊豫	愛媛縣
土佐	高知縣

四國區の交通系

四國區の交通系　四國にては、阿波の德島を中心とし、北西・正西・南方に向かへる三道あり。北西に向かへるものは、海岸に沿ひて、伊豫に入り、正西に向かへるものは、吉野川に沿ひて進み、前者と相會し、南方に向かへるものは、沿海地方及び内地の二路によりて、土佐に入る。此の他、伊豫・土佐間の交通小系二三あり。而して、又、一二の鐵道あり。

德島縣香川縣兩縣地方

池谷（土御門天皇の御陵、勝瑞・細川氏の領の居りし所）

德島（香川縣）

德島縣（峰須賀氏二十五萬八千石）

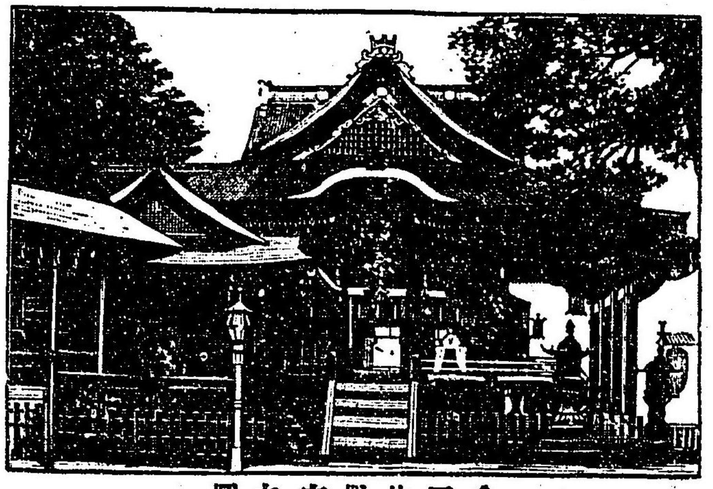
區内諸縣

德島・香川兩縣地方　大阪より汽船に乘じ、由良海峽を過ぎて、西南に航せば、德島縣の德島市に至るべし。此の地は、德島縣廳の在る所にして、商業甚だ盛んなり。緘織を名産とす。德島の北方に、撫養港あり。齋田鹽を産す。德島より北西に向かへる街道に從ひて進めば、香川縣の域に入り、醬油及び砂糖製造の盛んなる引田

に出で、屋島の南を過ぎて、高松市に達す。屋島は、源平の古戰場にして、安德帝の內裏跡、今尙ほ存す。高松は、香川縣廳の在る所にして、高松城巍然として聳え、東北方に五劍山をのぞむ。保多織を此の地の名產とす。五劍山は、五峯並立せしが、今、其の一峯を缺損す。此れより崇德帝の陵ある、白峯近傍を過ぎ、綾川を渡り、製鹽業の盛んなる坂出を通じ、讃岐富士の名ある飯野山の北方を過ぐれば、丸龜に至る。此の地は、商業盛んなる所にして、近時第十一師團司令部の所在地となれり。丸龜より、海岸に沿ひて進めば、多度津あり。汽船碇泊の要港にして、近傍の岡陵に登れば、鹽飽の群島、指顧の中に在り。

（高松（松平氏十二萬石）　丸龜（京極氏五萬千石）　中に就きて鹽飽本島及び廣島を大なりとす）

多度津の南方に方り、象頭山あり。其の半腹に、有名なる金刀比羅宮あり。世に、所謂金毘羅大權現是なり。近傍屏風ヶ浦は、僧空海誕生の故地とす。多度津より觀音寺の東を過ぐれば、愛媛縣の域に入り、川の江に至る。



金刀比羅宮之圖

德島より正西、吉野川筋の道に從ひて進めば、藍作の業、盛んなる諸村を過ぎ、藍・反物の取引盛んなる脇町近傍及び煙草製造の盛んなる池田を經て、愛媛縣に入るべし。此の街道の南に方り、劍山あり。其の劍社は、安德天皇の御劍を祀る。此の邊の大谷を、祖谷と稱し、其の內に琵琶瀧の名觀及び數多の蔓橋あり。又、德島より、南方に向かへる往還に從ひて進み、小松島を過ぎ、那賀川を

渡り、富岡近傍及び日和佐を經て、海部川を渡れば、高知縣の域に入る。

徳島・香川兩縣の域は、阿波・讃岐の地にして、讃岐の海岸地方及び吉野川の沿水地は、土地平坦なれども、他は概して、山嶽重疊す。殊に、祖谷邊は、山深くして、恰も、別世界の如く、風俗・人情自ら他と異なるもの多し。吉野川の平地は、實に、藍の名産地にして、其の下流地方は、又、甘蔗に適し、上流地方は、煙草と茶とに適す。其の煙草は、價廉にして、北國地方、主に、北州に輸出す。半田桃、又、阿波の名産と稱す。而して、撫養の齋田鹽は、品位赤穗鹽に亞ぐ。讃岐は、食鹽・砂糖の産多く、其の沿海には、鯛・鰆の漁利多し。志度浦の海松布又名あり。

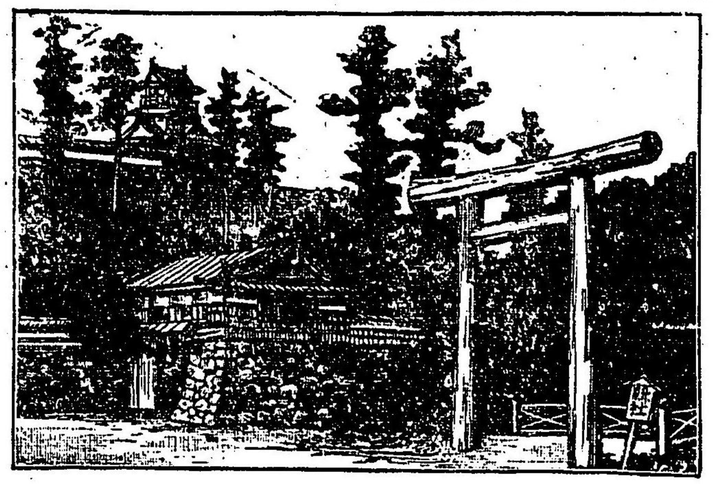
愛媛・高知兩縣地方

徳島より北西に向かへる街道は、香川縣より、愛媛縣に入り、川の江を經て、製鹽盛んなる、新居濱の南を過ぎ、西條近傍を通ず。此の街道の南に方り、立川銅山・別子銅山あり。西條近傍より、石鎚山・瓶ケ森山に上るを得べし。石槌山は、俗に石

鐵山、又、伊豫の高根と稱す。街道は、此れより西して、松山市に至る。此の地は、古、勝山と稱せし所にして、現時、愛媛縣廳此に在り。木綿縞を産し、又、茶に名あり。近傍に、三津濱あり。船舶の出入多き所とす。市の東北に有名なる道後溫泉あり。松山の東北海岸地方に、今治あり。舟泊の要地とす。該地の北方、波止濱は、鹵鹽の利多し。松山と今治との間に、高縄山あり。河野氏の累代據りし所とす。藤原純友も、亦此れに據れりと云ふ。

松山より西南行し、重信川及び肱川を渡り、八幡濱近傍を過ぐれば、宇和島に至る。此の地は、古、板島と稱せし所にして、頗る繁盛なり。八幡濱は、九州に渡るの要津にして、旅客四方より來集す。又、松山より南方、山間の地を通じ、仁淀川を渡りて進めば、高知市に至るべし。此の地は、高知縣廳の在る所にして、鏡川の北岸に沿ひ、吸

手結港の西、姫倉月見山（土御門天皇行在の舊跡）



高知公園之圖

江に臨む。吸江は、景色絶佳なる入江にして、南浦戸港に通じ、船舶の出入頻繁なり。浦戸港は、高知の咽喉に方る要港なれども、入口に岩礁あるを以て、汽船の出入に不便あるを免れず。近傍、龍頭岬上は、即ち、長曾我部氏の城趾なり。高知の東北國比佐は、往古紀貫之の居りし所にして、岡豐は、長曾我部氏勃興の地とす。

高知より海岸地方を東行し、物部川を渡りて進めば、室戸岬に至る。此の邊、捕鯨の業甚だ盛んなり。又、高知より西、仁淀川を渡り、海岸地方を通ずれば、須崎あり。頗る良港とす。須崎より西南行せば、渡川（四萬十川）あり。其の河口の南方、蹉跎岬邊は、捕鯨の業盛んなり。又、此の近傍に龍串の勝地あり。龍串は、一に屏風山と云ふ。岩狀頗る奇なり。

大洲（加藤氏六萬石）

愛媛、高知兩縣地方は、伊豫、土佐の地にして、海岸及び諸川の沿水地の外は、山嶺多くして、更に平野を見ず。伊豫簾、伊豫砥の名、世に高し。伊豫簾は、浮穴郡邊の産にして、伊豫砥は、久谷近傍の砥部地方より、之を出だす。又、伊豫の東方諸郡より伊豫柾紙を産す。伊豫には、櫨樹多く、之より木蠟を製す。大洲の半紙、宇和島の泉貨紙、又、名あり。且つ、銅産の外、安質母尼の産あり。土佐は、土佐半紙の名世に高く、大に鰹節に名あり。又、樟腦を出だす。

四國區の海岸

四國區括論

四國區の海岸　四國の東北端と淡路島との間を鳴門海峽と稱す。潮勢急激にして、大渦を成し、舟行甚だ危險なり。所謂阿波の鳴門、是なり。此の海峽の西濱より南、蒲生田岬に至る間は、概して

砂濱にして、出入稍や多し。該岬より海岸線、西南に曳き、室戸岬に至る。其の間、峭岸砂濱相交はれり、室戸岬端には、岩礁亂立す。此れより海岸西北に曲折し、又、西南に延長して、蹉跎岬(足摺岬)となる。中央部は、砂濱なれども、他は概して、峭岸なり。室戸・蹉跎相對して、彎圓狀の大灣を抱く。所謂土佐灣、是なり。鰹・珊瑚・鯨・海豚・眞珠等を産す。此の灣は、往時陸地なりしが、大地震のために、陷沒して海となりしものなり。蹉跎岬の西に臼碆あり、潮流旋回し、舟行甚だ危險なり。これより、西北、佐田岬に至る間は、豐豫海峽(豐後水道)の東岸にして、海岸出入甚だしく、幾多の島嶼碁布す。其の内に、天慶の頃、藤原純友の據りて、以て官軍に抗せし、日振島あり。佐田岬は、九州の地藏岬と相對して、速吸海門を成す。此れより海岸線、東北に曳き、砂濱となり、峭岸となりて、高縄半島の北端大隅鼻に至り、東南折して、豫讃灣の南岸となる。概して峭岸なり、尋で讃岐大半島あり。該半島の岸は、屈曲出入甚だしくして、許多の諸島嶼、其の前に羅列し、石炭・醤油素麺の産を以て名ある、小豆島、其の内にあり。

四國區の地勢と山川

四國區の地勢と山川

四國は、四國山系、中央に在りて、分水界を成し、地勢東南北の三面に向かひて傾斜す。吉森山・劒山等は、即ち、四國山系に屬す。而して、石鎚山・高縄山・飯野山は、阿蘇火山脈に屬す。此れ等の諸山、域内に鬱結重疊し、平地甚だ少なし。唯だ吉野川・仁淀川・渡川・肱川・重信川の流域及び伊豫・讃岐の海岸地方に、小平野あり。山脈北岸に接近するを以て、内海の河域は、地狹く、水流皆な短かし。吉野川は、一に四國三郎と稱す。往々水患あり。今、本地を一面の平地と假定し、一日十里の行程を以て、鳴門海峽の岸より、佐田岬に至るには、略ぼ七日を要するなるべく、又、大隅鼻よ

四國區の天産と産業

り蹉跎岬に至るには、略ぼ四日を要するなるべし。

四國區の天産と産業

四國の地たる阿讃伊の三國、地味、概ね肥沃、殊に、麥作に宜し。土佐の或る小部分には、一年二回米を收穫し得る所あり。吉野川流域の藍は、本邦無雙と稱す。製糖の業盛んにして、讃岐の三盆白、大に名あり。煙草は、阿波を推し、茶は、阿波、讃岐を稱す。阿讃伊の三州は、牛産あり。殊に、讃岐を首とす。馬は、全體多少之を飼育し、土佐駒の名、世に高し。鑛産は、伊豫の銅を第一とし、讃岐・伊豫には、又、醬油・酒の産あり。北岸の製鹽は、中國の南岸と共に、皇國に比なし。

九州區の區劃

九州區

九州區の區劃

九州區に屬する國は、筑前・筑後・肥前・肥後・豐前・豐後・日向・大隅・薩摩・壹岐・對馬及び琉球にして、此れ等の諸國に於ける縣治上の區劃を示せば、次の如し。

縣	國	縣	國
福岡縣	筑前、筑後、豐前の一部。	佐賀縣	肥前の大部。
長崎縣	肥前の一部、壹岐、對馬。	熊本縣	肥後。
大分縣	豐前の一部、豐後。	宮崎縣	日向。
鹿兒島縣	薩摩、大隅、薩南諸島。	沖繩縣	琉球。

九州區の交通系

九州區の交通系

九州にては、九州街道、東北端より起こりて、西南行し、西岸に至りて南行、南部地方に至る。東海岸にも、亦、重要の街道あり。南行、南部地方に至りて、九州街道に會す。而して、現時、北部地方には、鐵道數條ありて、主要なる交通系を成す。

區内諸縣

福岡・佐賀・長崎三縣地方（福岡・佐賀・長崎三縣地方文字闕（上古三韓の貢を受けし所柳浦（安德天皇の行宮ありし所））

小倉（小笠原氏十五萬石）

香椎宮（上古、仲哀天皇神功皇后の行在所なりし所）

箱崎宮（應神天皇、皇后の崩御ありし所）

名島（神功皇后の名島に鎮座ましし所）

出雲（天皇の出雲に巡幸ありし所）

福岡（黑田氏五十二萬石）博多（本邦三津の一）

福岡市の南方鳥飼村に九州探題の城趾あり

宇美（應神天皇の降誕ましし所）

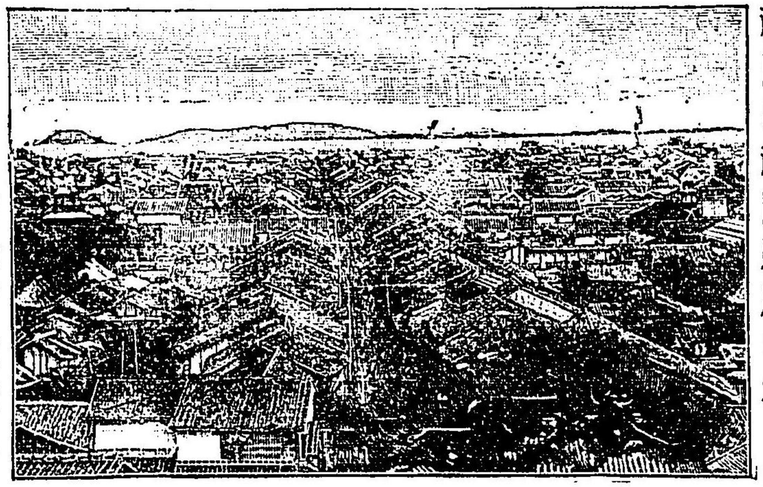
福岡・佐賀・長崎三縣地方

本州の西端、赤馬關市より、下の關海峽を渡れば、福岡縣の域にして、門司港あり。此の港は、九州の咽喉にして、赤馬關と共に砲臺を設く。頗る良港なれども、近傍に、平地なきは、缺點と云ふべし。赤馬關市も、亦此の缺點あり。門司は、現時、特別輸出港の一とす。門司より、西南すれば、小倉あり。此の地は、第十二師團司令部の所在地にして、小倉織の名、世に高し。

小倉の西南に方り、所謂筑豐炭田あり。又、南方に、英彥山あり。此の山は、中世僧院の盛んなりし頃、三千八百坊ありしといへり。」

小倉より洞海を望み、又、福智山を見、遠賀川を渡り、渺茫たる玄海灘を眺めて進めば、福岡市に至る。洞海の入口に、若松港あり。石炭積出の要港とす。又、遠賀河口に、蘆屋港あり。古の岡湊にして、神武天皇東征の時、過ぎ給ひし所なり。

福岡は、福岡縣廳の在る所にして、其の港を、博多と稱す。博多は、上古三韓唐土の渡口にして、外船時々來泊し、頗る繁盛なりしと云ふ。博多織を名產とす。本港は、特別輸出港の一にして、又、特別輸出入港の一なり。



福岡市中之圖

博多灣は、灣內廣く、又、風波を防ぐに便なれども、其の入口の狹小なると、河川の吐出する砂のため、海底の淺きとは、實に此の港の缺點とす。往時大阪・九州間の商業取引は、必ず、博多商人の手を經しが、今は必ずしも然らず。其の商勢、漸次衰ふるものゝ如し。

久留米（有馬氏二十一萬石）

天智天皇の時、外寇に備ふるため、築きしものにして、元寇の役、我が兵、之に據りて勝を制することを得たり

福岡より、南行すれば、久留米市に至る、其の途中、二日市近傍に、水城の古趾・太宰府廳趾・太宰府神社等あり。太宰府神社は、菅原道眞を祭るものにして、公は、即ち、此の地に於て薨じたるなり。久留米は、筑後屈指の都會にして、筑後川に沿ふ。久留米絣の名、世に高し。筑後河口の大川は、工業盛んなる所にして、其の西端若津は、船舶の出入盛んなり。久留米の西南、矢部川下流の流域に柳川あり。此の附近に有名なる三池炭坑あり。近傍大牟田は、即ち、石炭積出の要港として、近時大に發達せり。

柳川（立花氏十二萬石）

久留米の西、佐賀縣の域に、佐賀市あり。此の地は、佐賀縣廳の在る所にして、商況稍や盛んなり。佐賀の西北に、唐津あり。特別輸出港の一にして、又、特別輸出入港の一なり。此の地は、松浦河口に在り。水深くして、大船を入るべし。唐津燒、世に名高く、又、石炭の産出に

佐賀（鍋島氏三十五萬七千石）

唐津（小笠原氏六萬石）

名あり。町の東方に、鏡山あり。即ち、古の領巾振山なり。唐津の西北、東松浦半島の地に、名護屋の城趾あり。即ち、征韓の役、豐公の陣營を設けし所とす。此れに登れば、遙かに壹岐・對馬の諸島を望む。

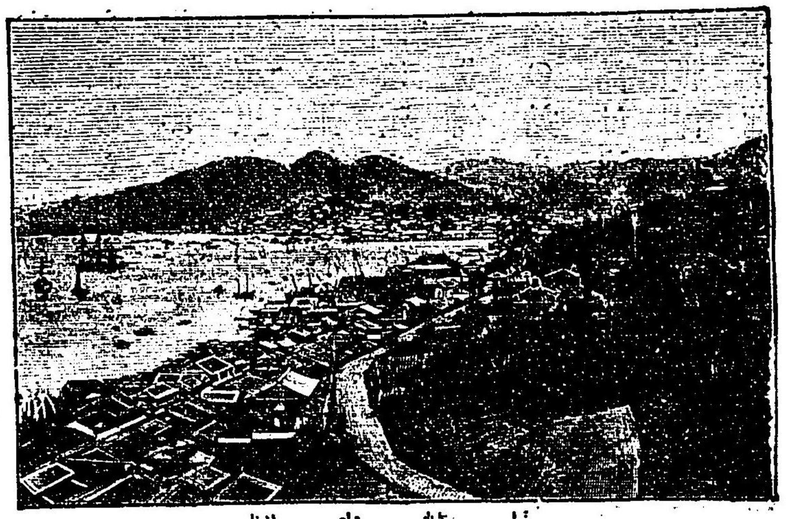
武雄溫泉

佐賀より、西行すれば、有田あり。有名なる磁器の産地とす。町北に伊萬里あり。即ち、其の磁器積出しの要港とす。因りて、其の磁器に、伊萬里燒の名あり。有田より西行すれば、長崎縣の域に入り、佐世保に至る。此の地は、軍港の一にして、第三海軍區鎭守府の所在地なり。佐世保の西北に方り、平戸島あり。島内の平戸港は、往時、我が國の始めて、和蘭と互市を開きし所なり。此の島の西北海中の生月島は、漁鯨頗る盛んなり。

平戸（松浦氏六萬千石）

佐世保の東南大村灣の東岸に沿ひて進み、西南行せば、長崎市に至る。此の地は、普通貿易港の一、長崎縣廳の在る所にして、西北岸

に、砲臺あり。現時、第五高等學校の醫學部を、此に置く。長崎煙草の名、世に高し。此の地の煙草は、馬關と同じく、其の原産地に非ずして、薩摩地方より輸入したる葉を、此にて刻めるものとす。此の港は、水深く、且つ廣く、實に、自然の良港たり。本港より、外國に輸出する主要品は、石炭・鰯・米・樟腦・椎茸等にして、外國より、本港に輸入する主要品は、石油・白砂糖・生牛皮・繰綿・油糟等とす。長崎の西南の海上に、中



長崎之圖

の島・高島あり。共に炭坑を以て、名あり。長崎の東方に當たり、島原（深澤氏七萬石）

半島あり。其の内に島原あり。繁華なる都邑とす。町西に聳ゆるは、溫泉嶽にして、西の山腹に島原溫泉あり。島原の西南に、口の津あり。特別輸出港の一にして、又、特別輸出入港の一なり。多く三池炭坑の產を此に致し、此れより、上海・香港等に輸出す。

長崎より、西に向かひて、航すれば、五島列島に至るべし。列島中には、福江島・中通島を大なりとす。福江島の東岸福江は、繁華なる所にして、中通島の有川は、捕鯨に名あり。又、長崎より、汽船に乘じて、北方に航すれば、壹岐に至るべし。壹岐の北部には、磐石にて疊みたる洞穴多し。土俗、之を鬼の岩屋と稱す。島内に、郷の浦・勝本等の港あり。勝本より、西北に向かひて、對馬海峽を通過すれば、對馬に至るべし。對馬は、上島・下島の二より成る。上島の嚴原は、下島の佐須奈・鹿見と共に朝鮮に限りて、通商を許されたる、特別輸出入

港なり。又、竹敷あり。即ち、佐世保軍港の附屬港にして、頗る良港なりとす。北海岸の鰐浦より、以て朝鮮釜山浦の煙火を望むべし。

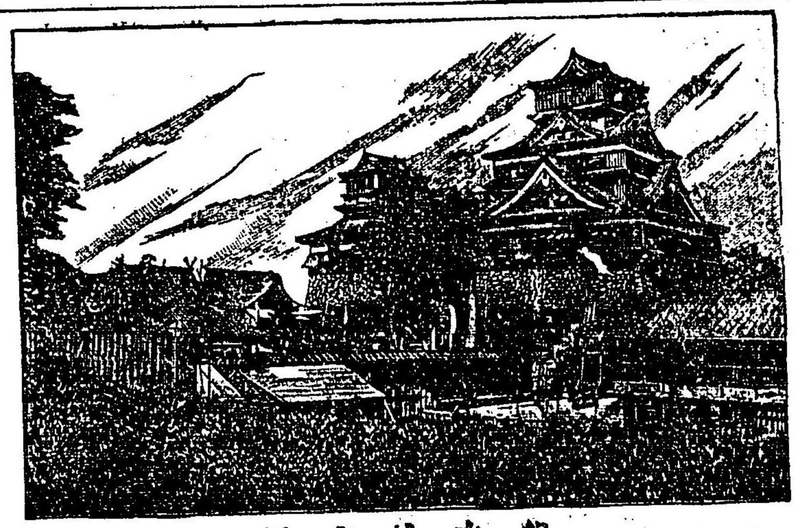
福岡佐賀長崎三縣の域は、九州北部の地なり。域内山岳起伏すれども、皆な低卑にして、遠賀川及び筑後川の流域は、頗る平坦肥沃なり。九州鐵道は、即ち、平地を縫ひて走れり。此の地方は、石炭に富み、英彦山の杉、良材と稱す。諸所櫨樹を植え、盛んに蝋燭を製す。五島列島及び對馬は、地味五穀に適せず。唯だ甘藷に適す。長崎縣の海上は、實に漁利に富み、五島鯨の名、世に高く、又、五島鰯の産出頗る多し。而して、島原大村等は、大に砂糖及び七島産を産す。

熊本縣地方

久留米より南行、熊本縣の域に入り、菊池川を渡り、西南の役の激戰地田原坂近傍を通ずれば、熊本市に至る。菊池川上流地方隈府の城趾に菊池神社あり。菊池氏世々の靈を祠る所とす。熊本は、九州屈指の大都會にして、熊本縣廳の在る所なり。市街、白川に沿ひ、商業盛んにして、百貨輻輳す。中央に熊本城あり。

慶長年中、加藤清正の築きしものなれども、西南の役、兵燹に罹り、樓櫓燒失せり。現時、第六師團の司令部を此に置く。市の近傍細川氏の別業成趣園は、風致を以て名あり。白川河口の百貫石は、此の地方より、長崎に至るの要津とす。現時、熊本に、第五高等學校あり。熊本より東、白川の畔に沿ひて進めば、阿蘇山あり。有名なる活火山とす。

熊本より南行、緑川を渡り、宇土半島の頸部を横過すれば、八代に至る。此の地は、球磨川の北岸に沿ひ、



熊本城之圖

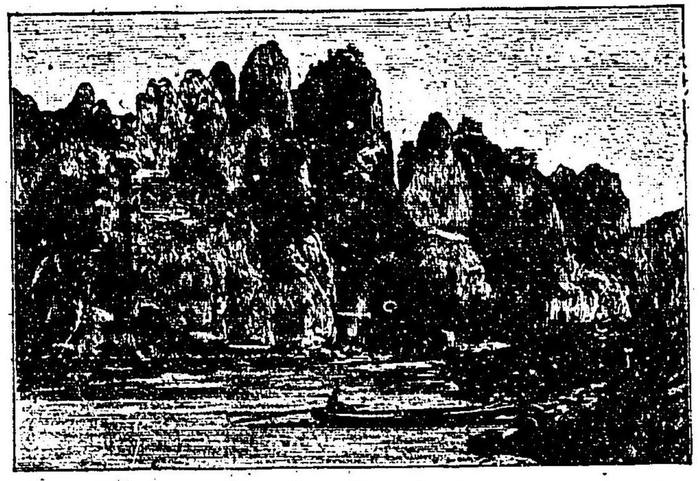
頗る繁盛なり。此の地の産八代燒は、陶器に象眼を施すを以て、名あり。宇土半島の西端に、三角港あり。特別輸出港の一にして、肥後米輸出を目的とす。又特別輸出入港の一たり。三角港の南西に、天草群島あり。其の本島は、上島・下島に分かる。下島に、富岡あり。八代より球磨川に沿ひて、其の上流地方に至れば、人吉あり。球磨川は、水勢急激、矢の如く、實に、日本三急流の一なり。

熊本縣、即ち、肥後の地は、東方には、山巒鬱結すれども、西北部は、地勢平坦にして、所謂肥後平野を成し、大に米を産す。又、粟の産に富む。東南部の萬山重疊せる中に、五家の莊あり。傳へ云ふ。平家遺族の潛匿する所と。其の路、險崖危棧、牛馬なく、又、米穀に乏し。天草島の特産は、甘藷甘蔗にして、石炭陶土、又、世に名あり。天草炭田より出だす石炭は、所謂無滓炭とす。

大分・宮崎兩縣地方

（大分・宮崎兩縣地方　中津・臼杵・佐賀・十萬石）

大分縣の中津に至る。此の地は、山國川の東岸に在りて、市街繁盛なり。山國川の上流に、耶馬溪の勝あり。此れより驛館川を渡れば、宇佐に至る。此の地に有名なる宇佐八幡社あり。和氣清麿の神勅を請ひたる所として、史上に名あり。宇佐より國東半島の頸部を過ぐれば、別府に至る。名高き溫泉あり。此の地の西北には、鶴見山及び豐後富士の名ある、由布岳巍然として峙立せり。別府より、海岸地方を通じて進めば、大分あり。即ち、大分縣廳の在る所にして、むかし、大友氏累世此に居り、威を四隣に振へり。



耶馬溪之圖

延岡（内藤氏七萬石）

大分より、大分川・大野川を渡れば、佐賀關半島あり。其の南方にあたり、臼杵及び佐伯あり。大野川附近を南行し、進みて宮崎縣に入れば、延岡あり。此の地は、五箇瀨川に跨りて、市街繁盛なり。五箇瀨川の上流三田井近地は、即ち、高千穗村にして、上代天孫降臨の靈地と傳稱す。延岡より、細島の近傍を過ぎ、美々津川・高鍋川を渡り、高鍋に出で、進みて、一の瀨川を渡り、米穀の良産地なる佐土原の東を過ぐれば、宮崎に至る。宮崎は、大淀川の流れに跨り、宮崎縣廳の在る所とす。此の地は、もと、原野なりしが、漸次開拓して、今日の繁華を見るに至れり。

飫肥（伊東氏五萬一千石）

宮崎の南方に、飫肥あり、其の東南、油津港は、頗る良港とす。飫肥地方は、氣候溫暖なるが故に、近時、熱帶植物試驗場を設け、珈琲幾那の類を培養す。

宮崎より、西南行すれば、都の城あり。此の地は、繁華なる都邑にして、木綿・絹・黑砂糖・茶等を產す。或は云ふ、宮丸村の地、高千穗の宮趾なりと。此の邊萬年青多し。

大分・宮崎兩縣の域は、九州東部の地にして、山岳域內に縱橫し、平地少なし。殊に、西境の邊には、高山峻岳巒結して、高嶺を成し、其の內に、九重岳・祖母山・霧島山等あり。霧島山には、東西兩岳あり、東岳の頂上は、即ち、高千穗峯にして、天逆矛あり。西岳は、又、韓國岳と稱す。山中の樫・良材と稱す。特に、日向は、山林に富み、良材巨木を出だし、樟腦の產あり。櫨樹、又、能く繁生す。豐後の盛衰、日向の半切、世に名高く、日向邊には、又、柑橘の產多し。

鹿兒島縣地方

鹿兒島縣地方

都の城より、西行すれば、鹿兒島縣の域に入り、鹿兒島灣の東岸福山に至る。此の近傍良馬を產す。此れより、同灣の岸に從ひて、北行すれば、鹿兒島神宮ある濱の市を過ぐ。近傍國分は、煙草の產を以て有名なり。鹿兒島神宮は、彥火々出見尊を祭

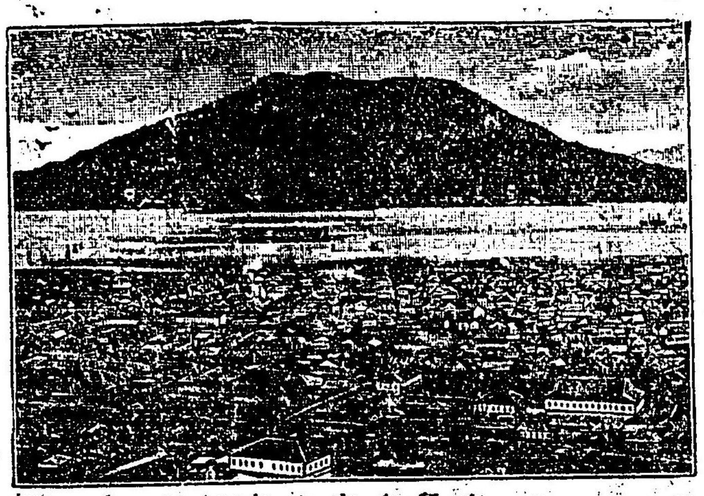
吾平山陵（鵜葺草不合尊）

[暮なずみたる所]

る。濱の市の東北高屋山陵は、同尊を葬りたる所にして、又、東方霧島山の西麓に在る霧島神宮は、彦火々瓊々杵尊を祀りたる所とす。

[鹿兒島(島津氏七十七萬石)]

濱の市より加治木に出で、別府川を渡り、鹿兒島灣の西岸に從ひて、進めば、鹿兒島市に至る。此の地は、鹿兒島縣廳の在る所にして、市の西北に、城山あり。即ち、西郷隆盛の戰死せし所とす。其の東麓を鶴丸城趾とす。生絲、綿煙草を名産とす。田の浦の陶器、又、雅致を以て名あり。此の地の東面に在るは、即ち、櫻島にして、御岳高く中央に聳ゆ。



鹿兒島市中之圖

[太宇寺[illegible]豊臣氏四征の時、本陣を置き、所可愛山陵と傳ふ。]

[火々瓊々杵尊の陵なりと傳ふ。]

[居城島津忠久以下五代の居城ありしの所]

鹿兒島より西北行し、川内川を渡り、甑群島を望み、燒酎を以て、名高き阿久根を過ぎ、海岸に沿ひて、進めば、熊本縣の域に入り、熊本に達すべし。又、鹿兒島より、鹿兒島灣の西岸に從ひて、南行せば、谷山あり。驛西に、軍馬育成所あり、盛んに駿馬を育成す。谷山より煙草を以て名ある、指宿を過ぐれば、山川港あり。港内水深くして、出世、琉球船舶の來泊せし所なり。此れより西折、薩摩富士の名ある開聞岳の北を過ぎて進めば、枕崎あり。此の邊、鰹鯛の收獲多し。其の西に坊津あり。上世、本邦三津の一にして、往時、唐船多く來泊せり。

[川邊十島(硫黄島、竹島、口之島、中之島)]

鹿兒島より、汽船に乘じ、鹿兒島灣を出づれば、薩南諸島に至るべし。薩南諸島は、之を大別して、川邊十島、種子島、屋久島及び大島群島となす。川邊十島中、口の島以南の諸島は、或は、之を寶七島と稱

す。各島皆な、火山にして、硫煙を絶たず。其の海上は、七島灘と稱し、航海者の危險とする所なり。屋久島の一湊港、大島の名瀬港等は、舟泊の要地とす。

（諏訪瀬島・平島・臥蛇島・悪石島・寶島。）

（大島群島（大島・喜界島・徳之島・沖之永良部島・與論島。）

鹿兒島縣の域は、九州南部の地にして、山岳重疊し、平地少なし。煙草は、實に此の地方の名產にして、苗代川にては、所謂薩摩燒を製す。芹ケ野・鹿籠の金鑛、大に名ありて、諸地、又、銀を產し、谷山よりは、錫を出だす。櫻島の大根、圓大を以て稱せられ、薩摩上布・薩摩絹・薩摩鯉節、世に名高く、屋久の杉材、又、大に名あり。大隅の佐多地方には、蘇鐵多く、高隈山の萬年青は、舊時有名なりしものなり。又、瑠璃・沈・椒・檳榔・龍眼樹の產ありて、東方嚬涙地方には、映山紅あり。大島群島にては、黑砂糖・紬・鯨・疊表を產し、硫黃島よりは、硫黃を出だし、寶七島よりは、疊表を出だす。因りて七島產の稱あり。薩南諸島には、植物に、沙糀・阿咀呢ありて、又、多く羅漢松・蘇鐵・竹を產し、甘藷能く繁生す。動物には、永良部鰻・飯匙倩ありて、又、瑇瑁を出だす。而して、種子島には、牛馬と稱する馬即牛身の奇獸あり。

（沖繩縣地方）

沖繩縣地方

沖繩縣地方は、即ち、琉球群島にして、之を沖繩群

島・宮古群島・八重山群島の三部に分かつ。後の二者を總稱して、常に先島群島と云ふ。

沖繩本島は、之を國頭・中頭・島尻の三部に分かち、又、之を幾多の間切に小別す。縣廳は、南部の那覇に在り。那覇は、清國に限りて、通商を許されたる、特別輸出入港なりとす。那覇にては、砂糖・泡盛・木綿・絽等を大阪・神戸・鹿兒島に輸出し、米・石油・茶等を多く大阪・神戸より輸入す。又、鹿兒島より之を輸入することあり。近傍首里は、舊時國王の

琉球人之圖

居りし所とす。北部に運天港あり。本島第一の良港とす。琉球諸島は、概して其の沿岸に珊瑚礁あるを以て、何れの港も淺く、且風を防ぐの便なけれども、其の海底に珊瑚礁あるは、大に錨の定着に利なしとせず。沖繩本島の西に、慶良間列島あり。

宮古群島は、沖繩群島の西南に在り。宮古島の西里を名邑とす。八重山群島は、其の西南に在り、石垣島・入表島を大なりとす。

琉球群島の產は、大島群島の產と、略ぼ相同じく、縞紬・木綿・絹紬・上布・芭蕉布・朱泡盛・蠟・表・砂糖等を名產とす。琉球塗の名、又、世に高し。石垣島の於茂登岳は、萬年青の名の因りて起こる所、沖繩島の名護岳は、仙人脂・甲蟲の名の因りて起こる所なりと云ふ。

九州區括論

九州區の海岸

九州の東北端と、本州の西端との間は、即ち、下の關海峽にして、一に關門海峽と稱す。其の東北端より國東半島に至る間は、海岸屈曲少なし。該半島を、西に廻れば、大分灣あり。佐賀關半島東に突出して、形、瓢の東に向かひて仆るゝが如し。其の盡端を地藏岬と云ひ、伊豫の佐田岬と相對す。佐賀關半島以南は、豐豫海峽の西濱にして、出入曲折甚だしく、岬灣相交はり、概して峭岸たり。鶴望岬を西に廻れば、海岸線西南に曳き、都井岬に至る。其の海上は、即ち、日向灘にして、風濤荒し。海岸略ぼ平直にして、砂濱多く、安全の碇泊地に乏し。都井岬を西に廻れば、志布志灣あり。一に大隅灣と稱す。大隅半島其の西に突出し、薩摩半島と相擁して、鹿兒島灣を抱く。此の邊、砂濱多し。大隅半島の南端は、佐多岬と稱し、航行危險多し。鹿兒島灣は、一に薩隅內海と稱す。灣內水深く、其の形狀、東京灣に似たり。薩摩半島を北に廻れば、野間岬あり。此れより北は、九州の西岸にして、海岸大に錯綜す。潮流の急なる黑

瀬戸を過ぐれば、八代灣あり。沿岸多く峭崖にして、天草島其の海上に横はる。宇土半島を廻りて、北すれば、筑紫海あり。一に前海、又、有明洋と稱す。夏日暗夜燐光を放つ。所謂不知火にして、俗に之を千燈籠と稱す。鰭魚海茸の奇産あり。筑紫海の西に在る大半島は、肥前半島にして、此の半島は、更に分裂して島原半島、彼杵半島をなし、野母崎、南に突出す。野母鰹世に名高く、海上漁利多し。島原半島の西は、即ち、千々岩灘にして、野母崎の海上は、即ち、天草洋なり。彼杵半島は、東に大村灣を控ふ。此れ

天草洋之圖

より北は、海岸殊に錯雜し、概して峭岸にして、北松浦半島東松浦半島と相擁して、其の間に伊萬里灣を抱く。東松浦半島の東には、唐津灣あり。此の邊の海上を松浦潟と呼ぶ。唐津灣の東北に、芥屋大門あり。岩山海中に突出し、頗る壯觀たり。此れより東すれば、博多灣あり。海の中道、其の北に斗出し、風景佳絶なり。灣内は、元寇覆沒の古蹟とす。博多灣を出で、東に進めば、鐘ヶ崎あり。此の岬以東は、即ち、響灘にして、以西は、即ち、玄界灘なり。九州の北岸は、所々砂濱あれども、概して峭岸なり。

三韓より舶戰せる大艦、此の海中に沈めりと、古來之を掘げんとして、未だ果さず

九州區の地勢と山川

九州には、北部に、九州北部山脈あり。雷山・寶滿山・福智山等之に屬す。また、南部に、九州南部山脈あり。市房山・祖母山等之に屬す。此の兩山脈の間に、阿蘇火山脈ありて、一群彙を成す。阿蘇山・九重岳・由布岳・英彦山等其の内に在り。又、霧島

九州區の地勢と山川

帶火山脈あり。開聞ヶ岳・御岳・霧島山・溫泉岳・多良岳等之に屬す。之を要するに、九州は、中央部に、高山鬱結して、東西の分水界をなし、西岸は、西に向かひて傾斜し、北岸は、北に向かひて傾斜す。南部は、地域狹小に、且つ、山巒重疊するを以て、巨流なし。平地は、筑後川の平野、肥後平野を大とす。其の他、福岡近傍、遠賀川の流域、豐前の海岸地方、大分・大野下流の流域、大淀・高鍋下流の流域、川内川の沿水地等に、又、小平野あり。筑後川の流域は、略ぼ十二萬五千町の田圃を有す。筑後川・球磨川・川内川は、之を總稱して、筑紫の三大河と云ふ。筑後川は、一に筑紫二郎と稱す。筑後に入るの後よりして、舟楫を通ずべし。球磨川は、八代よりして下、舟筏を行るべく、川内川は、河口より上ること、凡そ十六里、舟楫を通ずべし。今、九州本地を以て、一面の平地と假定し、一日十里の行程を以て、下の關海峽の南岸より、佐多岬に至るには、略ぼ八日餘を要するなるべく、地藏岬より平戸海峽の岸に至るには、略ぼ六日を要するなるべく、又、鶴望岬より宇土半島に至るには、略ぼ四日を要するなるべし。

九州區の天產と產業

九州の地は、山嶽鬱疊すれども、所々平野ありて、耕地に富み、米・麥の產多し。特に、肥後米・筑前米良質を以て稱せらる。日向は、耕地少なし。麥は、筑後に適し、粟は、肥後を第一とす。茶は筑後・肥後を巨擘とし、其の南方の諸地、又、其の產に富む。繭は豐前の外其の產出敢て大ならず。綿は、兩肥に宜しく、麻は、豐後・肥後・日向・薩摩を推し、兩筑・肥後・薩摩・大隅・大島・沖繩等に藍の產あり。製糖は、南部に盛んなりとす。兩筑・兩肥にては、櫨を原料として、多く蠟燭を製出す。煙草は、薩摩・大隅・豐後・肥後に多く產す。各國牛馬の飼育、盛んなり。牛は、特に豐後・肥前・筑前に多く、馬は、特に

筑後、肥後、薩摩に多し。日向、大隅、薩摩にては、豚を飼養す。九州地方は、鑛山に富み、豐後、薩摩に錫山、日向に銅山、大隅、薩摩に金山あり。肥前及び筑豐の炭坑、又、頗る有名なり。山林は、日向を大とす。九州の南部には、樟多し、而して、九州の脊梁を成せる山脈中には、椎茸の産多し。木綿、綛、甘藷は、薩摩綛、薩摩薯と稱すれども、薩摩の固有産に非ず。琉球乃ち其の恩主たり。又、諸所にて、七島蓆を製出す。

臺灣區

臺灣は、我が國人が、古代、高砂と呼びし島にして、西洋人は、之をフォルモサ(FORMOSA)と呼ぶ。蓋し美島の義なり。臺灣海峽を隔てゝ支那に對す。此の地域は、もと支那の領土なりしが、日清戰爭の結果として、支那より我れに割讓せしものなり。本島に屬する島嶼中、大なるも

の、西に、澎湖列島あり。東南に、火燒島、紅頭島あり。現時、本區縣治上の區劃は、臺北縣、臺中縣、臺南縣、嘉義縣、新竹縣、鳳山縣の六つとす。又、宜蘭廳、臺東廳、澎湖廳を置きて、其の附近諸地を治す。

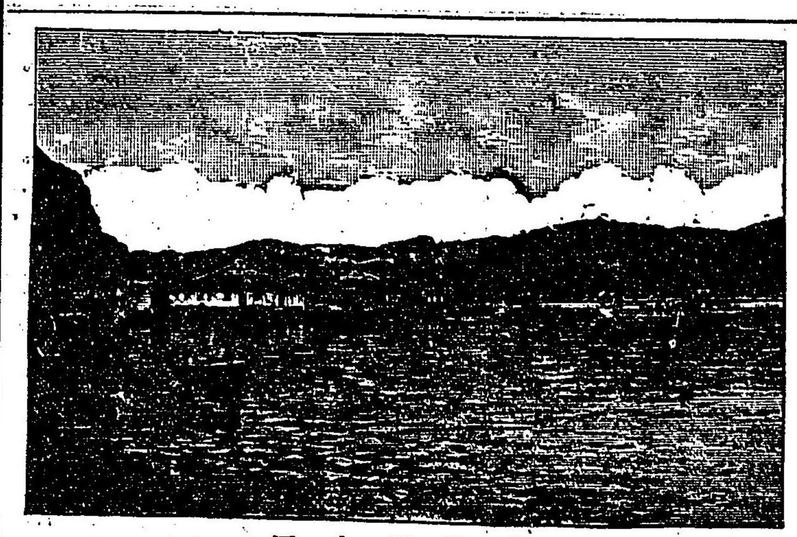
區內諸地

西部地方

九州の長崎港より、西南に航すれば、臺灣の基隆(鷄籠)港に至るべし。基隆は、基隆山、港背に聳え、港內水深く、大艦を泊すべけれども、東北風を防ぎ難きと、潮流の極めて急駛なるとの不利あり。本港は、主に石炭を輸出す。

基隆の東南に、宜蘭及び蘇澳あり。蘇澳は、特別輸出入港の一にして、其の沿岸には、珊瑚礁ありて、船舶の碇繫に便なり。此の地は、往時熟蕃の根據地なりし所なれども、今は、多く蕃族を見ず。宜蘭は、即ち、宜蘭廳の所在地なり。

基隆より西すれば、臺北府あり。此の地は、臺灣總督府及び臺北縣廳の在る所にして、府城は劉銘傳の築けるものなり。此の府は、本州の京都の如く、四面、山を繞らせり。府城の西南、艋舺(舊街)は、新店河に臨み、市街頗る繁華なり。又、城北に大稻埕(新街)あり。新店河と大嵙崁河との合流する所に在りて、製茶の業盛んなり。產出の茶は、烏龍茶と稱し、米國人大に之を好む。此の地には、外國人の住する者多し。臺北の北淡水溪口に、淡水港(滬尾)あり。此の港は、河より吐出す



基隆港之圖

る砂のため、海底淺くして、吃水淺き船にあらざれば入る能はず。又、初夏大雨後、河流急湍となり、投錨安全ならざることあり。本港は、茶・石炭・樟腦・砂金等を輸出し、綿布類・金屬・鴉片等を輸入す。

臺港特別輸出入港　梧樓港特別輸出入港

臺北より、西南行すれば、新竹あり。即ち、新竹縣廳の在る所とす。新竹より、海岸地方を南行せば、後壠溪を渡る。河口後壠港は、特別輸出入港の一にして、港内水深く、小汽船を入るべし。後壠溪を溯りて、進めば、苗栗あり、樟腦產地の一邑とす。

後壠邊より南せば、臺中府あり。此の地は、臺中縣廳の所在地にして、もと臺灣府と稱せし所なり。臺中の西に、彰化あり。又、其の西に、鹿港あり。支那に渡るには、此れよりするを最も近しとす。樟腦及び生蕃地の產物、此に集まり、支那船常に輻輳す。實に、特別輸出入港の一とす。臺中より、東すれば、山中に、埔里社あり。其の南の水社

に、龍湖あり。

臺中より南行、樟腦の集散を以て著はるゝ雲林の西を通じ、嘉義縣廳の所在地なる嘉義を過ぐれば、臺南あり。南部商業の中心にして、久しく本島の首府たりし地なり。此の西に、安平港あり。東洋貿易の一市場にして、盛んに砂糖・樟腦等を輸出す。臺南より南すれば、鳳山あり。鳳山縣廳の在る所とす。其の西方に、打狗港あり。一に旗後と云ふ。盛んに砂糖を輸出す。安平は、日に盛大に趨き、此の地は、

東石港（特別輸出入港）

臺灣人之圖

日に衰ふるが如し。鳳山より東南行し、下淡水溪を渡れば、東港あり。商業繁盛の要地にして、特別輸出入港の一なりとす。南部地方の穀物及び砂糖を輸出す。此れより海岸に沿ひて東南進すれば、恒春に至る。

東部地方

東部地方

臺東地方、即ち、東部一帶の山地は、所謂生蕃地にして、未だ其の狀況を審にせず。曾て我が漂民を虐殺したる壯丹社は、恒春北方の山中に在る一部落なりとす。此の地方の卑南は、即ち、臺東廳の在る所なり。

澎湖列島

澎湖列島

安平、若しくは、打狗より、西北に航すれば、澎湖島に至るべし。島内山嶽なく、風強くして喬木を見ず。此の島は、漁翁嶼、白砂島と相擁して、大灣を抱く。此の三島及び其の他、近傍の諸島を合はせて、之を澎湖列島と總稱し、現時、澎湖島の馬公（媽宮）に澎

湖廳を置きて、澎湖列島を治す、馬公港は、珊瑚礁多くして、其の面積を縮小するも、水深くして大船を碇泊すべし。又、風波靜穩なるを以て、夏秋颶風の候、支那船、風浪を此に避く。本港は、實に特別輸出入港の一とす。

臺灣區の海岸

臺灣區括論

臺灣區の海岸　臺灣の最北端は、富貴角と稱す。此れより東南に廻れば、北斗角三貂角あり。東海岸は、一帶斷崖にして、屈曲少なし。南端には、南岬及び南西岬あり。此の邊、珊瑚礁多くして、又、霧深し。西海岸は、東海岸に反し、平遠にして土砂多し。近海、鰮の漁獲多く、海岸諸處に、又、牡蠣を養成す。

臺灣の地勢と山川

臺灣區の地勢と山川　臺灣の地たる、西部は、海岸に沿ひて、平野を成せども、東部は、一面平地稀にして、山勢直ちに、海岸に迫る。中央部より、少しく東方に偏して、一萬尺内外の鏈鎖を成せる大山系あり。之を玉山山系と云ふ。畢祿山、新高山(玉山)等の諸高山、其の中に在り。新高山は、其の高さ、富士山を凌ぐ。又、本島の北方に大屯山彙ありて、火山脈に屬す。臺灣には、大河なし、淡水溪は、稍や大なれども、之を本州地方の河に比すれば、兒孫の如し。

今、臺灣本地を、一面の平地と假定し、一日十里の行程を以て、最北端より最南端に旅過するには、略ぼ十日を要するなるべく、最廣部に就きて、東より西に旅過するには、略ぼ三日にて足れるなるべし。

臺灣區の天産と産業

臺灣區の天産と産業　臺灣は、地味豐饒にして、米産に富み、又、多く甘藷を栽培す。米甘藷共に、一年二回の收穫あり。茶は、北部地方に産し、製糖業は、南部の西岸地方に行はる。又、麻を産す。樟樹

は、主に東部の諸地に多くして、樟腦の産は、實に本島の富源たり。殊に、大嵙崁地方は、其の樹の巨大なるもの多し。北部には、客家の村落多く、樟樹の採伐は、多く其の手に依る。島内、又、鑛産に當み、石炭・石油・硫黄・砂金等を出だす。中に就きて、砂金・石炭最も多く、石炭は、現時基隆附近にて、盛んに之を採掘す。竹・龍眼樹・杪欏・椰樹・麒麟血樹・檳榔樹等、熱帶性の植物能く繁茂す。水牛は、運搬耕耘に用ゐ、豚は、食用に供す。

北州區の區劃

北州區

北州區の區劃　北州區に屬する國は、渡鳥・後志・石狩・天鹽・北見・膽振・日高・十勝・釧路・根室・千島の十一ヶ國にして、現時北海道廳を置きて、此れ等の諸國を治す。

北州區の交通系

西部地方

北州區の交通系　北州は、近年の開拓に係るを以て、内地には、叢林野を蔽ひ、寥として人家を見ざる所多けれども、又、新設の道路すくなからず。鐵道は、西南部の平地を通ずるもの、外、鑛産運搬のために、設けたるもの、二三あり。

區内諸國

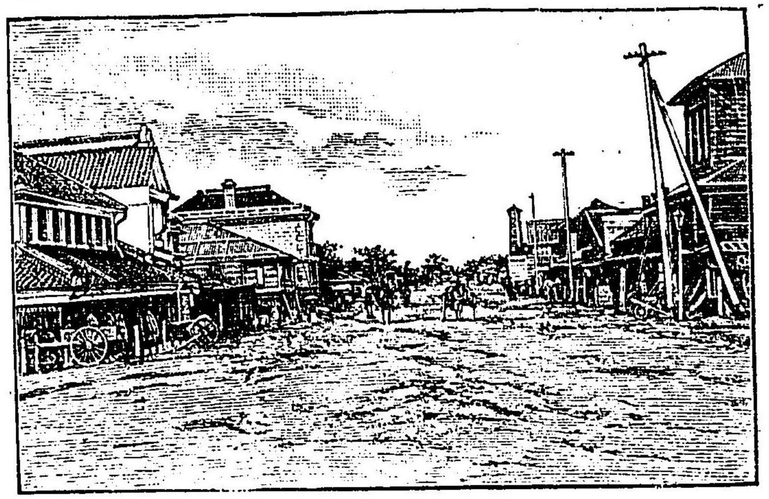
西部地方　本州の北端青森より北航、津輕海峽を渡れば、渡島の函館區に至るべし。函館は、港内水深くして、大波なく、大船安全に碇泊す。此の地は、普通貿易港の一にして、水産物・硫黄・石炭等を輸出す。他日西比利亞鐵道成るの曉には、本港は、亞米利加・西比利亞間の直航の中心地となるべし。函館の東北に、五稜郭あり。安政年間、函館奉行の築きしものにして、維新の歴史に關して、名あり。世に、函館氷と稱するは、其の外壕にて製するものなり。

上の圖（松前氏の舊武田信廣創業の地）

西館之圖

函館より西、函館灣に沿ひ、右に汗軒岳を望みて、進めば、福山に至る。即ち、松前氏の居城せし所にして、往時は、松前と稱せり。福山より、西海岸を北行せば、江差あり。此れより後志國に入り、左に奥尻島を望みて進めば、壽都を過ぎ、尻別川（後志川）をわたる。此れより積丹半島の沿海地を迂回すれば、小樽港に至る。小樽は、西方に陸地突出すれども、東方開くが故に、時々風浪の憂ひあり。然れども、其の位置良好なるが故に、商勢大に盛んなり。小樽の東南石狩國の域に、

札幌區あり。此の地は、もと開拓使本廳の在りし所にして、今は、北海道廳の所在地なり。市街頗る繁盛にして、農學校あり。



札幌之圖

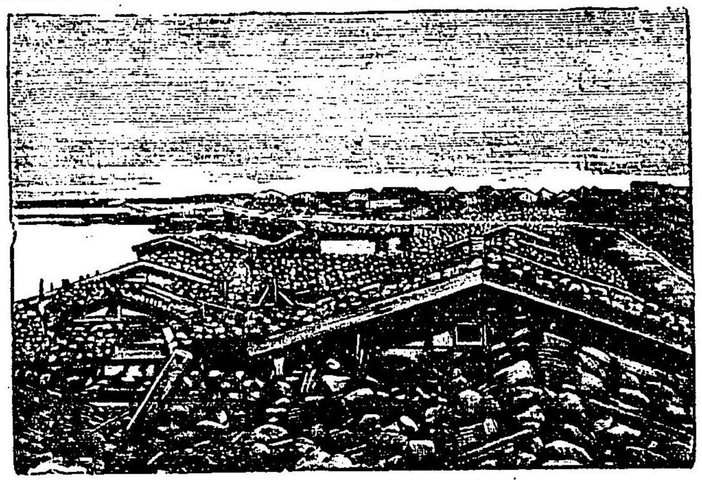
札幌より、北行すれば、石狩川を渡る。此の河は、我が國第一の長河にして、長さ百十一里（河幅三百餘間深さ六七尋）とす。中流にカムイコタンの險あり。其の河口は、有名なる鮭漁場なり。此れより海岸地方を北行すれば、天鹽國に入り、増毛に至る。此の地は、小樽以北の要港とす。此の邊、鰊の漁業盛んなり。増毛より、北すれば、天鹽川を渡る。此の河

は、水緩かなれども、河口は、風浪荒くして、舟泊に便ならず。

西部地方は、即ち、渡島後志・石狩・天鹽の地にして、所々に山巒鬱結すれども、石狩川及び天鹽川の沿岸に大原野あり。石狩原野は、地味、概ね膏腴にして、農桑・牧畜に適す。其の上川地方は、北州の中央にして、他日一都府を立て、離宮を設けらるゝ豫定なり。天鹽は、大に樹木に富み、良材を出だす。沿海の山脈には、蝦夷松叢生す。後志・渡島は、土地狹くして、廣原・大河なし。此の地方には、鮭・鮏の利多く、鱒・鱈の漁獲多し。又、渡島邊の海上は、昆布を產す。而して、石狩は、大に石炭に富めり。

東北部地方

天鹽川を渡り、北見國に入り、利尻・禮文の兩漁島を見て進めば、稚内港を經て宗谷岬に至る。宗谷岬は、北州の北端にして、樺太島のノトロ岬と相對す。此の岬より南に廻り、砂丘多き海岸を過ぎて、東南行せば、猿間湖邊を過ぎて、常呂川を渡り、網走に至る。此の港は、軍港たるに適し、又、商港たるに適すと云ふ。南釧路に通ずべく、西方、石狩に至るべし。近傍に、網走湖あり。湖中水藻多くして、綠色を呈す。網走より、海岸に沿ひ、東すれば、知床半島あり。其の中途より、東南行、斜里山近傍を過ぎて根室國の域に入れば、西別川を渡る。知床半島の南側は、硫黃を產す。知床硫黃山と稱するもの、是なり。西別川は、大に鮭・鱒を產し、其の水源に、產卵場あり。此れより、風連湖邊を過ぐれば、根室港に至る。此の港は、船舶の出入多く、頗る繁盛なり。花咲港と相腹背す。根室港結氷の際は、船舶花咲港に入るを常とす。



根室之圖

東北部地方は、即ち、北見根室の地にして、北見は、西方に、山脈連亙すれども、海岸

及び諸川の沿岸に、平原多し。其の中、常呂網走の原野は、地味最も肥沃なり。根室は、北方及び西部に、山巒あれども、他は、概して高原平野なり。兩國共に鮭鱒昆布鱈等の漁獲多し。北見には、又、鯨の收利ありて、且つ硫黄の産あり。根室は、氣候甚だ寒く、夏秋の候、深霧屢ば起こり、寒冷を感ずるを常とす。

南部地方

南部地方

根室より西南、海岸地方を進めば、厚岸港あり。水深くして、舟泊に便なり。港の内部に、厚岸湖あり。大に牡蠣を産す。此れより、西行すれば、釧路港あり。此の港は、釧路河口に在りて、特別輸出港の一とす。釧路川の上流地方は、大に硫黄を出だす。釧路港は、即ち、其の産を輸出するの要港たり。又、其の上流地方には、釧路湖・阿寒湖等ありて、雌阿寒・雄阿寒等の山嶽あり。釧路川を渡りて、海岸を西南行すれば、十勝國に入り、十勝川を渡り、又、日高國に入り、襟裳岬邊を過ぎ、西北行、染退川及び沙流川を

渡る。沙流川の沿岸及び十勝川本支流の沿岸には、アイノ人の部落、甚だ多く、平取村最も大にして、其の地に源義經の祠あり。

此れより、海岸地方に就きて、進み、膽振國に入れば、室蘭港に至る。繪鞆岬西北に出で、水深く風浪の憂ひなし。本港は、鐵道交通系の端に在りて、頗る要港たれども、港内の狹きを缺點とす。室蘭は、特別輸出港の一にして、又、第五海軍區鎮守府の所在地に指定せられたる所なり。室蘭の北方に、紋鼈あり。紋鼈の北方に、洞爺

湖あり。湖邊よりは、南に有珠岳を望み、北に、蝦夷富士の稱あるマクカリ嶽を見る。洞爺湖の東北に支笏湖あり。樽前、惠庭の諸岳、其の周圍に聳ゆ、紋鼈より、噴火灣の沿岸地方を廻行すれば、渡島國に入る。

南部地方は、即ち、釧路・十勝・日高・膽振の地にして、十勝・釧路は、根室と共に、概ね高原なり。諸所に山岳巒結すれども、釧路川・十勝川の流域及び札幌より室蘭に至る間は、其の地頗る平夷なり。十勝川の流域は、之を十勝原野と稱す、其の面積、頗る大にして、地味は、高燥肥沃なり。日高の新冠高原は、耕牧に適し、大に馬を牧す。昆布・鮭・鰕の漁利多く、襟裳岬附近は、著名なる昆布繁殖地なり。釧路邊には、又、鰊の收獲あり。而して、釧路は、硫黄・石炭を出だし、膽振は、硫黄を產す。十勝石又世に名あり。

千島地方

千島地方

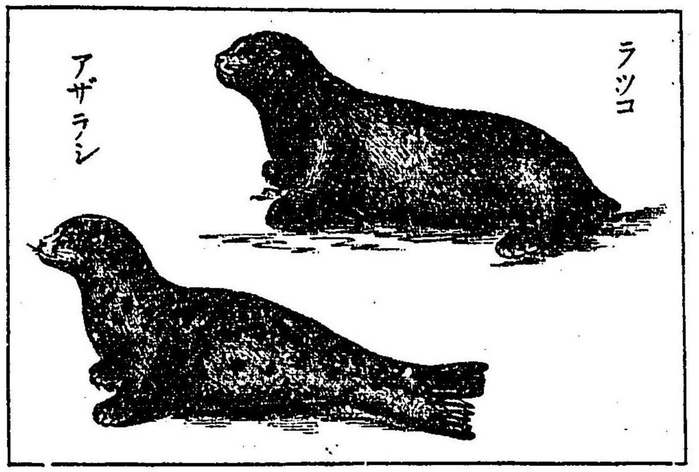
千島群島は、根室國の海上より、斜に東北に連亙せる三十餘島の一群彙にして、其の西南に在るを國後島と云ふ。北

端に、瑞岳ありて、南端に泊村あり。國後の東南に、色丹島あり。色丹の斜古丹は、頗る良灣とす。又、國後の東北に、擇捉島あり。千島群島中の最大島とす。此の島は、往年近藤守重等の渡航して、アイノを撫育せし所なり。擇捉の東北に、得撫・新知・幌筵等の島ありて、最東北に在るものを占守島とす。千島海峽を隔てゝ、東塞加半島のロパカ(LOPATKA)岬と相對す。其の間僅かに三里なり。幌筵の北方にある阿瀨度島は、實に、我が國の極北とす。

千島之圖

千島群島は、域内に火山脈連亙し、平地少なし。海岸は險惡にして、浪荒く、河は、短

北州の海岸



かくして、流れ急なり。鰺の漁利多く、鰮虎海豹・臘纈等の海獸に富む。又、陸には、羆・熊・貂等の獸ありて、エトピリカ・ナシマガラス等の鳥あり、且つ大に硫黄を產す。

北州區括論

北州の海岸　北州の西南に在りて、形魚尾の如きは、即ち、渡島國にして、之を渡島半島と稱す。其の西南の岬角は、白神岬と稱し、陸奥の龍飛岬と相呼應す。其の間は、中の潮と稱し、潮勢甚だ急なり。又、東南の岬角は、惠山岬と相對す。白神・惠山兩岬の中間に函館灣あり。惠山岬を西北に廻りて進めば、噴火灣あり。一に内浦と稱す。灣内に臘纈の產あり。概して、砂濱とす。灣の東岸の岬角は、綿鞆岬と稱す。此れより海岸弓狀に屈曲して、襟裳岬に至る。岬邊は、峻峭にして、巉岩削立す。往時は、此の岬より西を口蝦夷と稱し、東を奥蝦夷と稱せり。襟裳岬より、海岸東北に曳き、納紗布岬となる。其の間に、厚岸灣あり。十勝の海岸には、小沼多し、沿岸概して砂濱なり。

納紗布岬を西に廻れば、根室灣あり。知床半島、東北に突出す。其の間、概して砂濱にして、野付砂地の小突出あり。知床半島の盡端は、即ち、知床岬にして、該岬を廻れば、オコツク海の濱となる。該岬より、宗谷岬に至る間は、砂丘の濱にして、海岸平直畫一なり。南部砂丘脈の内側に、一帶の沼湖あり。此の邊、海岸の性質、九十九里濱と相類す。宗谷岬より、西南に廻れば、日本海の濱にして、出入屈曲少